

(令和元年7月実施)

第46回

市民アンケート調査報告書

—— あなたと市政を結ぶ ——



目 次

I	調査概要	
1	調査目的	5
2	調査内容	5
3	調査の設計	5
4	回収結果	5
5	報告書内のデータの記述について	6
6	回答者の属性	7
II	調査結果	
1	あなたはご存じですか？	10
2	浜松市歌について	18
3	子育て支援について	22
4	SDGsの達成に向けて	
4-1	SDGsの認知度	28
4-2	再生可能エネルギーについて	30
4-3	FSC森林認証について	36
4-4	多文化共生について	42
4-5	スポーツの推進について	48
4-6	女性の活躍について	54
4-7	生物多様性について	60
4-8	防災対策について	66
4-9	消費生活について	78
5	浜松市戦略計画 2019 について	
5-1	市政に関する現状認識について	90
5-2	市の取り組みの満足度評価について	94
	付録 調査票	

I 調查概要

1 調査目的

本調査は、昭和 45 年度から始まり、本年度で 46 回目※になる。社会情勢の変化に伴う市民の生活意識や市政に対する関心やニーズなどを把握するため、毎年各部署から提出された希望調査項目を精査した後、調査項目を決定し、属性などにより集計した調査結果を詳細に分析し、今後の施策の方向性や事業展開など行政のさまざまな施策の基礎資料として活用しているものである。

※昭和 45 年度 1 回目、48 年度 2 回目、50 年度 3 回目、52 年度 4 回目（以降毎年実施）

2 調査内容

- (1) あなたはご存じですか？
- (2) 浜松市歌について
- (3) 子育て支援について
- (4) SDG s の達成に向けて
 - (4-1) SDG s の認知度
 - (4-2) 再生可能エネルギーについて
 - (4-3) F S C 森林認証について
 - (4-4) 多文化共生について
 - (4-5) スポーツの推進について
 - (4-6) 女性の活躍について
 - (4-7) 生物多様性について
 - (4-8) 防災対策について
 - (4-9) 消費生活について
- (5) 浜松市戦略計画 2019 について
 - (5-1) 市政に関する現状認識について
 - (5-2) 市の取り組みの満足度評価について

3 調査の設計

- (1) 調査地域 浜松市全域
- (2) 調査対象 満 18 歳以上の男女 3,000 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 質問紙郵送法
- (5) 調査期間 令和元年 7 月 9 日～7 月 31 日
- (6) 調査機関 株式会社 浜名湖国際頭脳センター

4 回収結果

発送数 3,000 人

有効回収数 1,305 人 (43.5%)

白票を除いた回答数を有効回収数とした。

5 報告書内のデータの記述について

- (1) 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が100%にならないことがある。
- (2) 基数とすべき実数は、図表中に「N」として記載した。比率はこの基数を100%として算出している。
- (3) 質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常100%を超える。
- (4) 図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューターの処理の都合上、省略している箇所がある。
- (5) クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (6) 本調査は標本調査であり、母集団（浜松市内に住む満18歳以上の男女）との間に誤差（標本誤差）がある。標本誤差は、信頼度を95%と設定した場合、下記の計算式で算出できる。信頼度95%とは100回同じ調査を行えば、95回はその誤差の範囲内に収まるということの意味する。一般的に国などの公的機関が行うアンケート調査では95%の信頼度を用いることが多い。

標本誤差の計算式

$$\pm 1.96 \times \sqrt{\frac{\text{母集団数} - \text{回答者数}}{\text{母集団数} - 1} \times \frac{\text{回答割合}(\%) \times (100 - \text{回答割合}(\%))}{\text{回答者数}}}$$

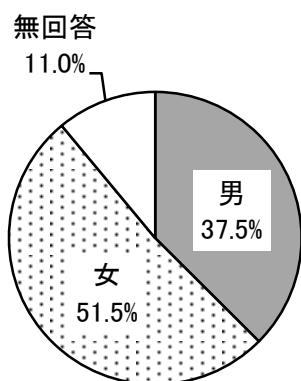
※母集団数は、住民基本台帳による満18歳以上の浜松市の人口674,306人（令和元年7月1日現在）

回答者数は、図表中に「N」として記載

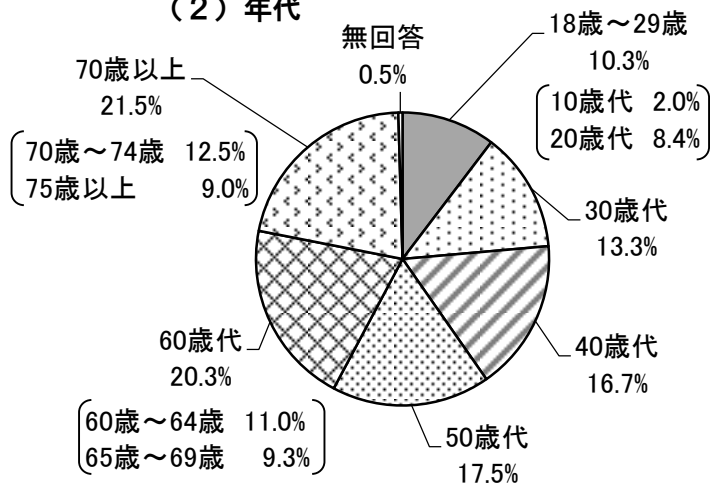
6 回答者の属性

N=1,305

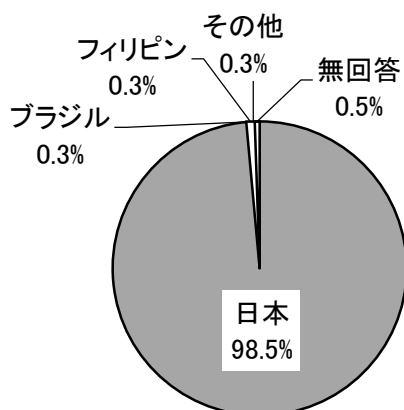
(1) 性別



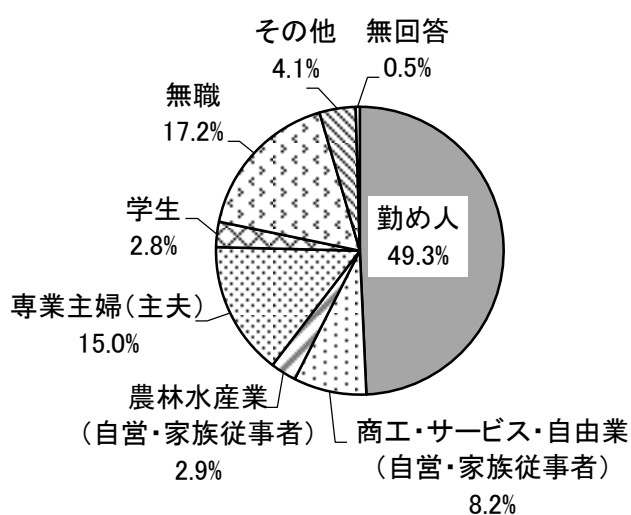
(2) 年代



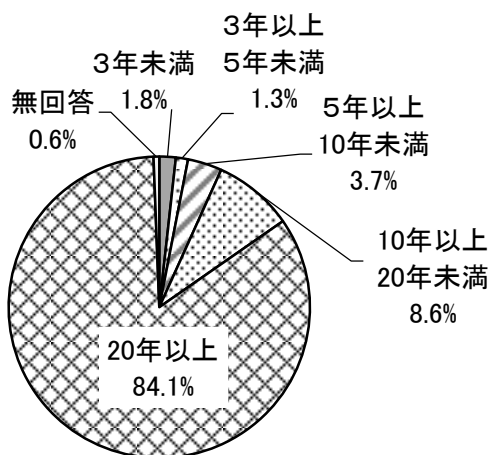
(3) 国籍



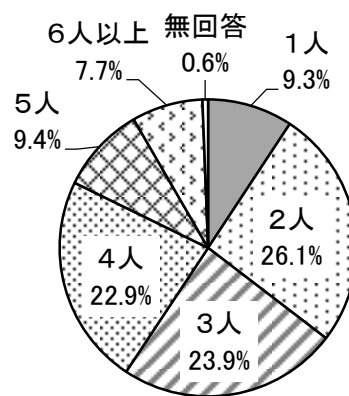
(4) 職業



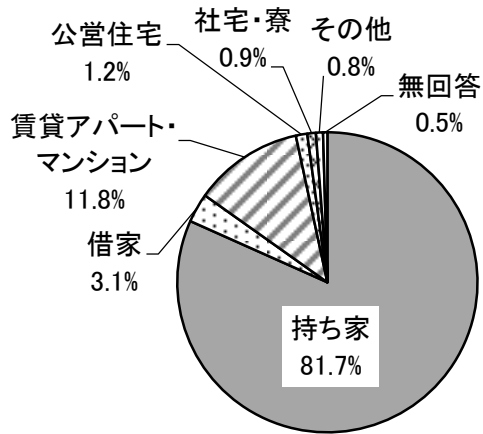
(5) 居住年数



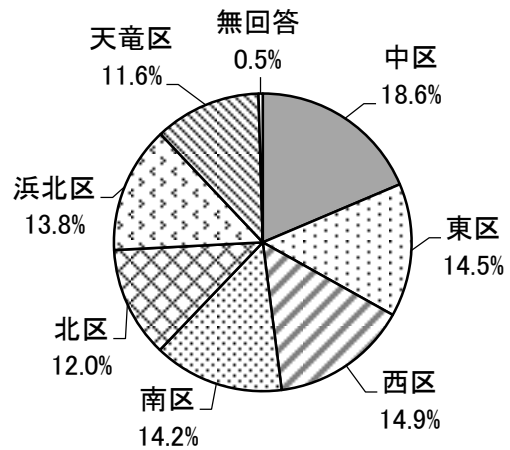
(6) 家族数



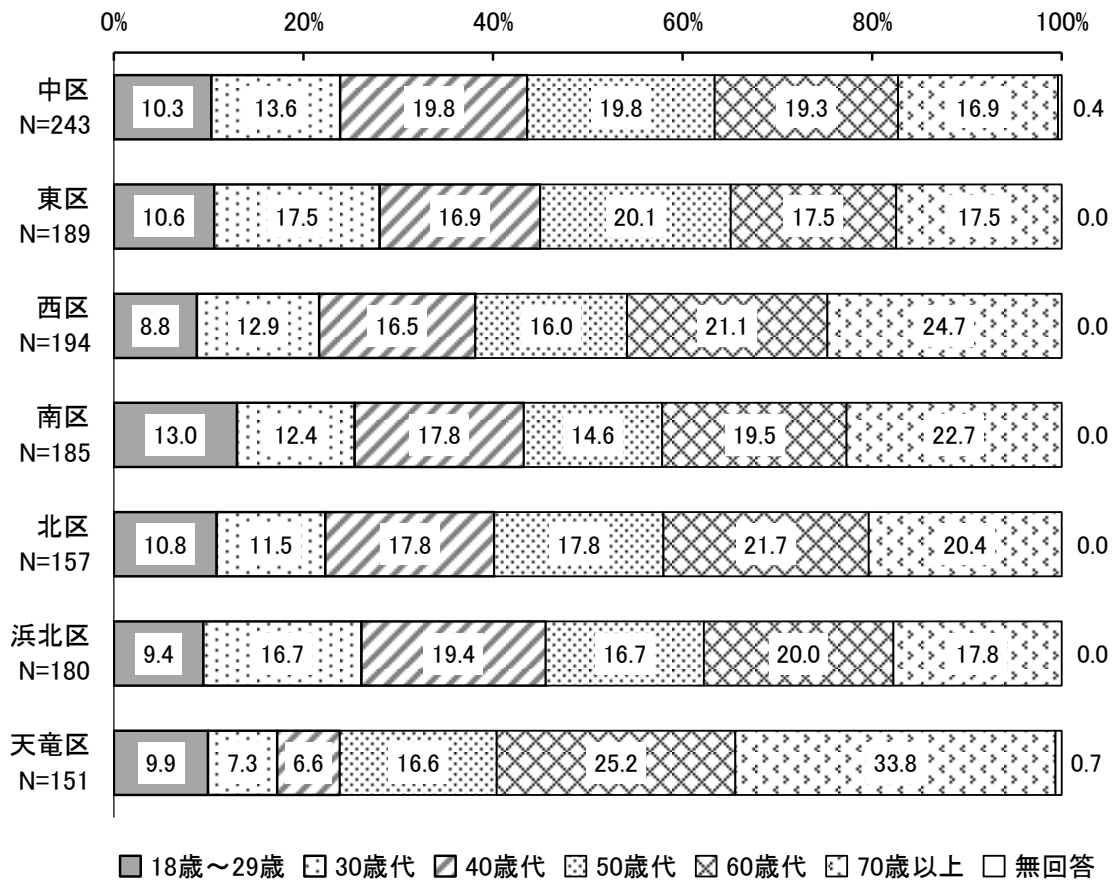
(7) 居住形態



(8) 行政区



(9) 行政区別年代



II 調查結果

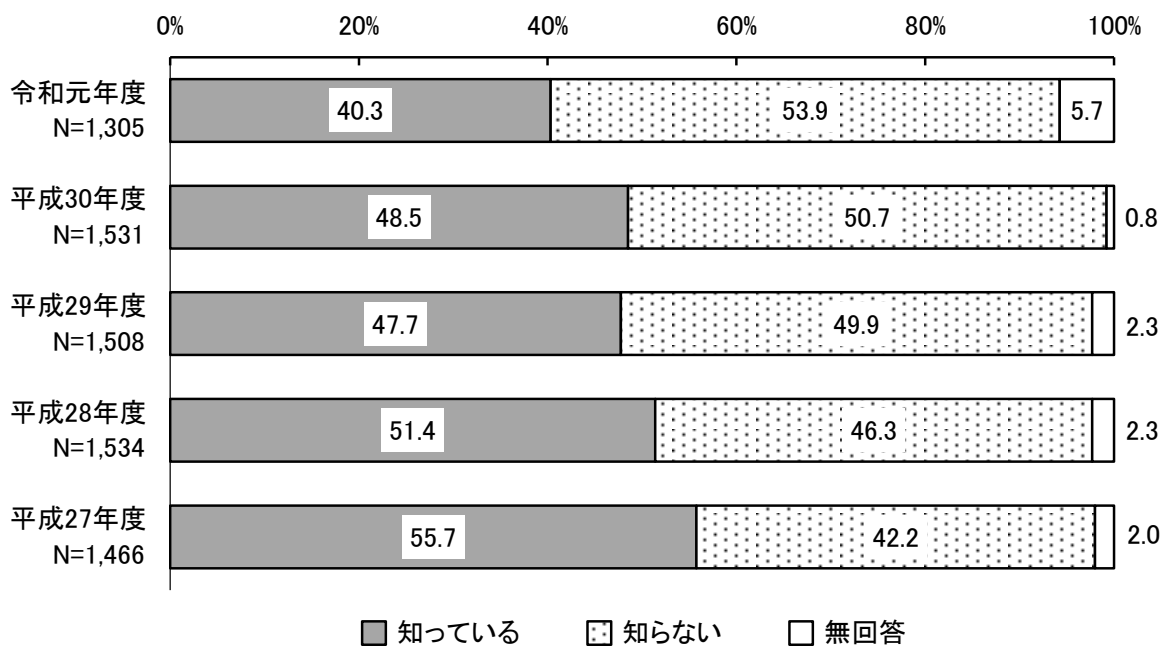
1 あなたはご存じですか？

問1 次の項目について、あなたはご存じですか。

① 市制記念日

※浜松市では市制施行を記念して、7月1日を市制記念日として定めています。

「市制記念日」を知っている人は40.3%



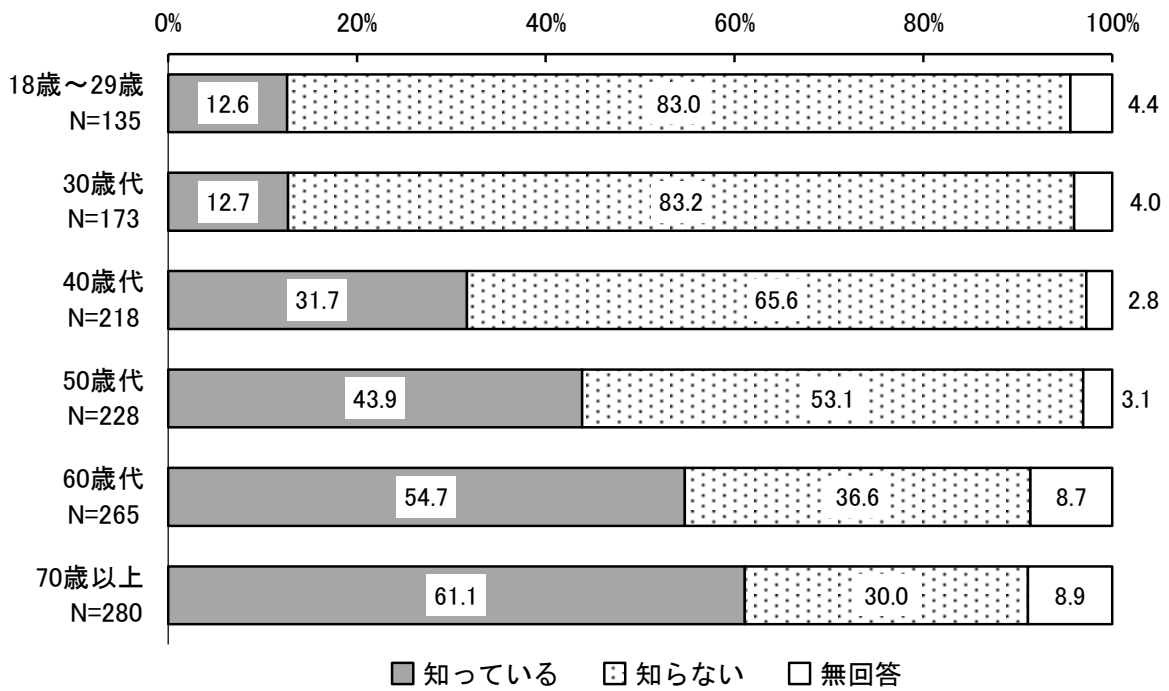
「知っている」が40.3%、「知らない」が53.9%で、知っている人が半数以下という結果であった。平成30年度調査と比較しても、「知っている」が8.2ポイント減少した。

年代別で見ると、年代が高くなるほど認知度が高い傾向があるが、知っている人が半数を超えるのは60歳代以上である。それに比べて30歳代以下では80%以上が「知らない」と回答しており、若い世代の認知度が低いことが示された。

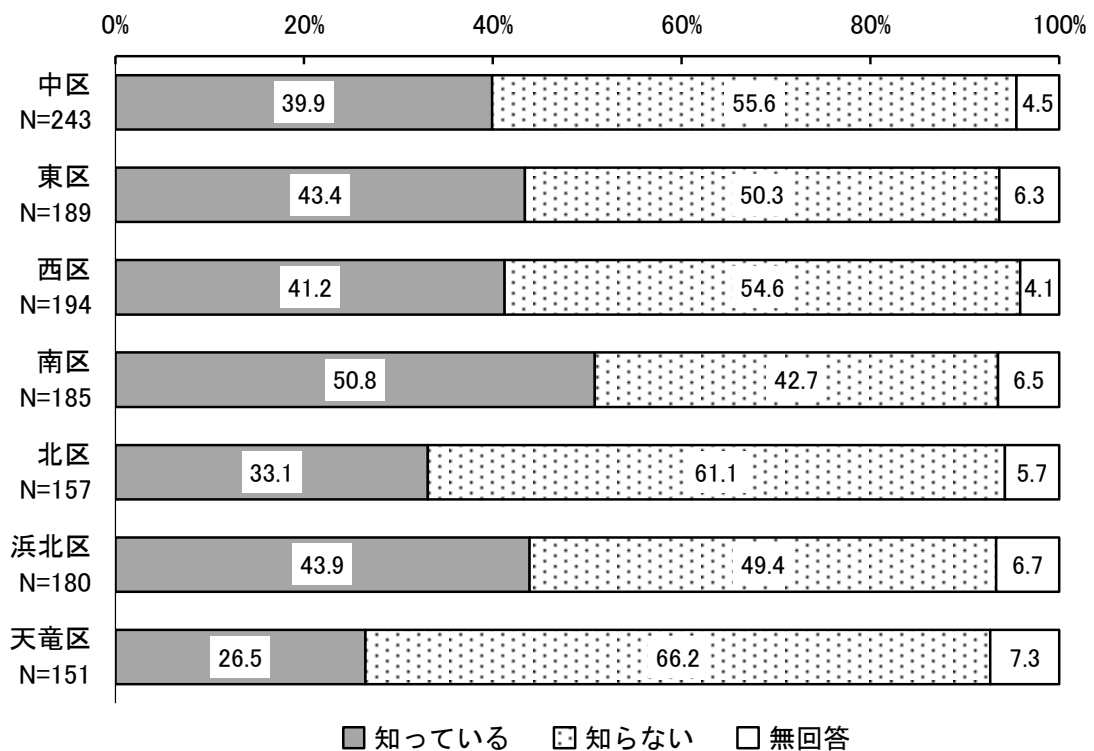
行政区別で見ると、最も認知度の高い南区が50.8%、最も認知度の低い天竜区が26.5%であり、行政区によって差が開いた。

今回の結果から、若い世代を主として、市民全体の認知度向上が必要であることが示された。そのためには、学校教育などでふるさとについて学ぶ機会を増やし、子供たちの地域への愛着や市政についての関心を深めることや、さまざまな年代や地域に向けた広報媒体の検討、市制記念式の魅力向上などが課題である。また、市制記念日と市歌(18~19ページ)の認知度を比較すると、全体の認知度にあまり差はないものの、年代別の認知度は傾向が逆であることから、市制記念日と市歌を併せた効果的な認知度向上策を検討したい。

【年代別】



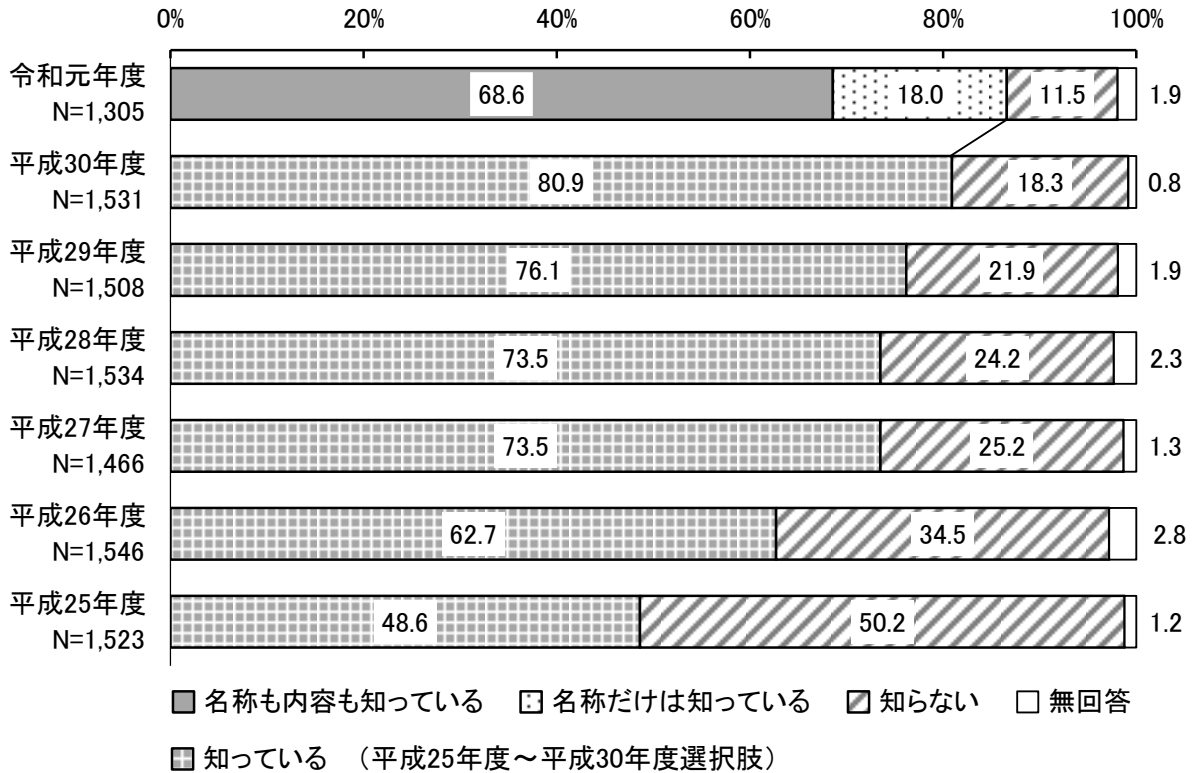
【行政区別】



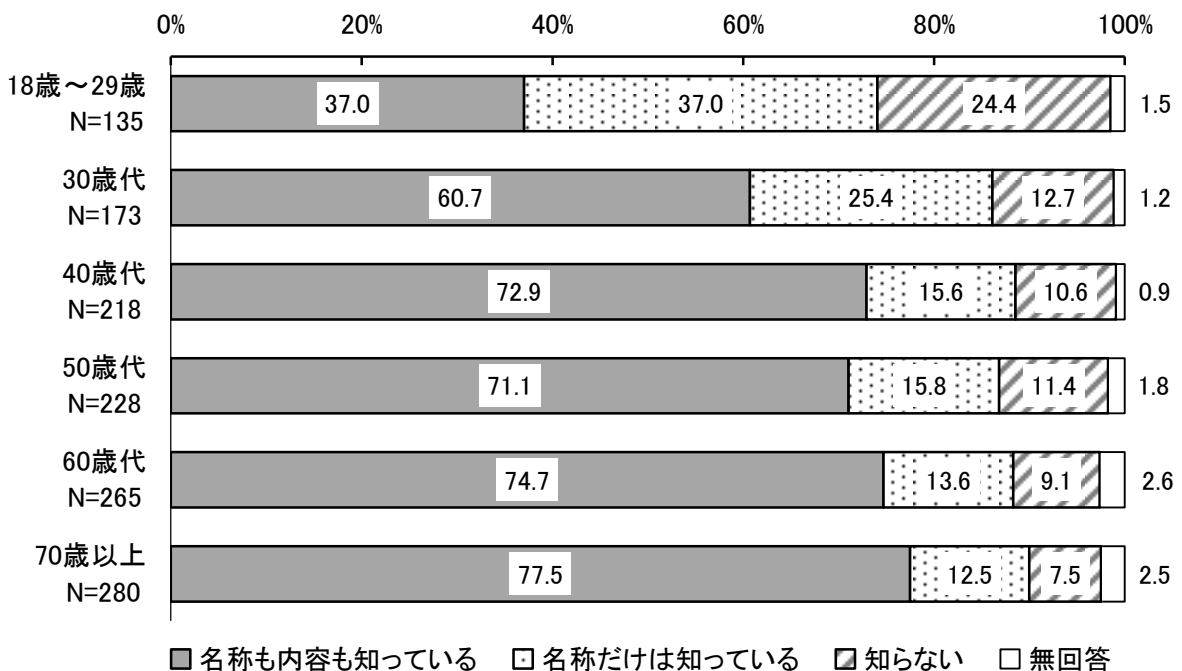
② 協働センター

※2012年4月から地域自治センターが、2013年4月から公民館が、それぞれ「協働センター」となりました。
 ※協働センターは、市民に身近な行政サービス提供組織として、地域づくりや生涯学習、窓口サービスなどの業務を行っています。

「協働センター」の『認知度』は86.6%



【年代別】

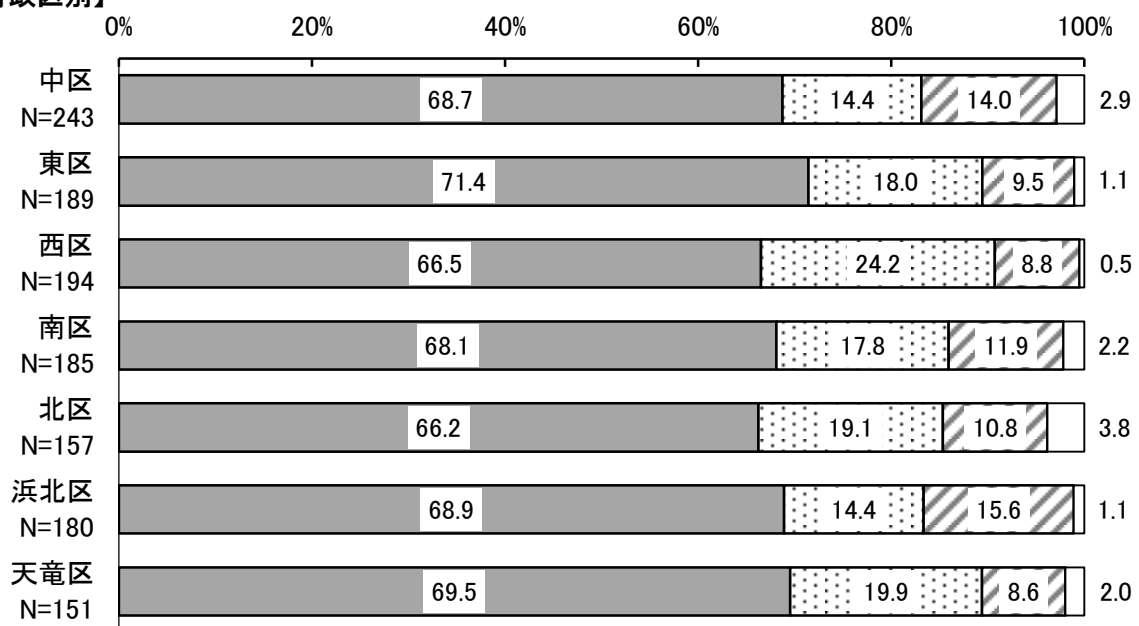


「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は86.6%であった。平成30年度調査において「知っている」と回答した人の割合80.9%を上回る結果となった。(平成30年度調査では、選択肢が「知っている」「知らない」の2つのみであった。)

年代別でみると、年代が高い方が認知度が高い傾向にあり70歳以上が90.0%と最も高かった。

「名称も内容も知っている」と回答した人の割合をみると、行政区別では、東区が最も高く71.4%、北区が最も低く66.2%という結果となった。なお、職業別では学生で「名称も内容も知っている」と回答した人の割合が35.1%と低く、名称は知っていても内容までは知らない人が多い。また、居住年数別では3年未満及び3年以上5年未満で「名称も内容も知っている」と回答した人の割合が低いことから、引き続き認知度向上と利用促進に努める必要がある。

【行政区別】



■ 名称も内容も知っている □ 名称だけは知っている ▨ 知らない □ 無回答

【職業別】

(単位:%) 【居住年数別】

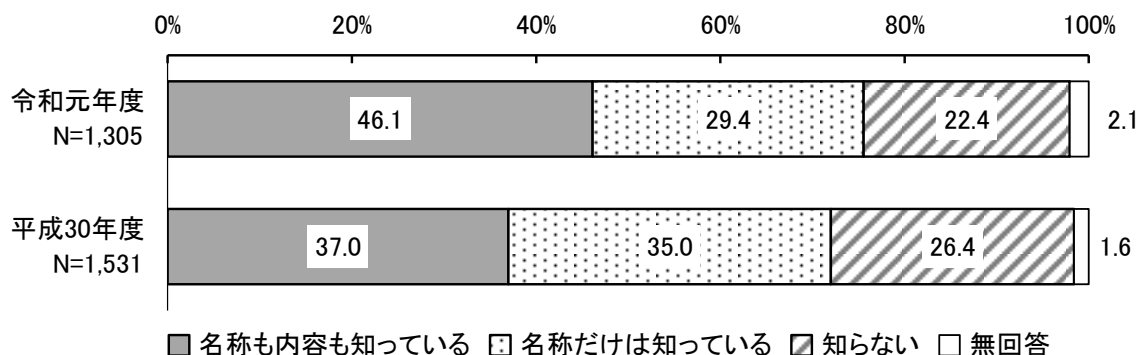
(単位:%)

職業別	職業	N	【職業別】				居住年数別	居住年数	N	【居住年数別】			
			名称も内容も知っている (%)	名称も内容も知っているが、名称だけ (%)	知らない (%)	無回答 (%)				名称も内容も知っている (%)	名称も内容も知っているが、名称だけ (%)	知らない (%)	無回答 (%)
職業別	勤め人	643	64.7	20.8	13.2	1.2	居住年数別	3年未満	23	26.1	34.8	34.8	4.3
	商工・サービス・自由業	107	67.3	19.6	11.2	1.9		3年以上5年未満	17	29.4	35.3	35.3	0.0
	農林水産業	38	76.3	10.5	7.9	5.3		5年以上10年未満	48	60.4	22.9	16.7	0.0
	専業主婦(主夫)	196	80.1	10.7	7.7	1.5		10年以上20年未満	112	56.3	23.2	16.1	4.5
	学生	37	35.1	45.9	18.9	0.0		20年以上	1,097	71.7	16.7	9.8	1.7
	無職	225	76.0	11.6	8.9	3.6							
	その他	53	64.2	22.6	9.4	3.8							

③ ユニバーサルデザイン

※ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、国籍などに関係なく、誰もが安全で安心、快適な暮らしができるように「人づくり」や「ものづくり」、「環境づくり」を行っていかこうとする考え方のことです。

「ユニバーサルデザイン」の『認知度』は 75.5%



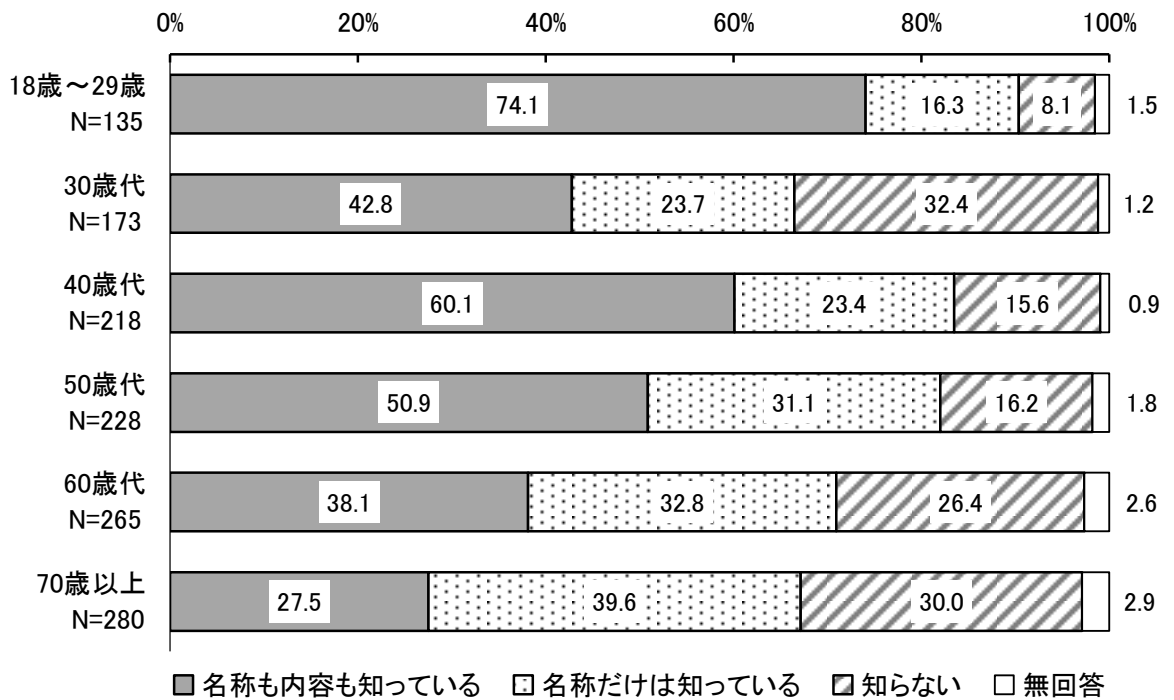
ユニバーサルデザインの理解度である「名称も内容も知っている」は 46.1%で、平成 30 年度調査と比較して 9.1 ポイント増加した。また、「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせたユニバーサルデザインの『認知度』は 75.5%で、平成 30 年度調査と比較して、3.5 ポイント増加した。

年代別でみると、「名称も内容も知っている」の回答割合は 18 歳～29 歳が 74.1%と、他年代と比較して高い結果となった。これは、学校教育においてユニバーサルデザイン学習を継続的に取り入れている成果であると考えられる。また、40 歳代、50 歳代についても 50%以上であり、特に 40 歳代については 60.1%と非常に高かった。これらのことから、ユニバーサルデザインが子供を通じて親世代にも浸透してきていると推察される。

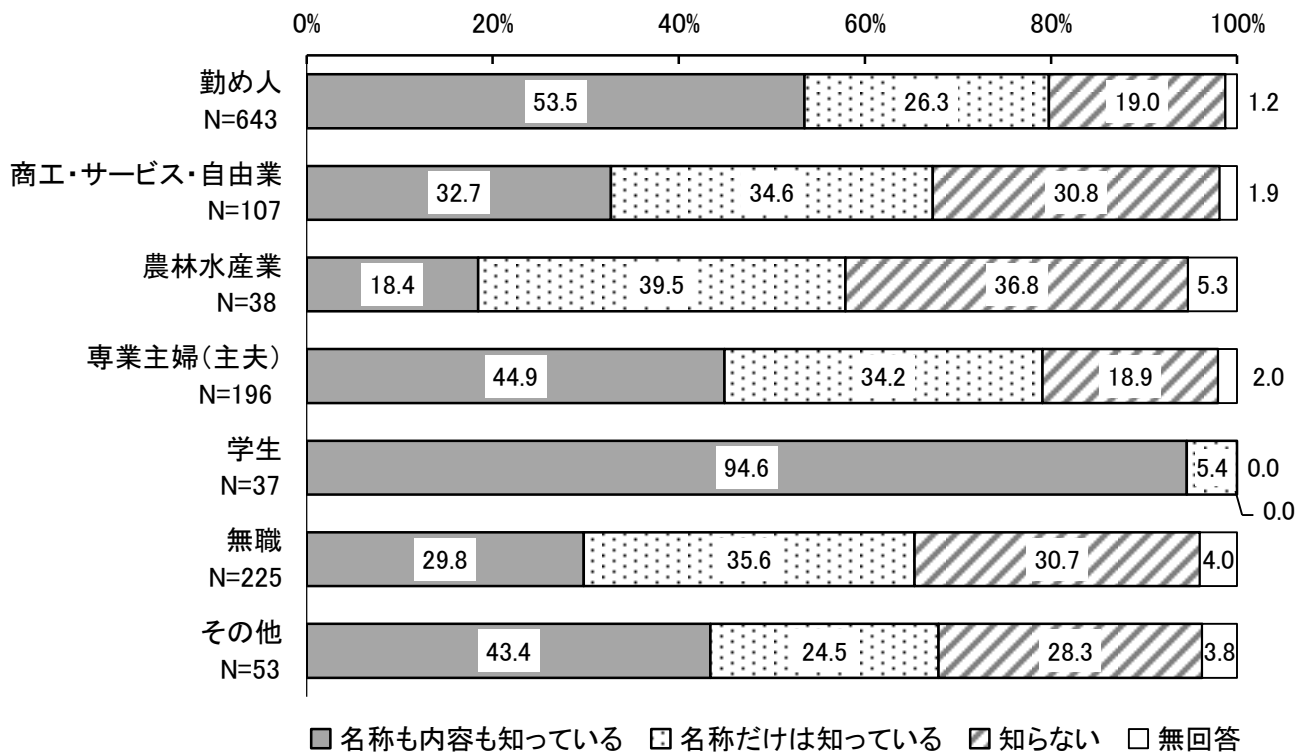
職業別でみると、「名称も内容も知っている」の回答割合は、学生が 94.6%と最も高く、次いで勤め人の 53.5%となった。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催を来年に控え、外国人を含めたすべての人が訪れやすく、安心して快適に暮らすことができる社会がクローズアップされており、今後さらにユニバーサルデザインの認知度や意識が高まっていくことが期待される。

【年代別】



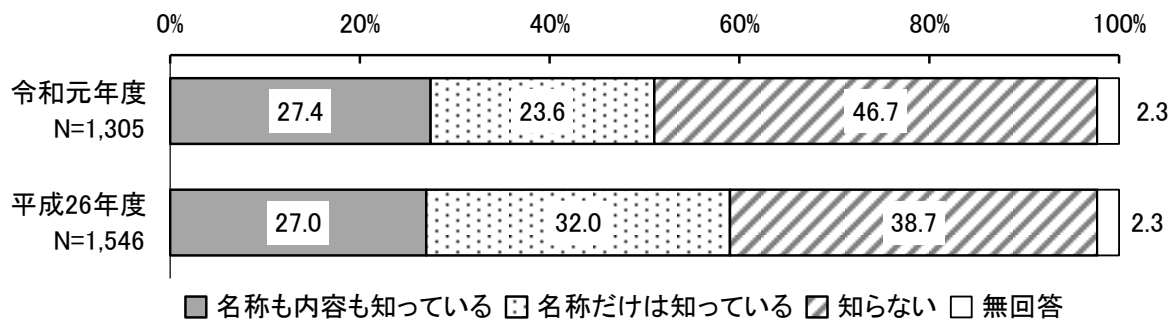
【職業別】



④ 浜松市快適で良好な生活環境を確保する条例（通称：市民マナー条例）

※歩きタバコ・吸い殻や空き缶などのポイ捨て・落書きの禁止や、飼い犬・ねこのふんの適正な処理、身体障害者用駐車場の適正な利用を定めた条例です。

「浜松市快適で良好な生活環境を確保する条例」の『認知度』は51.0%



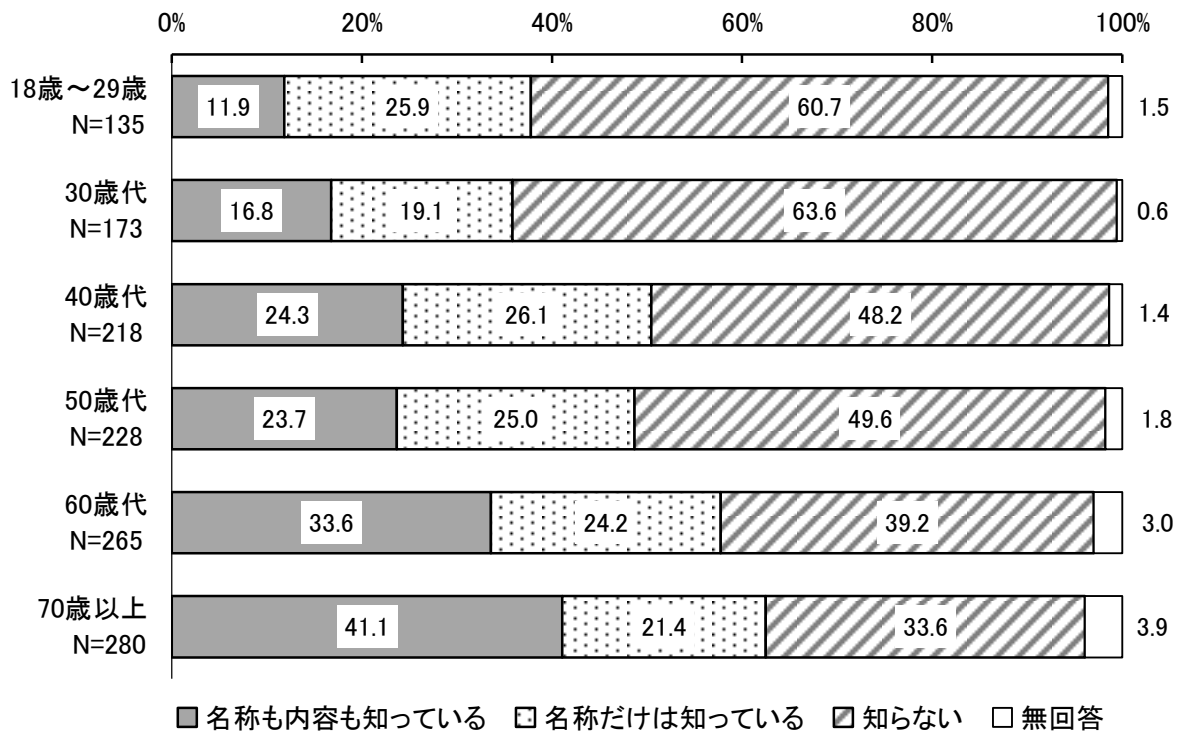
「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は51.0%と半数を上回っているが、平成26年度調査と比較すると8.0ポイント減少した。

年代別でみると、年代が高くなるほど『認知度』が高い傾向がみられ、70歳以上では62.5%と最も高かった。一方、18歳～29歳、30歳代では「知らない」の回答が過半数を占めており、若い世代の『認知度』は低いといえる。

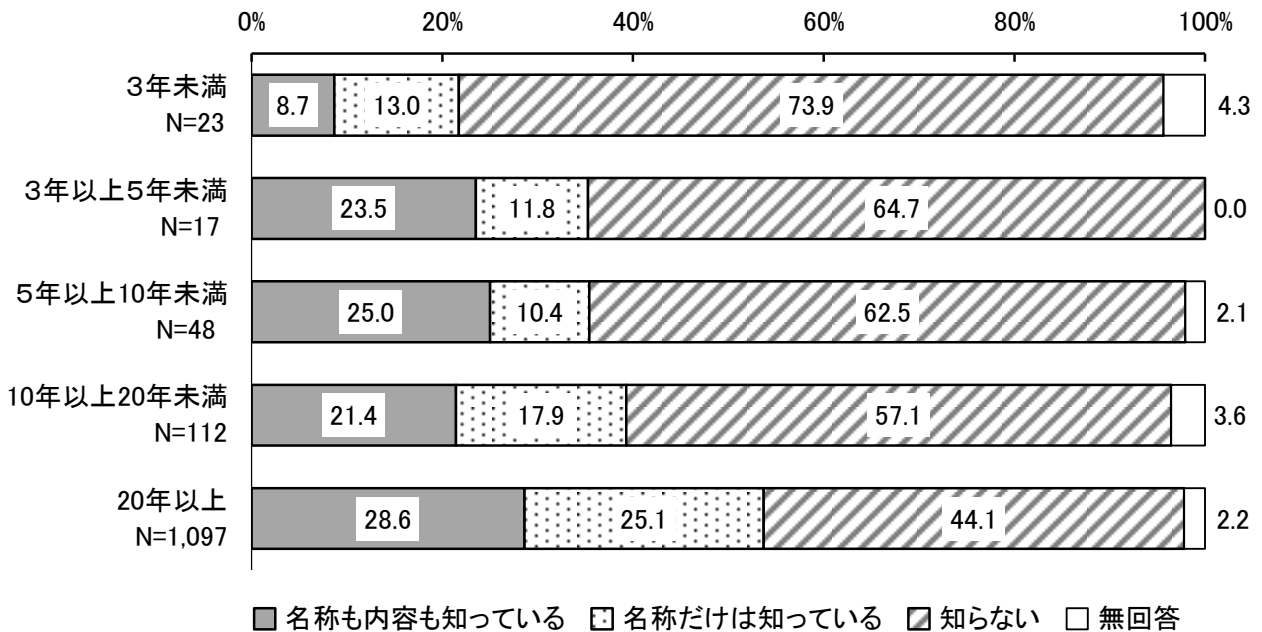
居住年数別でみると、20年以上の『認知度』が53.7%と半数を上回っているのに対し、3年未満は21.7%にとどまり、大きな差がみられた。

条例の周知啓発については、区役所・協働センターでの啓発ポケットティッシュの配布、JR浜松駅構内や遠州鉄道の電車内・バス内へのポスター掲示などを実施しているところであるが、条例の認知度は前回調査より低下しており、街頭ビジョンや駅内モニターといったデジタルサイネージ（電子看板）を活用するなど、取り組みの一部を見直し、特に認知度の低い若い世代への普及啓発を図っていく。

【年代別】



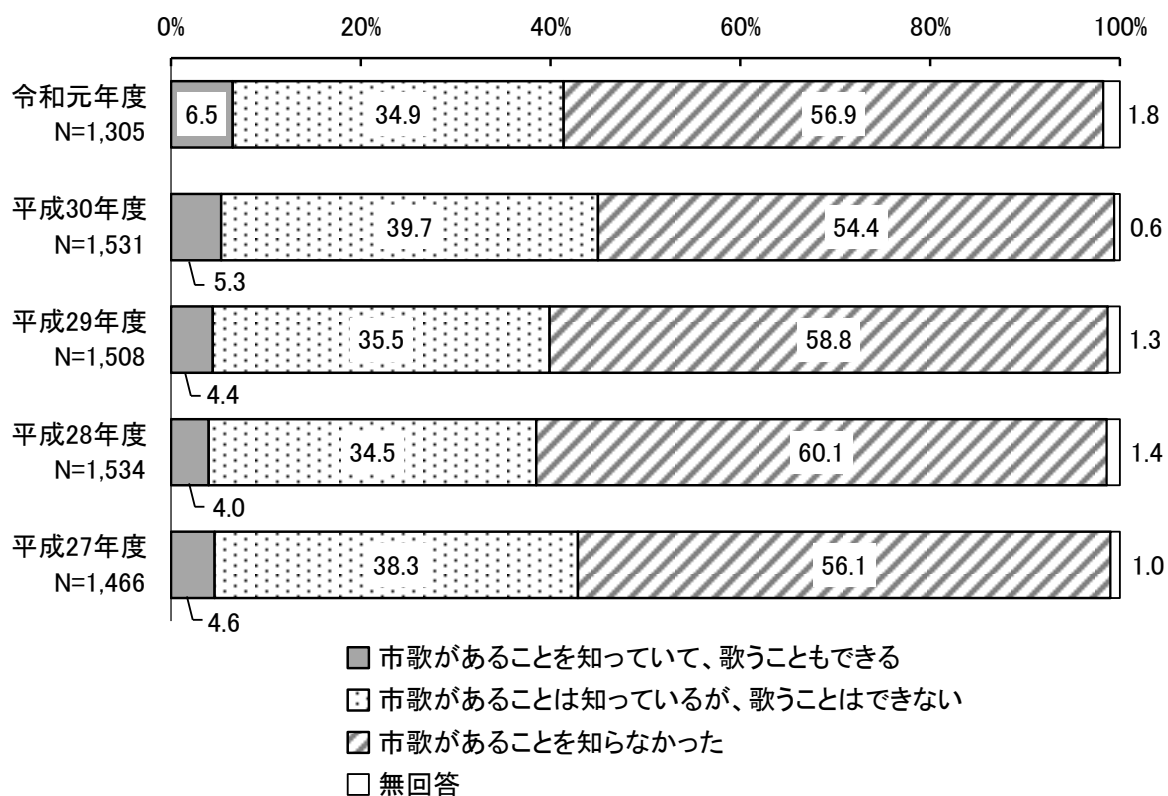
【居住年数別】



2 浜松市歌について

問2 浜松市では、2007年、新たに浜松市歌を制定しました。あなたは市歌をご存じですか。また、歌うことができますか。(1つだけ○を付けてください)

「浜松市歌」を『知っている』人は41.4%

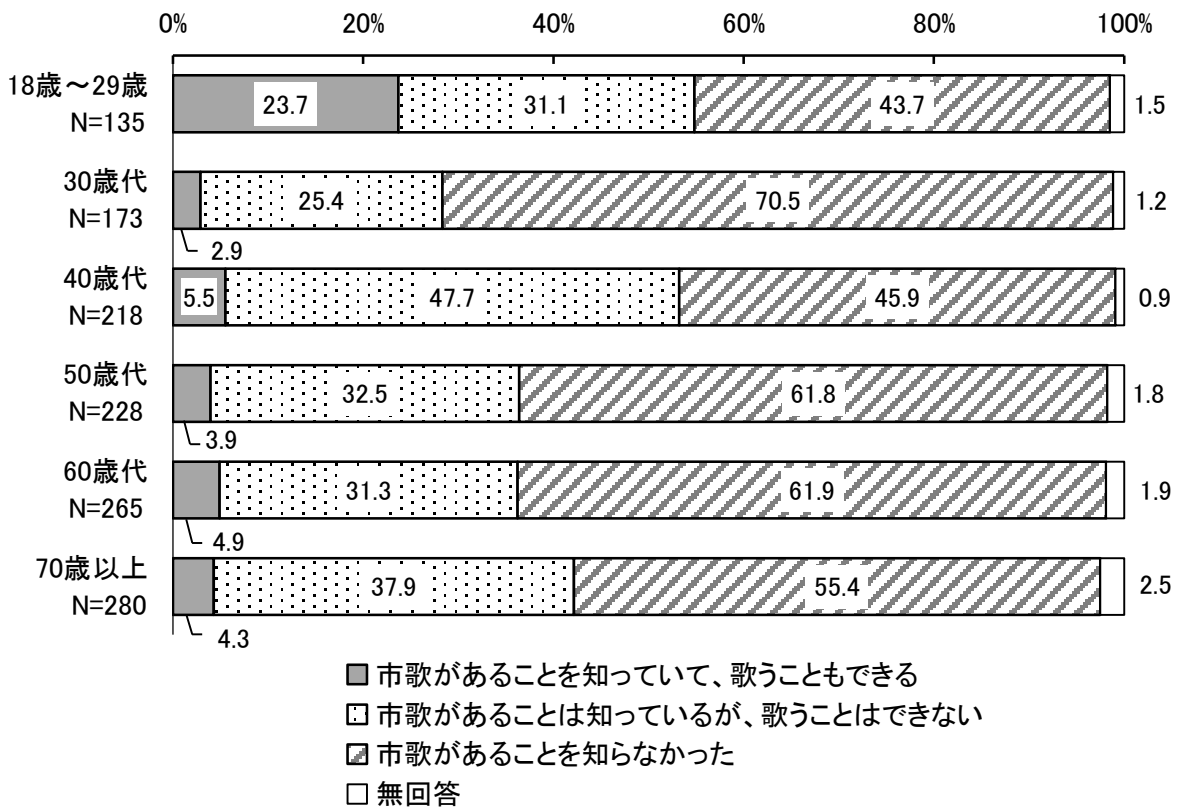


「市歌があることを知っていて、歌うこともできる」は6.5%であり、平成30年度調査と比較すると1.2ポイント増加したものの、「市歌があることは知っているが、歌うことはできない」の34.9%を合わせた『知っている』の割合は41.4%となり3.6ポイント減少した。平成27年度調査からの5年間を通して『知っている』の割合に大きな変化はない。

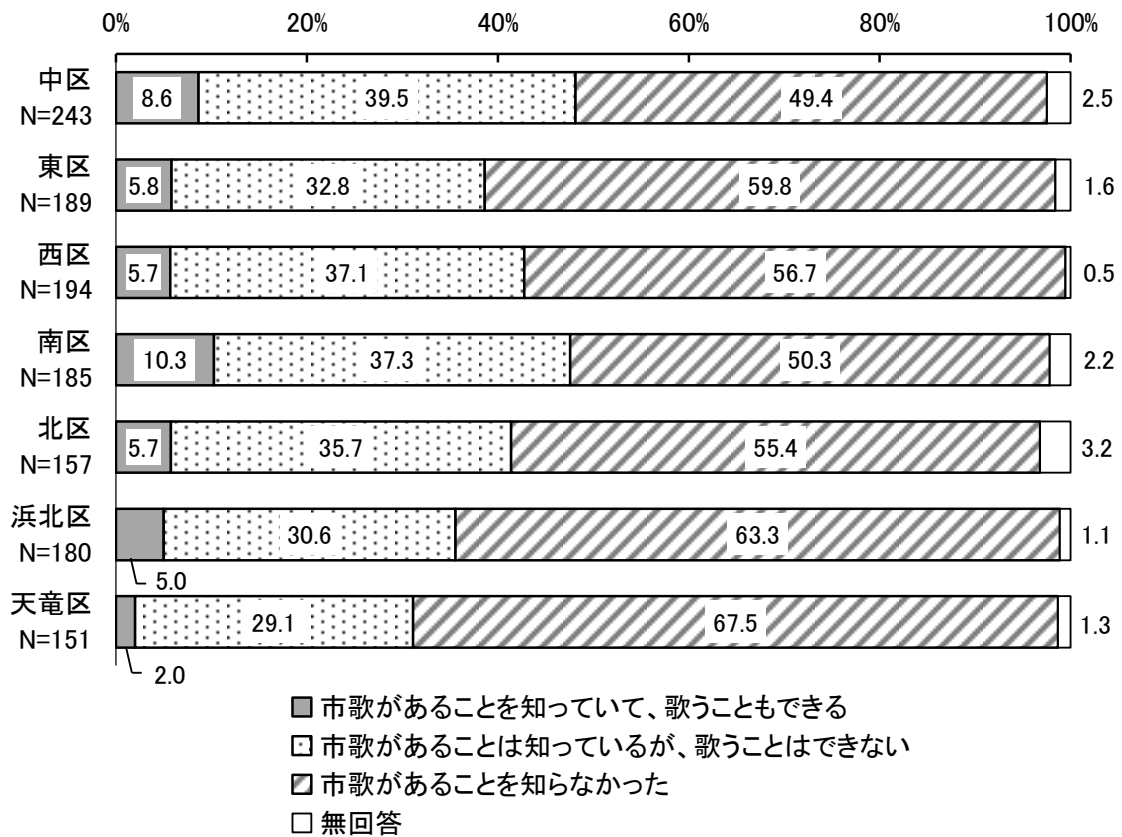
年代別でみると、『知っている』は18歳～29歳と40歳代で5割を超え、他の年代と比べ高かった。また「市歌があることを知っていて、歌うこともできる」は18歳～29歳で23.7%と他の年代と比べ突出して高かった。

行政区別でみると、『知っている』は中区(48.1%)が最も高く、最も低かった天竜区(31.1%)と17ポイントの差が開いた。

【年代別】

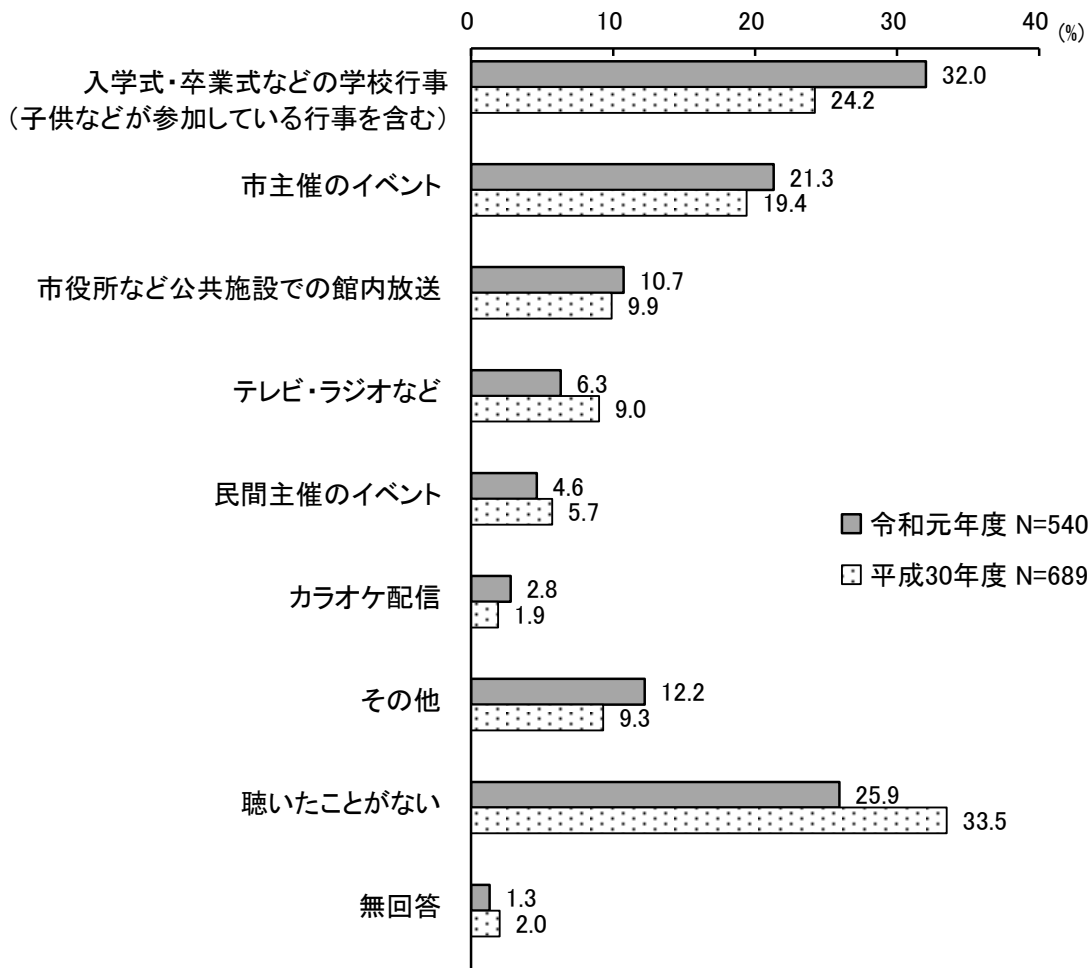


【行政区別】



問3 問2で「1. 市歌があることを知っていて、歌うこともできる」「2. 市歌があることは知っているが、歌うことはできない」とお答えされた方に伺います。市歌をどこかで聞いたことがありますか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

入学式・卒業式などの学校行事を通じての浸透が有効



「入学式・卒業式などの学校行事」が32.0%と最も高く、平成30年度調査と比べて7.8ポイント増加した。

年代別では「聴いたことがない」を除くと50歳代以下で「入学式・卒業式などの学校行事」が最も高く、70歳以上では「市主催のイベント」が最も高かった。60歳代では、この2項目が同率であった。

問2と問3の結果から、入学式・卒業式や市内の小学校5年生全員が参加する「こども音楽鑑賞教室」などの学校行事で市歌を歌っていること、またそれに伴って多くの児童や生徒の家族が耳にしていることが市歌の認知度向上に非常に効果的であると考えられる。引き続き、学校教育と連携して市歌の普及を進めていきたい。

一方で、全体の認知度はやや下がっているため、市制記念日と併せてさまざまな年代や地域に向けた効果的な普及方法を検討したい。

【性別・年代別】

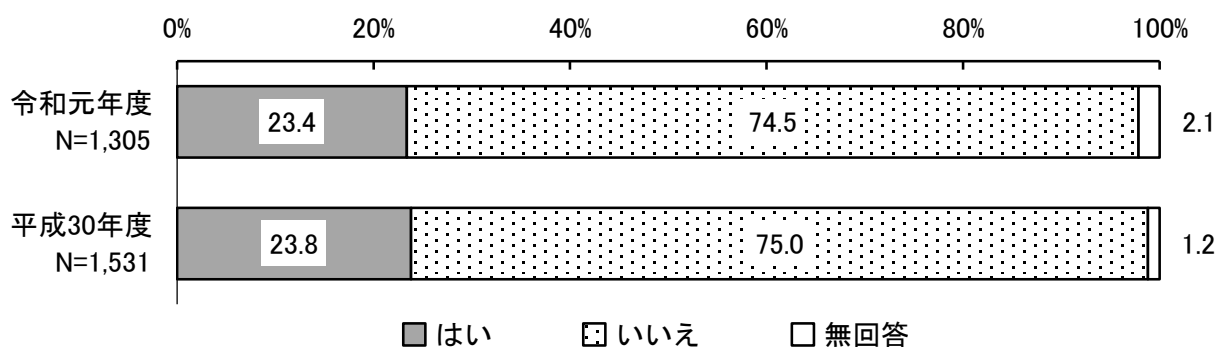
(単位:%)

		入学式・卒業式などの学校行事 (子供などが参加している行事を含む)	市主催のイベント	市役所など公共施設での館内放送	テレビ・ラジオなど	民間主催のイベント	カラオケ配信	その他	聞いたことがない	無回答
全体 N=540		32.0	21.3	10.7	6.3	4.6	2.8	12.2	25.9	1.3
性別	男性 N=189	27.0	21.7	10.6	9.0	3.2	3.7	5.8	32.8	1.1
	女性 N=295	35.9	20.7	9.2	5.1	5.1	2.0	16.6	22.7	1.4
年代別	18歳～29歳 N=74	55.4	18.9	12.2	1.4	2.7	9.5	6.8	20.3	1.4
	30歳代 N=49	42.9	14.3	4.1	4.1	2.0	0.0	14.3	34.7	0.0
	40歳代 N=116	43.1	19.8	10.3	5.2	2.6	3.4	13.8	18.1	0.0
	50歳代 N=83	25.3	16.9	15.7	12.0	2.4	2.4	10.8	27.7	1.2
	60歳代 N=96	21.9	21.9	12.5	7.3	7.3	0.0	9.4	31.3	1.0
	70歳以上 N=118	14.4	29.7	8.5	6.8	7.6	1.7	16.1	28.8	3.4

3 子育て支援について

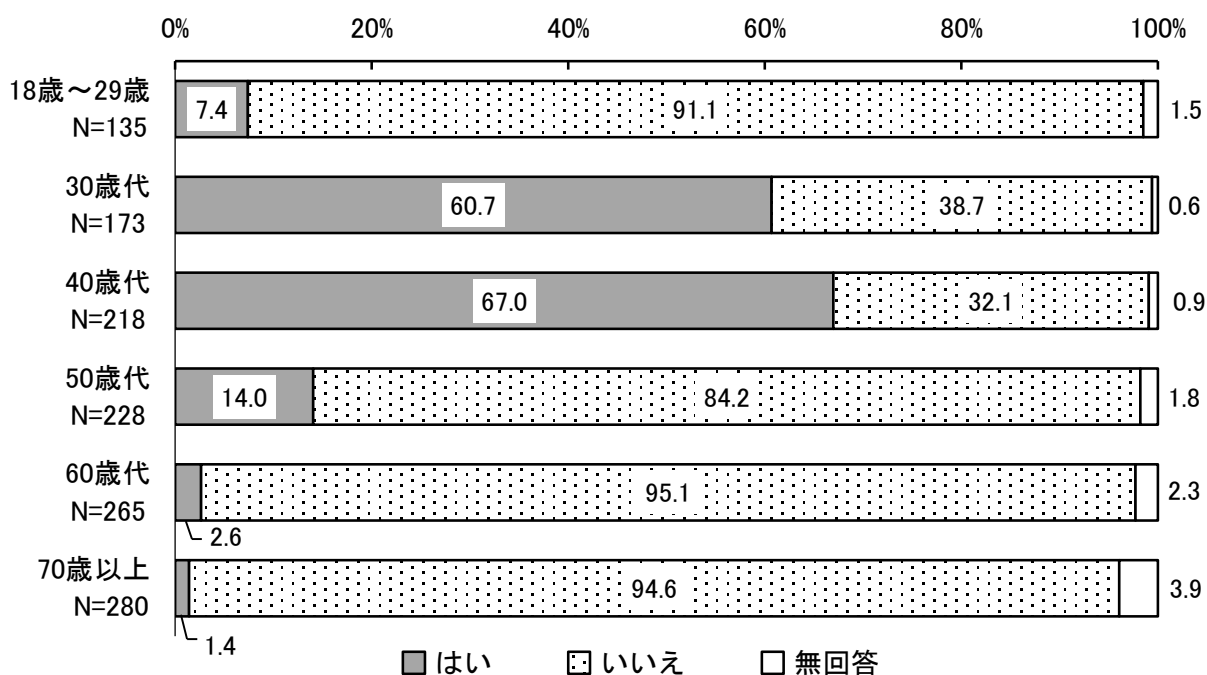
問4 現在、あなたは18歳までの子供を子育て中ですか。(1つだけ○を付けてください)

18歳までの子供を子育て中の方は23.4%



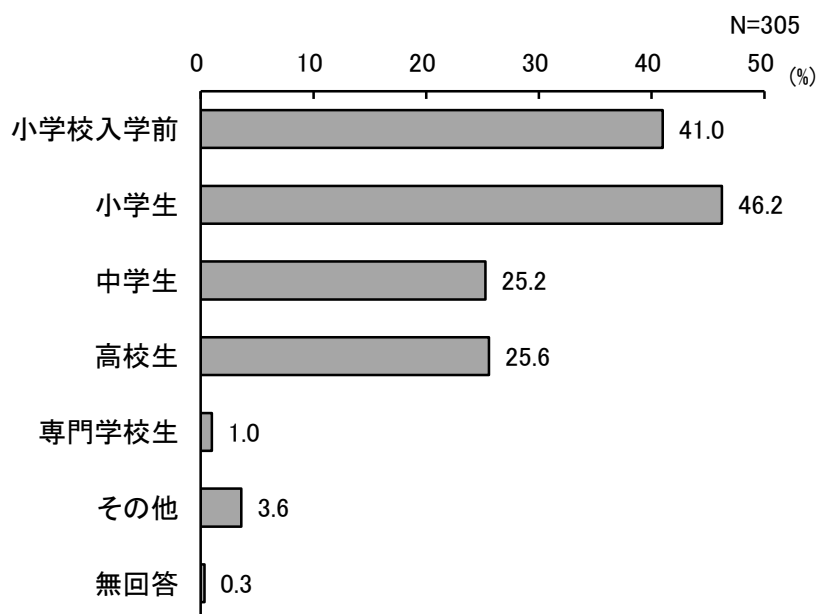
18歳までの子供を子育て中の方は23.4%であった。
年代別でみると、30歳代が60.7%、40歳代は67.0%となった。

【年代別】



問5 問4で「1. はい」とお答えされた方に伺います。あなたの子供は次のどれに該当しますか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

30歳代以下は「小学校入学前」、40歳代は「小学生」の子供が多い



全体では、「小学生」が46.2%と最も高く、次いで「小学校入学前」が41.0%となった。

年代別では、18歳～29歳は「小学校入学前」が100%、30歳代は「小学校入学前」が78.1%と最も高くなっている。40歳代は「小学生」が54.1%と最も高くなっている。

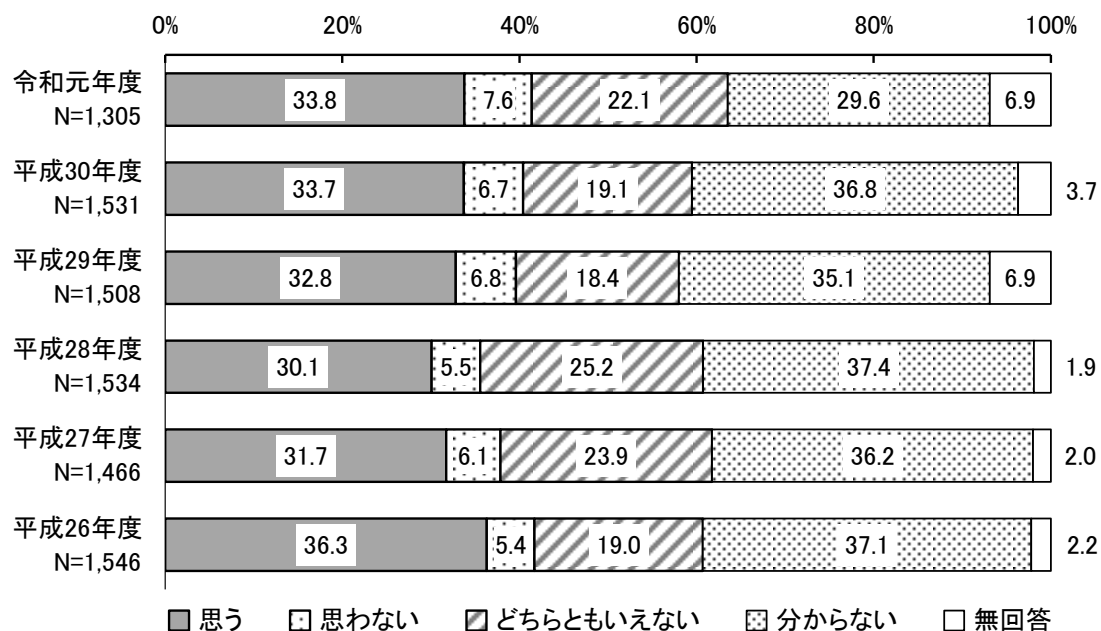
【年代別】

(単位: %)

		小学校入学前	小学生	中学生	高校生	専門学校生	その他	無回答
全体 N=305		41.0	46.2	25.2	25.6	1.0	3.6	0.3
年代別	18歳～29歳 N=10	100.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代 N=105	78.1	44.8	6.7	1.9	0.0	1.9	1.0
	40歳代 N=146	21.2	54.1	41.1	33.6	2.1	3.4	0.0
	50歳代 N=32	0.0	21.9	25.0	62.5	0.0	9.4	0.0
	60歳代 N=7	28.6	42.9	0.0	57.1	0.0	14.3	0.0
	70歳以上 N=4	0.0	75.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

問6 浜松市では、保育所整備、子育て支援ひろば、子供の医療費助成など子育てに関する支援を行っています。あなたは、このような支援によって、子育てがしやすくなっていると思いますか。（1つだけ○を付けてください）

市の支援により子育てがしやすくなっていると思う人は 33.8%

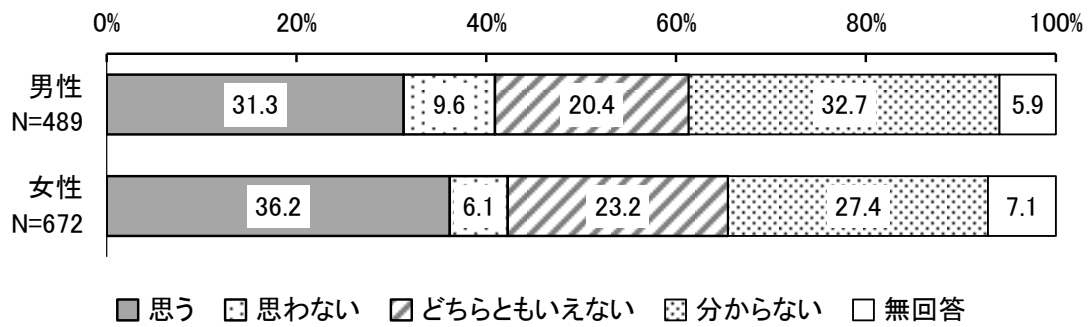


「市の支援により子育てがしやすくなっていると思うか」の問いでは、「思う」が 33.8%で、平成 30 年度調査の 33.7%、平成 29 年度調査の 32.8%から大きな変化は見られない。

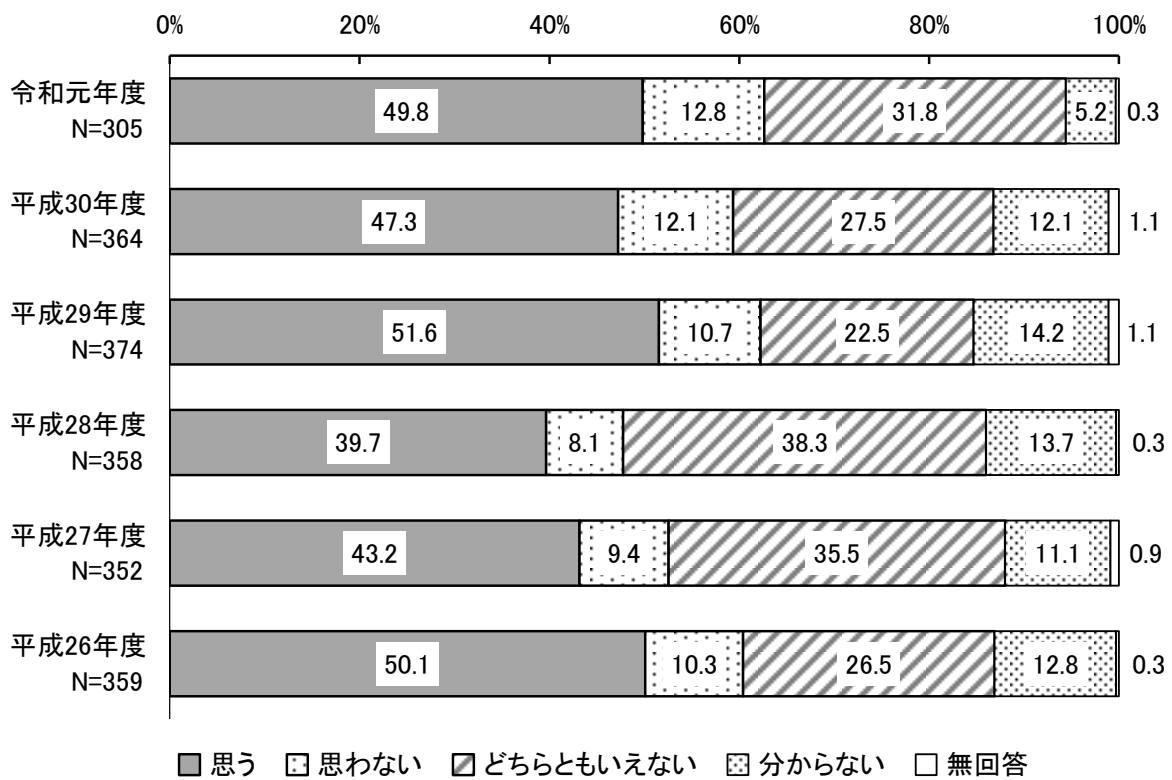
性別でみると、「思う」の回答割合は男性が 31.3%、女性が 36.2%となり、女性の方が 4.9 ポイント高かった。

子育て中の人々の回答をみると、「思う」の回答が 49.8%で、全体の結果を 16 ポイント上回った。直近 3 年では、平成 30 年度調査が 47.3%、平成 29 年度調査が 51.6%と、50%前後で推移している。

【性別】

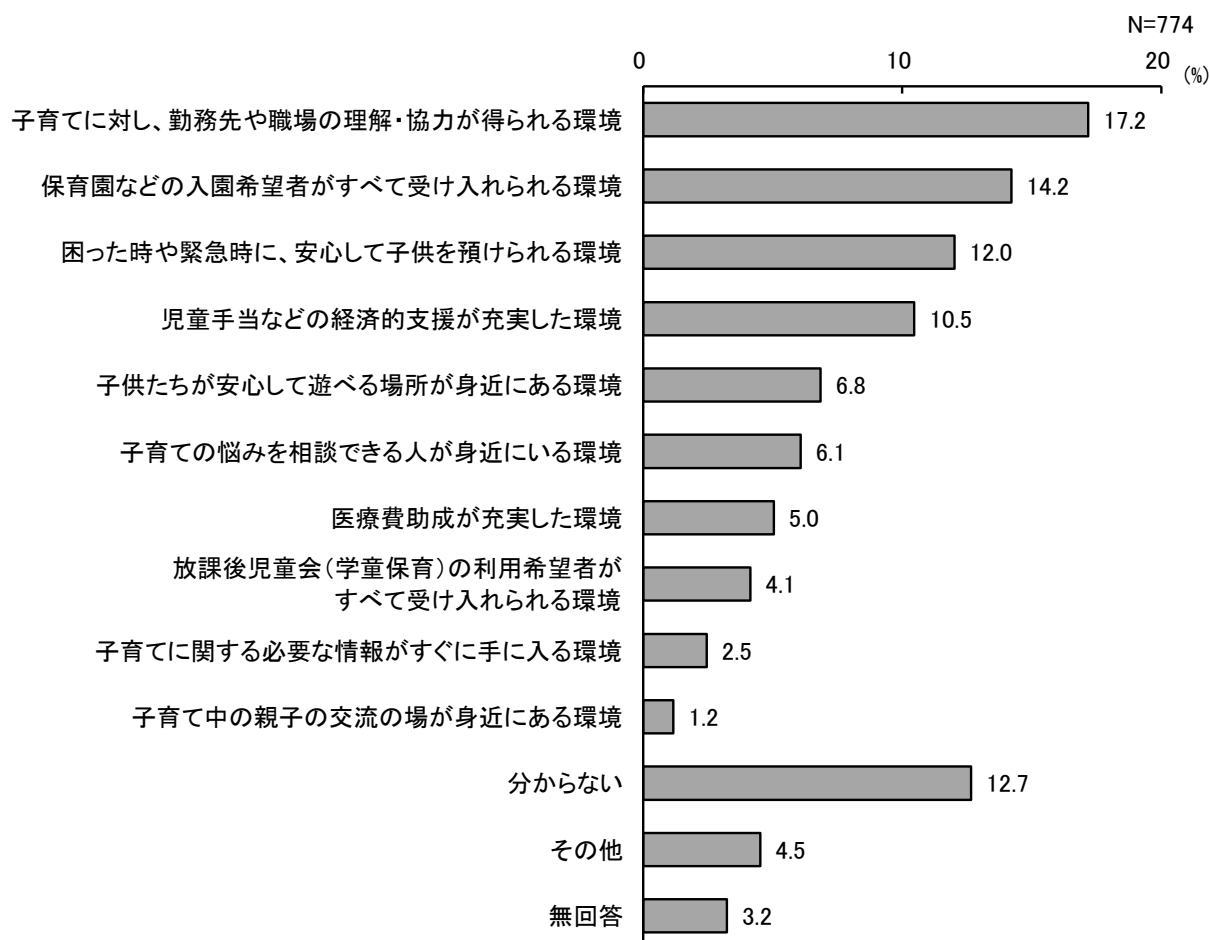


【子育て中の人への回答】



問7 問6で「2. 思わない」「3. どちらともいえない」「4. 分からない」とお答えされた方に伺います。どのような環境を整えれば子育てがしやすくなったと感じると思いますか。(1つだけ○を付けてください)

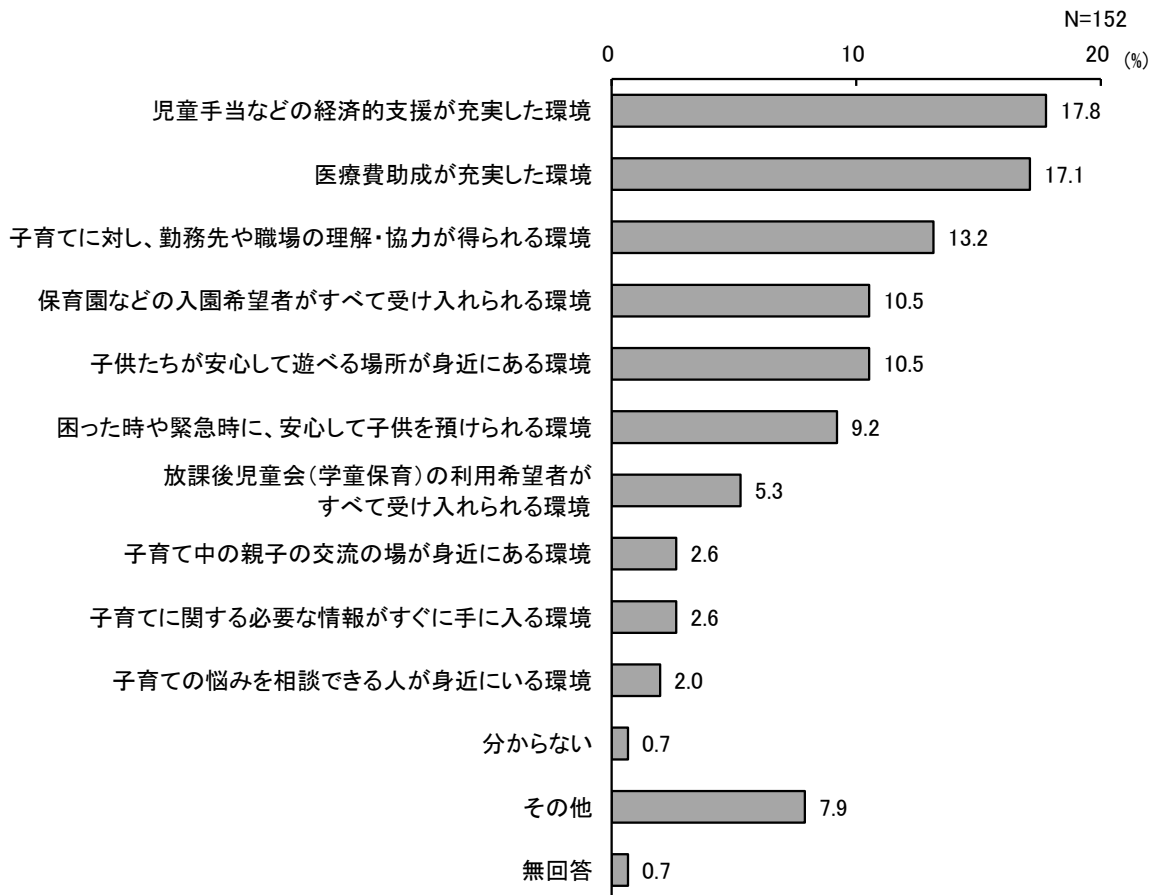
勤務先や職場の理解・協力と制度面での環境整備が必要



「どのような環境を整えれば子育てがしやすくなったと感じるか」の問いでは、「子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境」が17.2%と最も割合が高く、以下、「保育園などの入園希望者がすべて受け入れられる環境」(14.2%)、「困った時や緊急時に、安心して子供を預けられる環境」(12.0%)、「児童手当などの経済的支援が充実した環境」(10.5%)と続き、ここまですべて10%以上の回答を得ている。

子育て中の人の回答でみると、「児童手当などの経済的支援が充実した環境」(17.8%)、「医療費助成が充実した環境」(17.1%)が他と比べて割合が高かった。また、子育て中の人を子供の教育段階別でも、小学校入学前と小学生では「児童手当などの経済的支援が充実した環境」がそれぞれ25.0%、20.0%と最も高く、中学生と高校生では「医療費助成が充実した環境」がそれぞれ23.7%、36.8%と最も高かった。

【子育て中の人の回答】



【子供の教育段階別】

(単位: %)

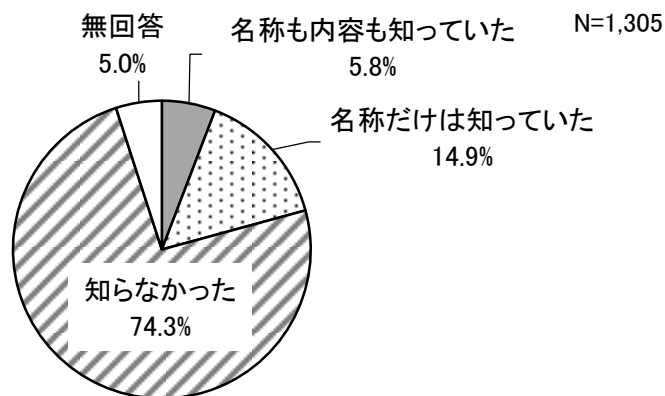
		子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境	保育園などの入園希望者がすべて受け入れられる環境	困った時や緊急時に、安心して子供を預けられる環境	児童手当などの経済的支援が充実した環境	子供たちが安心して遊べる場所が身近にある環境	子育ての悩みを相談できる人が身近にいる環境	医療費助成が充実した環境	放課後児童会(学童保育)の利用希望者がすべて受け入れられる環境	子育てに関する必要な情報がすぐに手に入る環境	子育て中の親子の交流の場が身近にある環境	分からない	その他	無回答
子供の教育段階別	小学校入学前 N=64	20.3	14.1	10.9	25.0	7.8	0.0	3.1	4.7	0.0	4.7	0.0	9.4	0.0
	小学生 N=70	8.6	5.7	10.0	20.0	14.3	1.4	18.6	5.7	5.7	1.4	1.4	7.1	0.0
	中学生 N=38	10.5	5.3	2.6	13.2	18.4	5.3	23.7	2.6	5.3	2.6	2.6	5.3	2.6
	高校生 N=38	2.6	7.9	5.3	13.2	7.9	7.9	36.8	2.6	0.0	2.6	0.0	10.5	2.6
	専門学校生 N=2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他 N=5	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0

4 SDGsの達成に向けて

4-1 SDGsの認知度

問8 あなたは「SDGs」をご存じでしたか。(1つだけ○を付けてください)

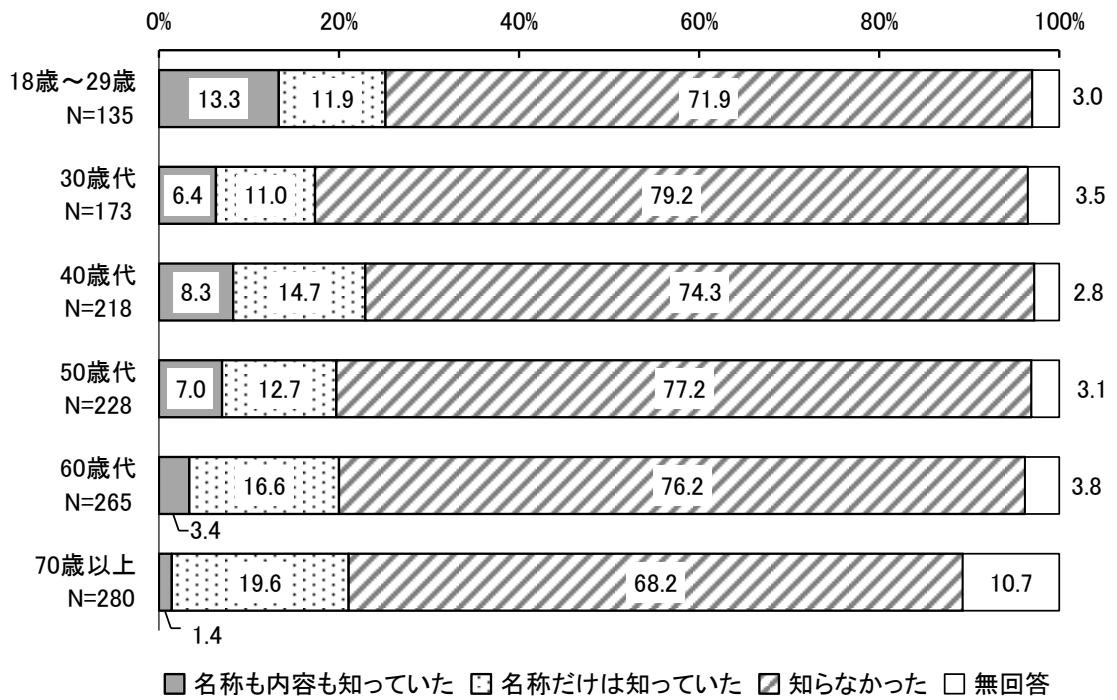
「SDGs」の『認知度』は20.7%



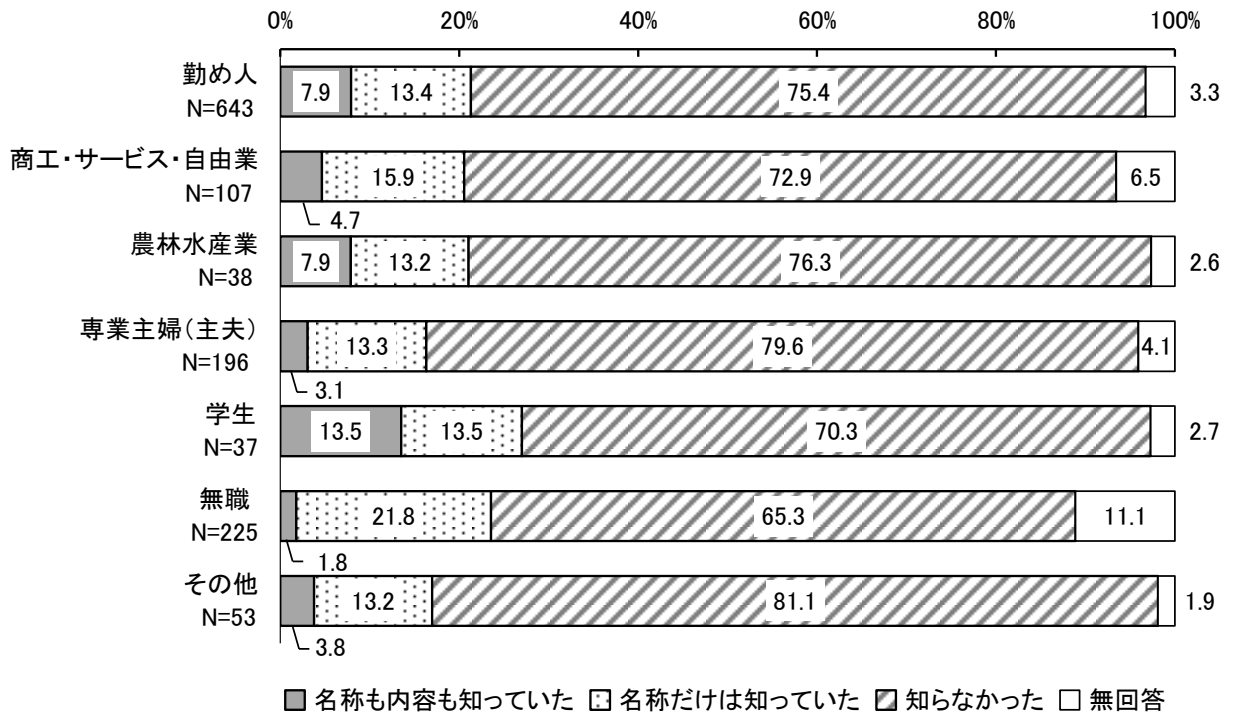
「名称も内容も知っていた」と「名称だけは知っていた」を合わせた『認知度』は20.7%と2割にとどまり、「名称も内容も知っていた」は5.8%と、SDGsの『認知度』は低いといえる。

年代別でみると、『認知度』では大きな差はみられなかったが、「名称も内容も知っていた」では、18歳～29歳で13.3%と他の年代に比べて高かった。また、職業別でみると、学生の『認知度』は27.0%と高く、「名称も内容も知っていた」でも13.5%と他の職業と大きな差がみられた。学生で『認知度』が高いのは、SDGsを学ぶ機会があることが要因の1つと考えられ、そのことが若い世代での理解につながっているといえる。一方、60歳代、70歳以上は「名称も内容も知っていた」の回答割合が3.4%、1.4%と低いものの、『認知度』は他の年代と大きな差はなく、SDGsという言葉を目にする機会はあると考えられる。今後SDGsの『認知度』を高めるためには、SDGsを知る機会を増やすとともに、理解しやすい伝え方を工夫することが必要といえる。

【年代別】



【職業別】



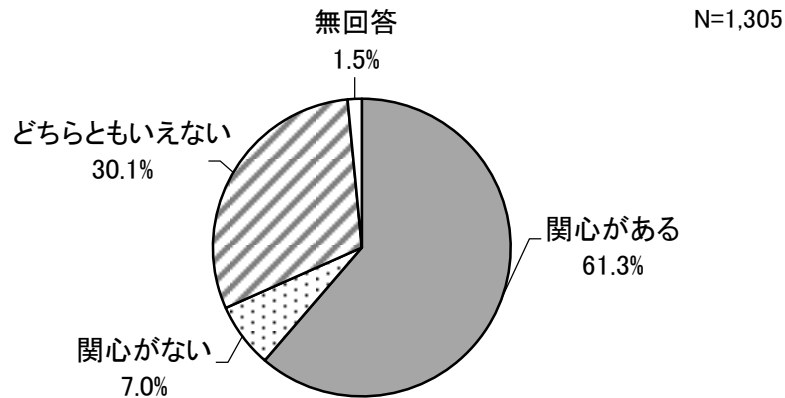
4-2 再生可能エネルギーについて

問9 あなたは「再生可能エネルギー※」について関心がありますか。

(1つだけ○を付けてください)

※再生可能エネルギーとは、石油などの化石エネルギーではなく、太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱、その他の自然界に存在する熱・バイオマスなど非化石エネルギー由来のエネルギーのことです。

「再生可能エネルギー」について関心がある人は61.3%

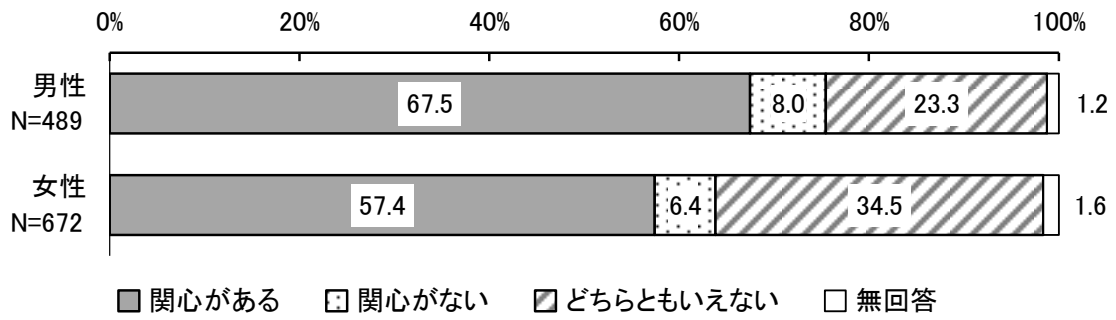


再生可能エネルギーの関心度は全体の約6割が「関心がある」(61.3%)と回答し、「関心がない」(7.0%)を大きく上回った。また、「どちらともいえない」が30.1%と全体の3割を占めた。

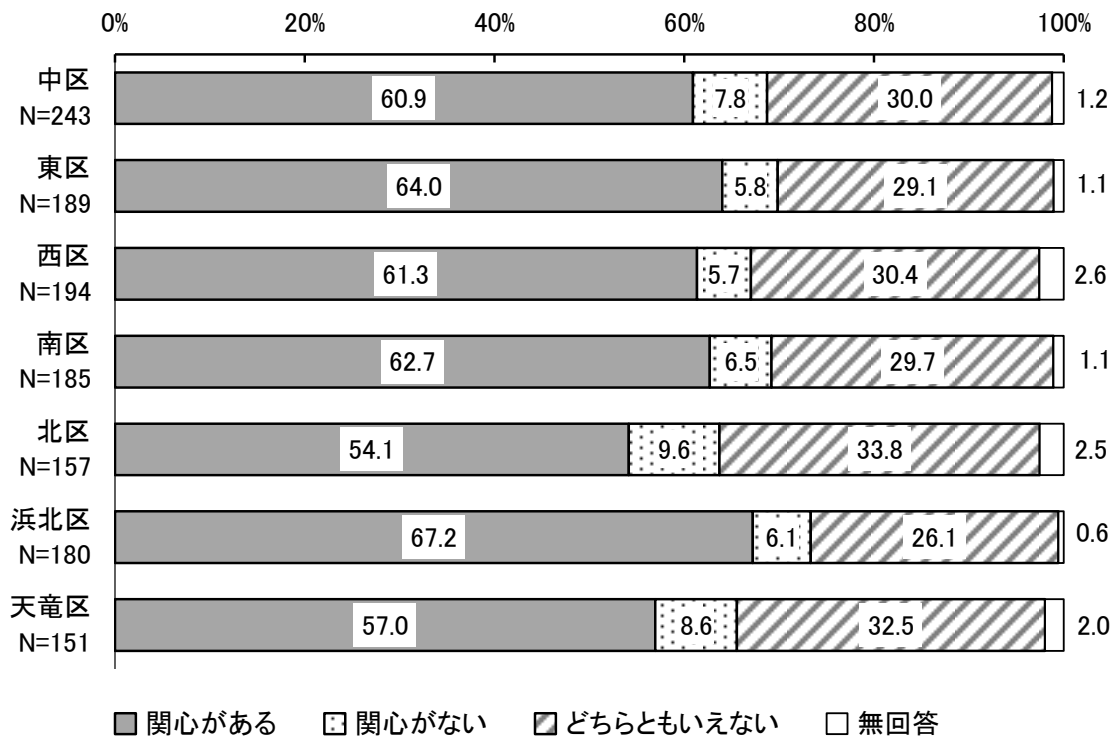
性別でみると、「関心がある」と回答した割合は、男性67.5%、女性57.4%で、男性の方が10.1ポイント高く、再生可能エネルギーへの関心度は性別によって差があるといえる。

行政区別でみると、「関心がある」割合が最も高かったのは、浜北区の67.2%だった。一方で6割を超えなかったのは、北区の54.1%、天竜区の57.0%であり、他区と比べると低かった。

【性別】

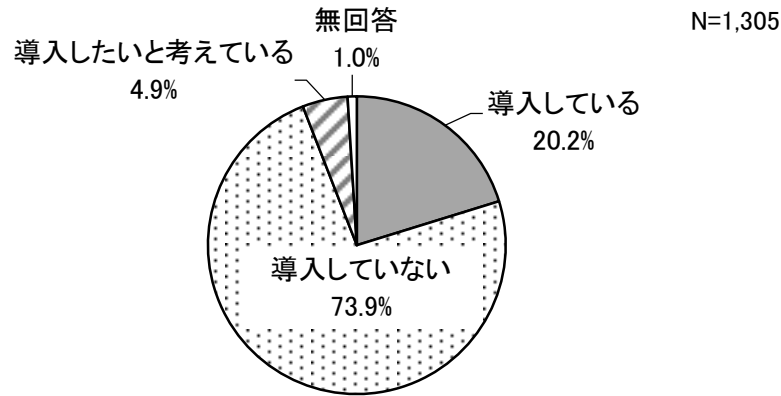


【行政区別】



問10 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」の活用機器（太陽光発電、太陽熱利用、ペレットストーブ、薪ストーブなど）を導入していますか。
（1つだけ○を付けてください）

「再生可能エネルギー」を導入している人は20.2%、導入したいと考えている人は4.9%



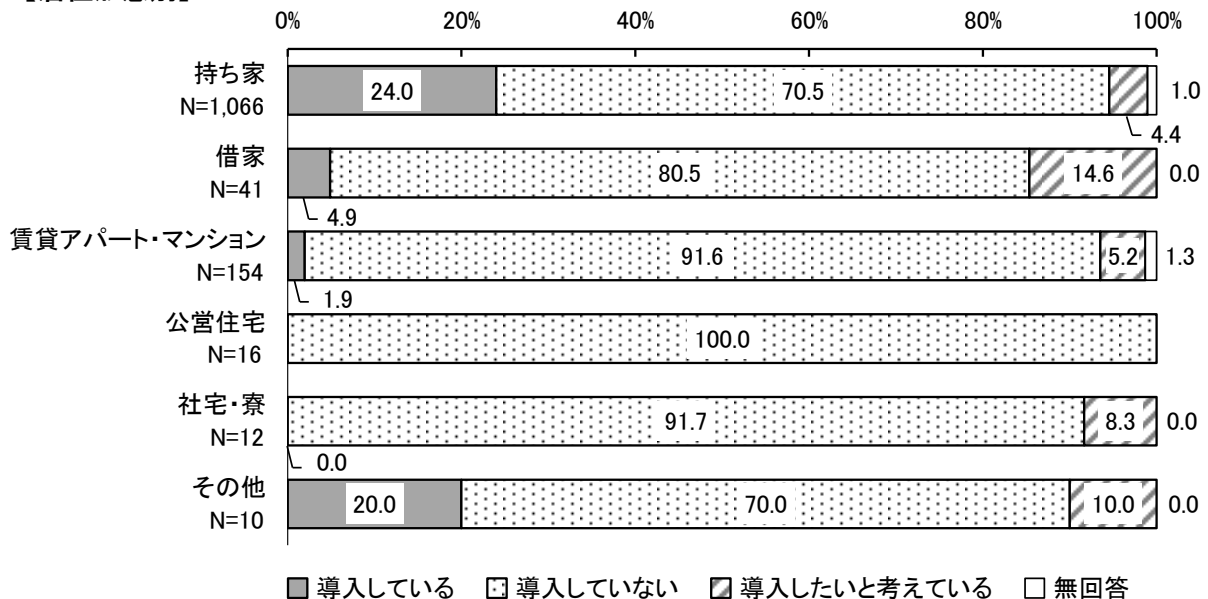
問9で再生可能エネルギーに「関心がある」の回答割合が全体の約6割であったのに対し、再生可能エネルギーの活用機器を「導入している」の回答割合は20.2%と2割にとどまった。

年代別でみると、「導入している」は30歳代が28.3%、40歳代が25.2%と他の年代と比べると高かった。これらの世代は、他の世代と比べ住宅の購入や新築を考える年代といえるため、そのことが導入につながっていると考えられる。

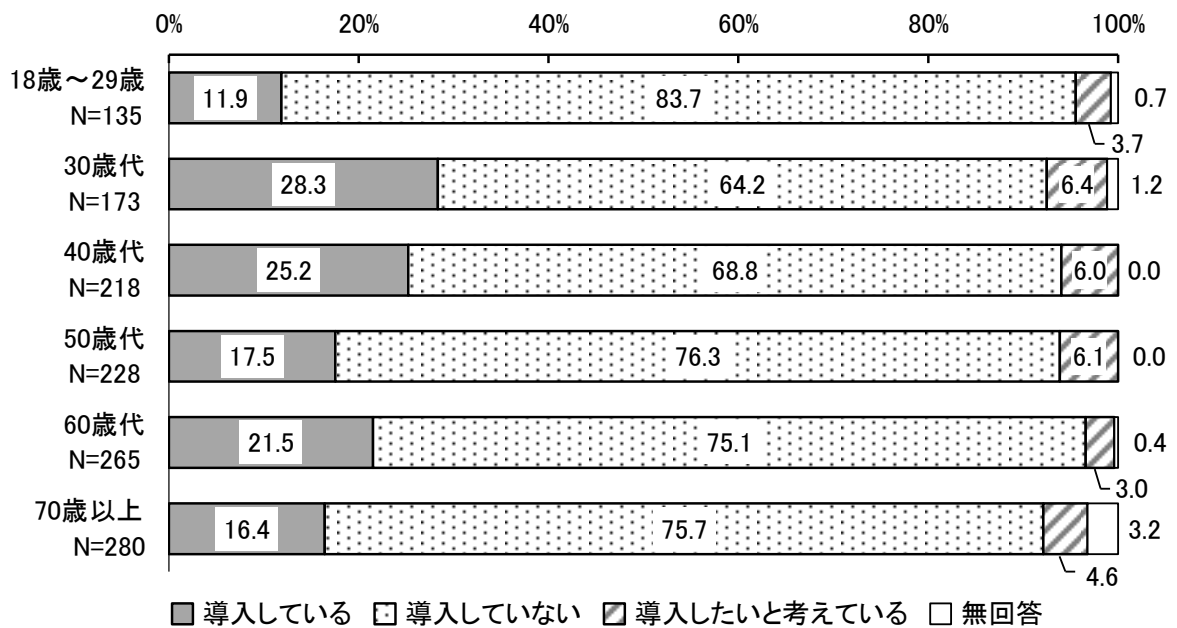
居住形態別でみると、持ち家で「導入している」が24.0%と高かった。一方で、借家（4.9%）や賃貸アパート・マンション（1.9%）などは低く、持ち家であることも再生可能エネルギーの導入につながる条件の1つといえる。

行政区別でみると、「導入している」は浜北区（28.3%）、天竜区（27.2%）で高く、中区（11.1%）、東区（13.8%）で低かった。

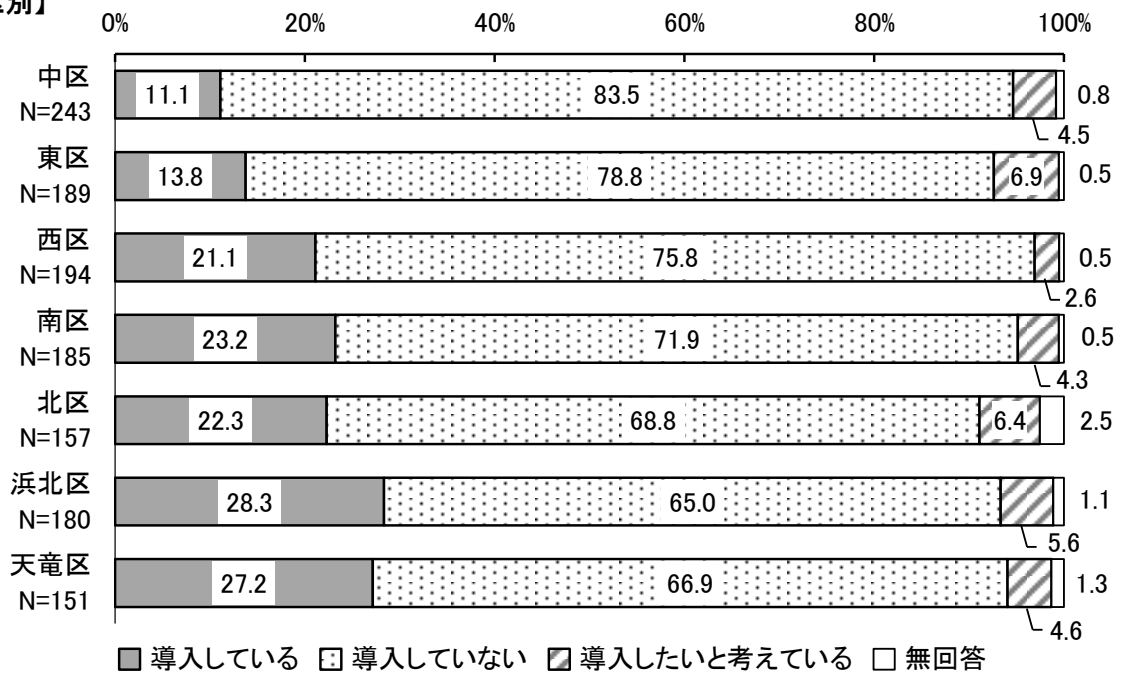
【居住形態別】



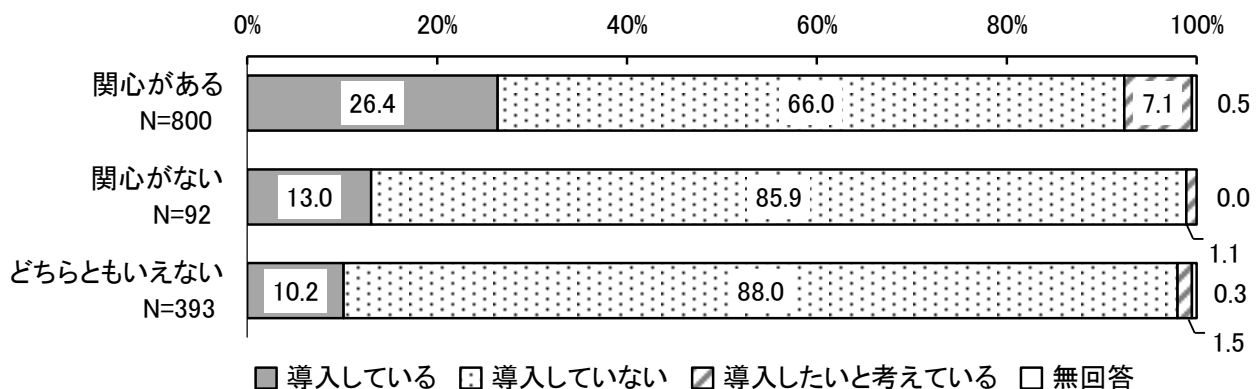
【年代別】



【行政区別】

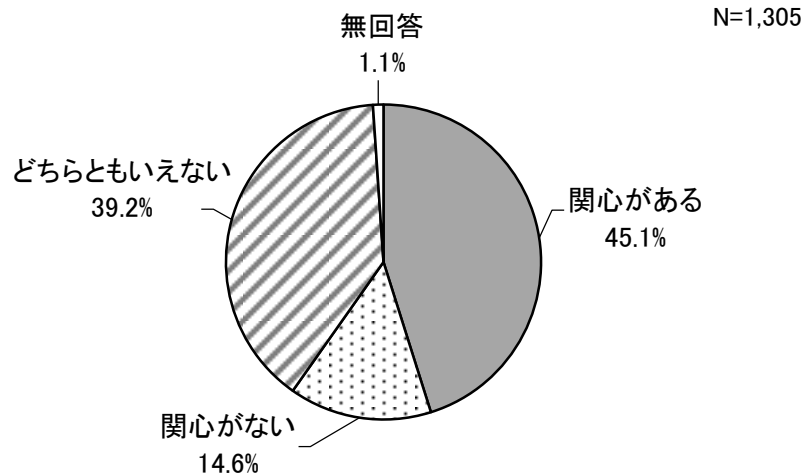


【再生可能エネルギーの関心度別】



問 11 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」から作られた電気を使用することについて関心がありますか。(1つだけ○を付けてください)

「再生可能エネルギー」から作られた電気を使用することについて関心がある人は 45.1%



再生可能エネルギーから作られた電気の使用に「関心がある」は 45.1%であった。「関心がない」は 14.6%と「関心がある」の 3分の1程度にとどまっている一方で、「どちらともいえない」が 39.2%と 4割近くにのぼった。

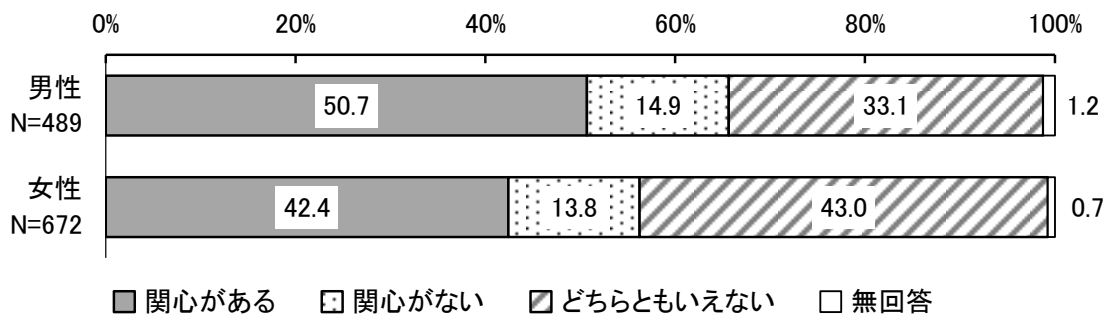
性別でみると、女性は「どちらともいえない」(43.0%)が「関心がある」(42.4%)を上回り、年代別でも、70歳以上で「どちらともいえない」(43.2%)が「関心がある」(38.6%)を上回るなど、「どちらともいえない」の回答割合が高い層もあった。

また、問9において、再生可能エネルギーに「関心がある」の回答割合が 61.3%だったのに対し、家庭で再生可能エネルギーから作られた電気を使用することに「関心がある」の回答割合は 45.1%と 15ポイント以上の差があった。

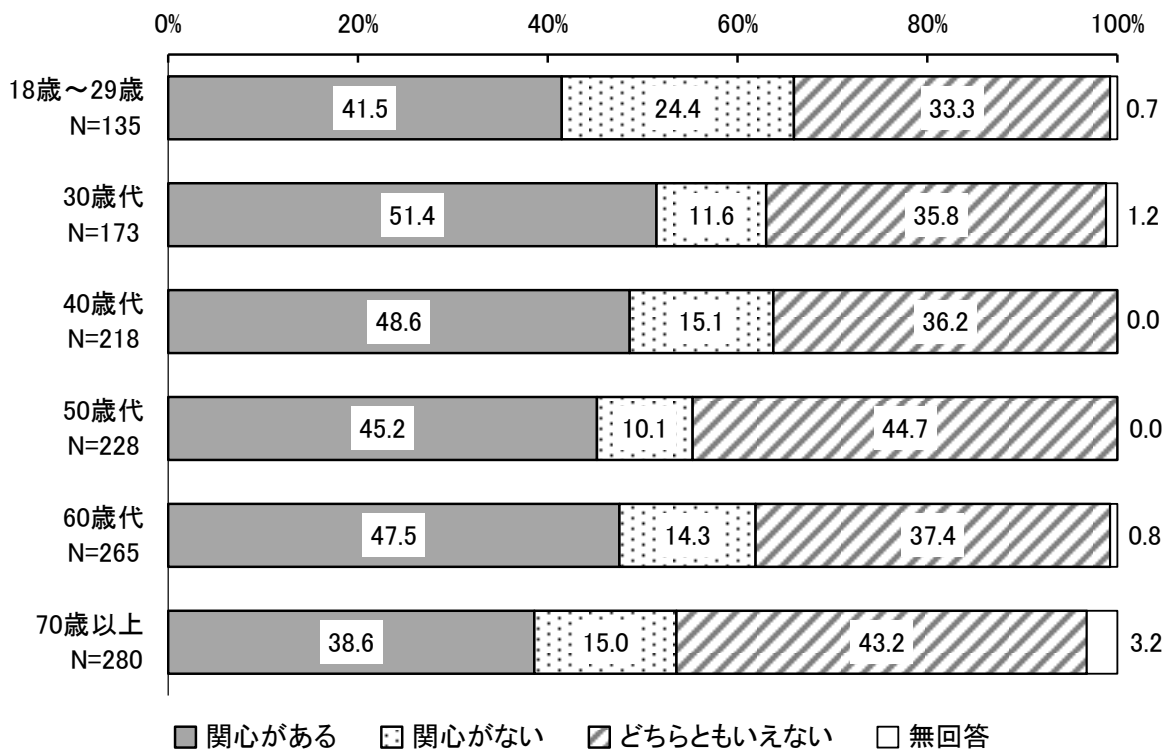
今後、再生可能エネルギーから作られた電気の使用への関心を高めるには、「どちらともいえない」層への働きかけが必要といえる。また、家庭で再生可能エネルギーから作られた電気を使用することの関心度別に問10の再生可能エネルギー活用機器の導入状況をみると、「関心がある」層では 35.3%が「導入している」と回答しており、「関心がない」層より「導入している」割合は 29.5ポイント高かった。しかし、「関心がある」層でも 56.0%は「導入していない」と回答しており、関心度ほど導入につながっていない。機器の導入には費用がかかるうえに、居住形態など物理的な条件があり、関心があるものの導入につながらない現状がうかがえる。

以上のことから、再生可能エネルギーから作られた電気の使用への関心を高めるには、利用についての情報を積極的に発信し、「どちらともいえない」層の関心を高められるようにすることが必要であり、そのことが再生可能エネルギー活用機器の導入にもつながっていくといえる。

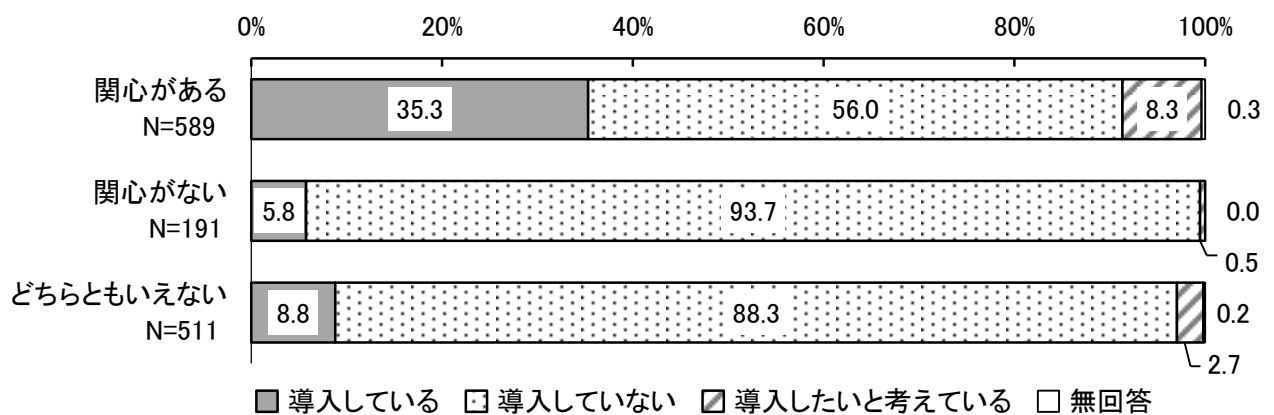
【性別】



【年代別】



【家庭で再生可能エネルギーから作られた電気を使用することの関心度別】

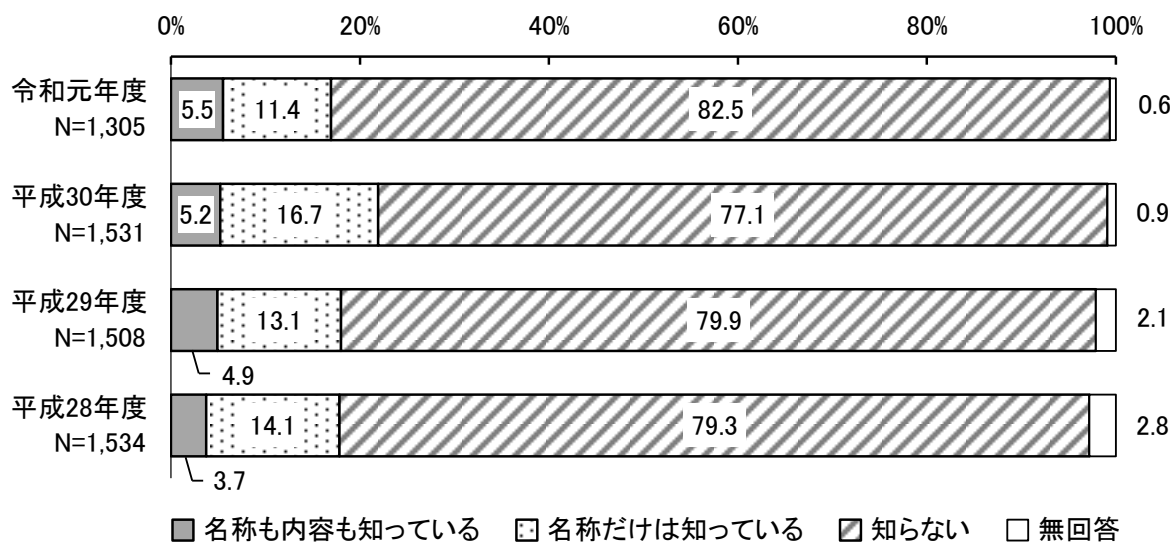


4-3 F S C 森林認証について

問 12 あなたは「F S C 森林認証※」をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

※「F S C 森林認証」とは森林が適切に管理されているかを、世界基準に沿って審査、認証する仕組みです。

「F S C 森林認証」の『認知度』は 16.9%



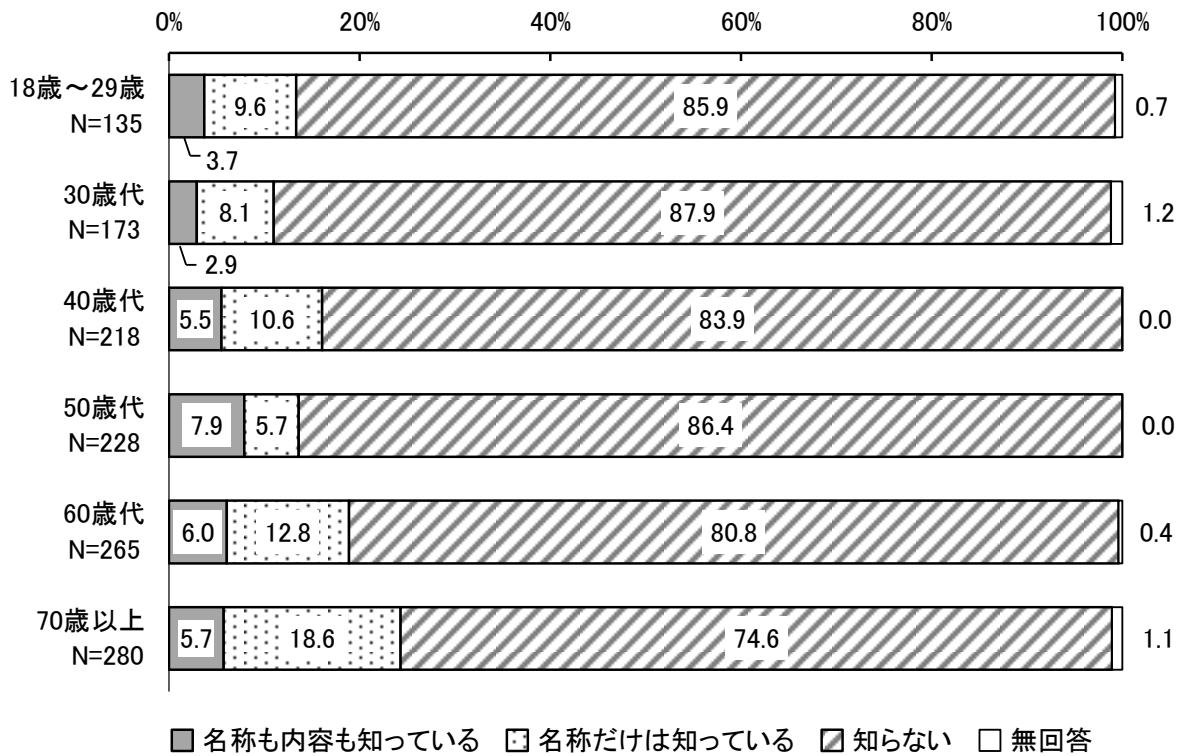
F S C 森林認証について、「名称も内容も知っている」が 5.5%、「名称だけは知っている」(11.4%) を合わせた『認知度』は 16.9%であり、「知らない」の 82.5%を大きく下回った。

平成 30 年度調査と比較すると、「名称も内容も知っている」の回答割合は大きな変化はみられなかったが、一方で『認知度』は 5.0 ポイント減少し、依然として低い傾向にあるといえる。

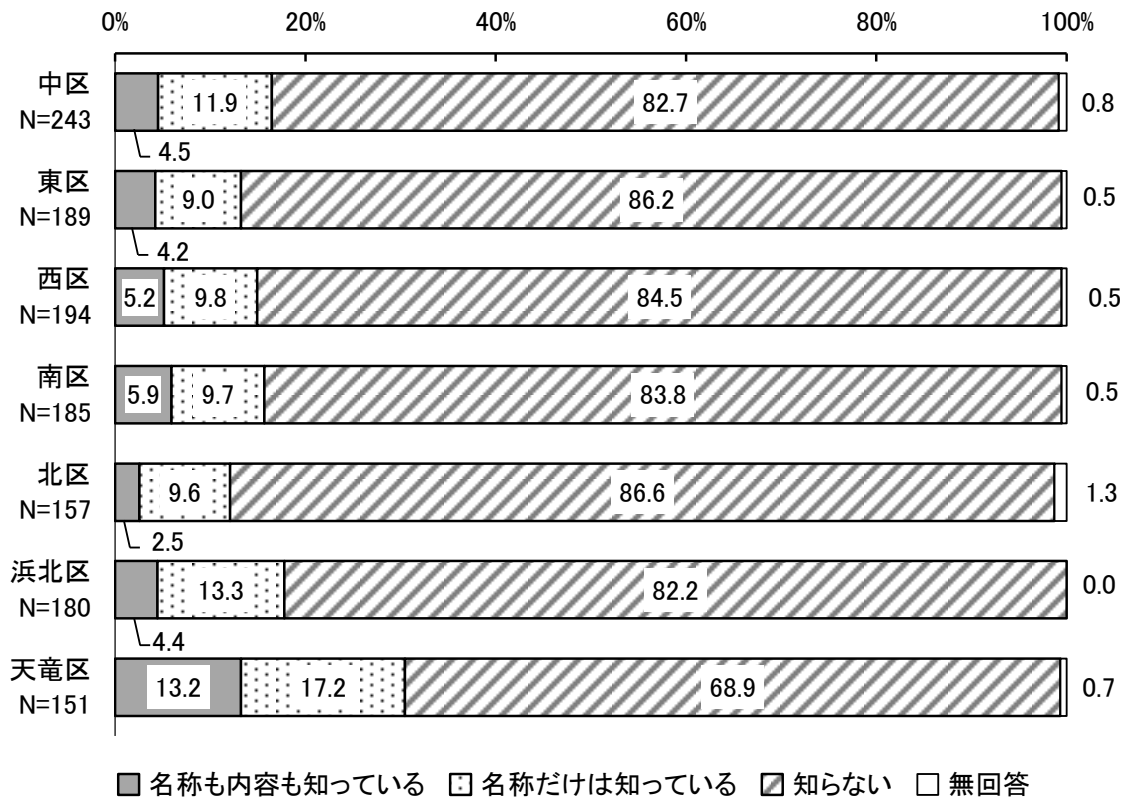
年代別にみると、特に 30 歳代以下の『認知度』が低く、18 歳～29 歳が 13.3% (平成 30 年度調査では 10.9%)、30 歳代が 11.0% (同：12.4%) と、前回調査同様に若い世代で『認知度』が低い結果となった。

行政区別では、「知らない」の回答割合が天童区で 68.9%であったが、天童区以外の区はすべて「知らない」の回答割合が 80%を超えた。

【年代別】

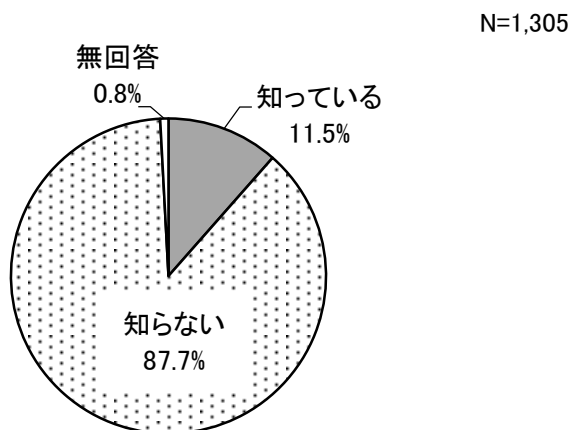


【行政区別】



問 13 あなたは「F S C森林認証」の森林を、浜松市が市町村別で最も広い面積
 (約 45, 270ha (2019 年 4 月 1 日現在)) 有していることをご存じですか。
 (1つだけ○を付けてください)

浜松市が市町村別で最も広いF S C森林認証面積を有していることを知っている人は
 11.5%



浜松市が、市町村別で最も広いF S C森林認証面積を有していることについては、「知っている」が11.5%であり、問12のF S C森林認証と同様低い認知度であった。

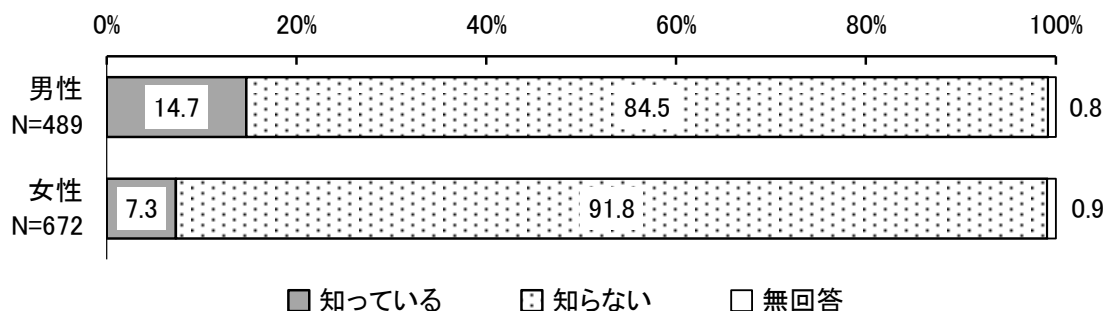
性別でみると、「知っている」は男性14.7%、女性7.3%と男性の方が7.4ポイント高く、性別によって認知度に差がみられた。

年代別では、年代が高くなるほど認知度が高くなる傾向があった。

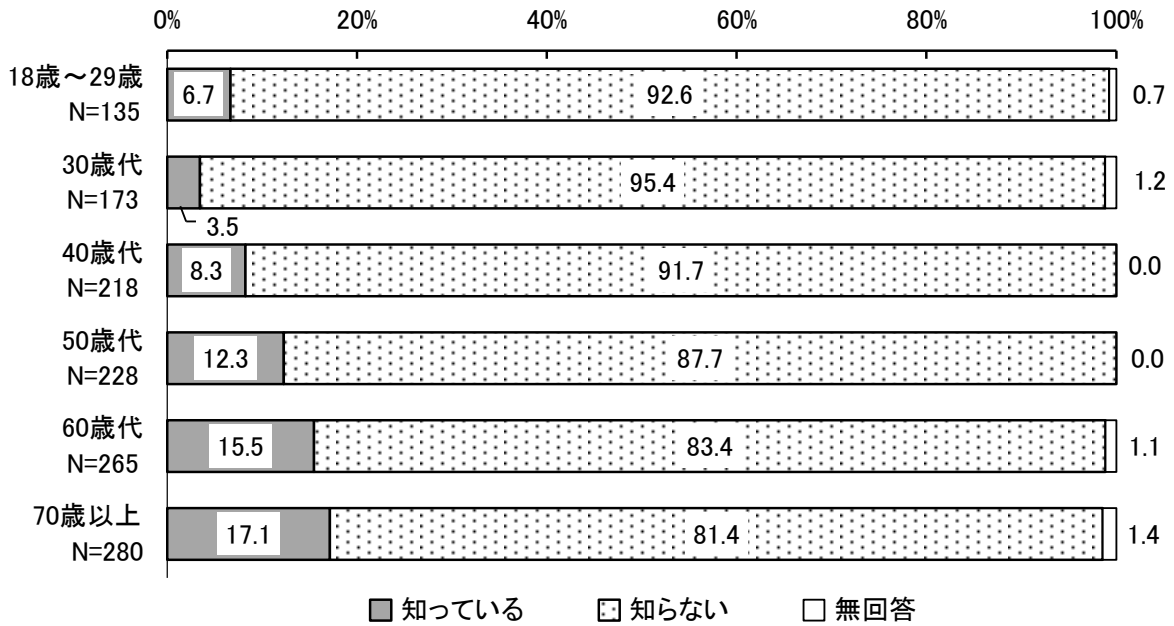
行政区別では、「知っている」が天竜区で21.2%と2割を超えたが、天竜区に次いで高い西区で12.4%と、天竜区と天竜区以外で差がみられた。

F S C森林認証の認知度別でみると、本市が、市町村別で最も広いF S C森林認証面積を有していることを知っている割合は、F S C森林認証を「名称も内容も知っている」層では70.8%と高く、「名称だけは知っている」層では26.8%となったが、F S C森林認証を「知らない」層では5.5%と低かった。F S C森林認証の認知度と市町村別で最も広いF S C森林認証面積を有していることの認知度は関連があるといえる。

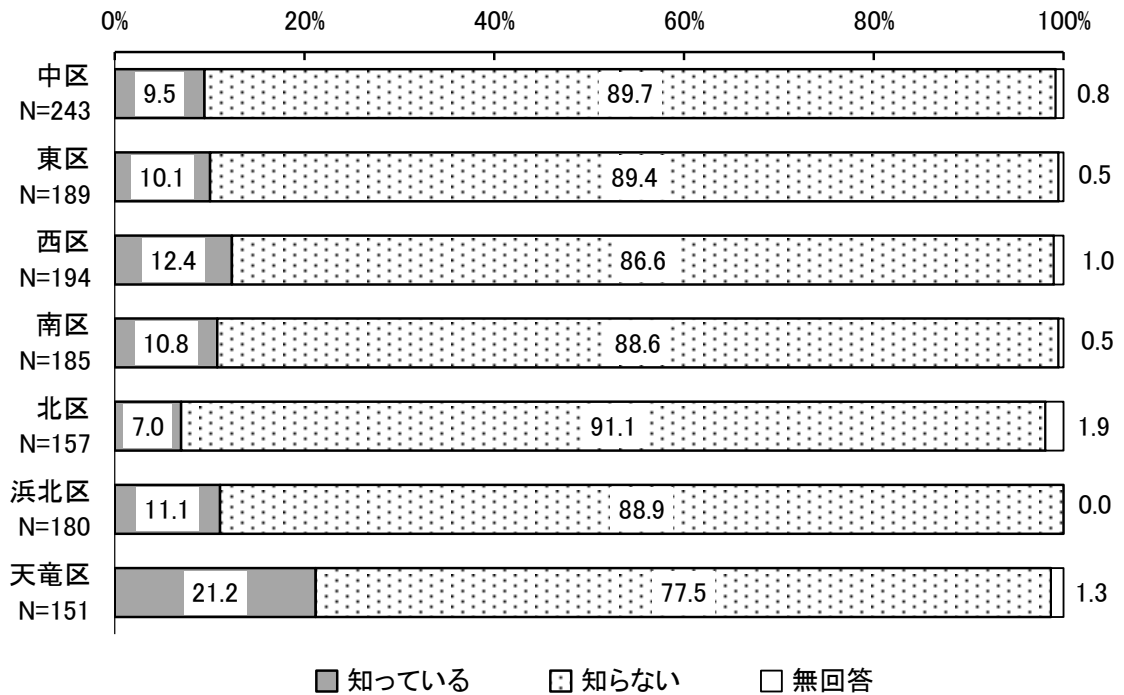
【性別】



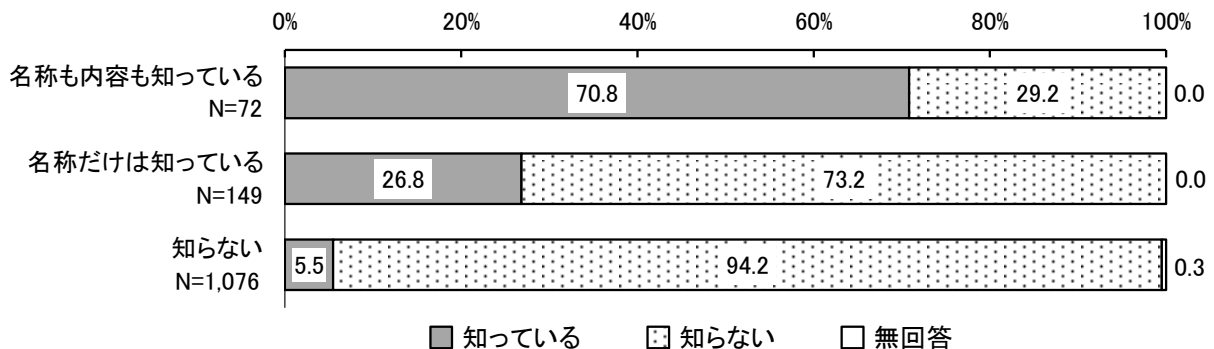
【年代別】



【行政区別】

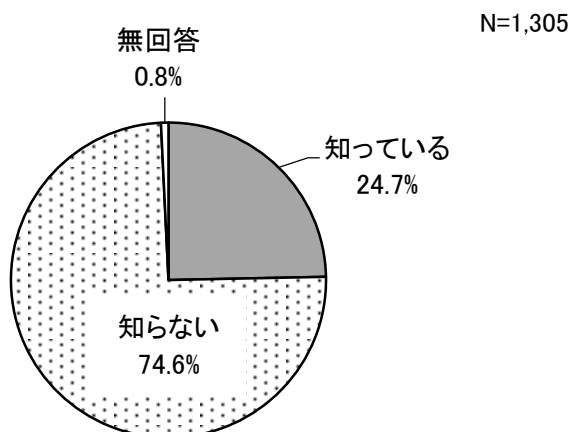


【FSC森林認証の認知度別】



問 14 あなたは 2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの施設（有明体操競技場、選手村ビレッジプラザなど）に、浜松市の「F S C 森林認証」の森林から生産された木材が使用されることをご存じですか。（1つだけ○を付けてください）

東京オリンピック・パラリンピックの施設に、浜松市の「F S C 森林認証」の森林から生産された木材が使用されることを知っている人は 24.7%

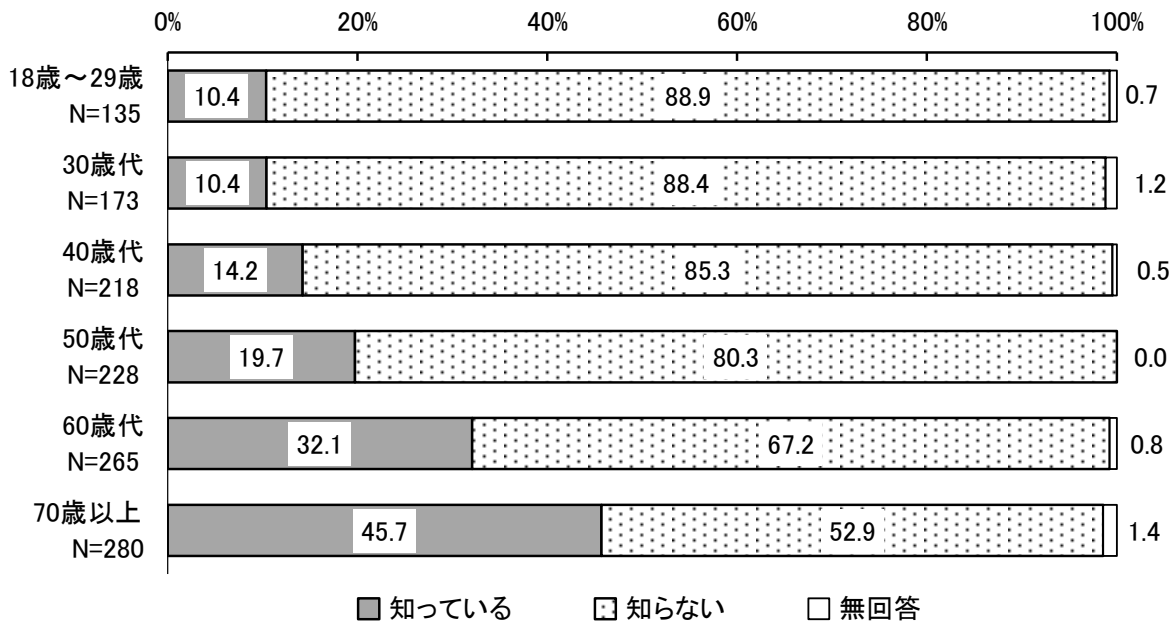


浜松市の F S C 森林認証の森林から生産された木材（天竜材（F S C 認証材））が、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会関連施設で使用されることについては、「知っている」が 24.7%であり、制度などの認知度に比べて高い結果となった。

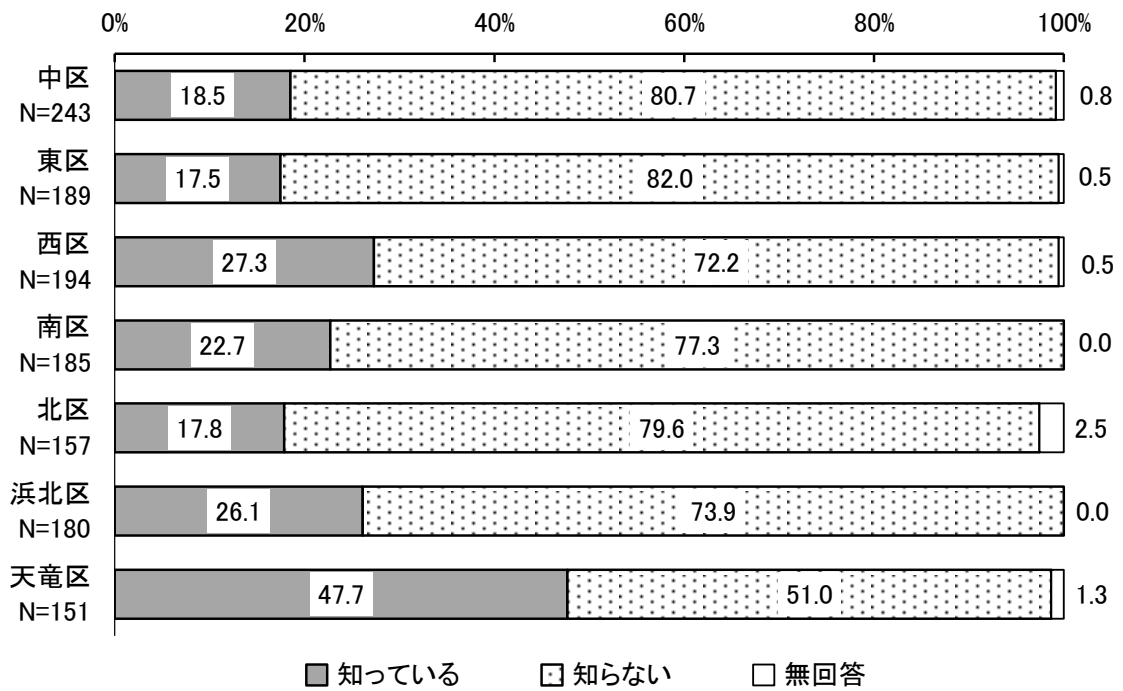
年代別でみると、若い世代で認知度が低く、年代が高くなるほど認知度が高くなる傾向があった。

行政区別でみると、「知っている」の回答割合が天竜区で 47.7%と他の行政区と比べて突出して高かった。天竜区は F S C 森林認証に関連が強い地域であり、この結果から F S C 森林認証の木材の用途への関心も高いことがうかがえる。

【年代別】



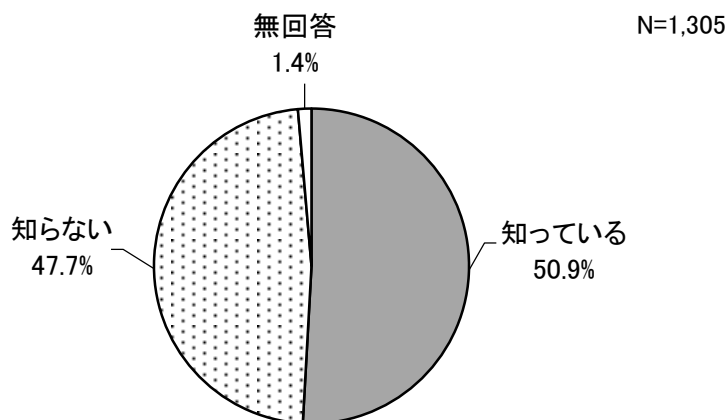
【行政区別】



4-4 多文化共生について

問 15 あなたは、出入国管理及び難民認定法が改正され、本年4月から新たな外国人材の受け入れが始まったことをご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

本年4月から新たな外国人材の受け入れが始まったことを知っている人は50.9%



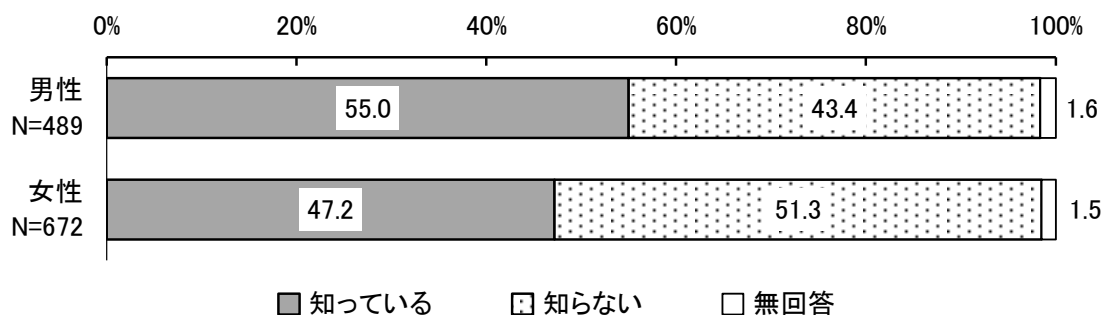
出入国管理及び難民認定法の改正が本年4月に実施されたことの認知度は、「知っている」が50.9%となり半数を若干超えた。

性別でみると、「知っている」が男性55.0%、女性47.2%と、男性の方が7.8ポイント高かった。

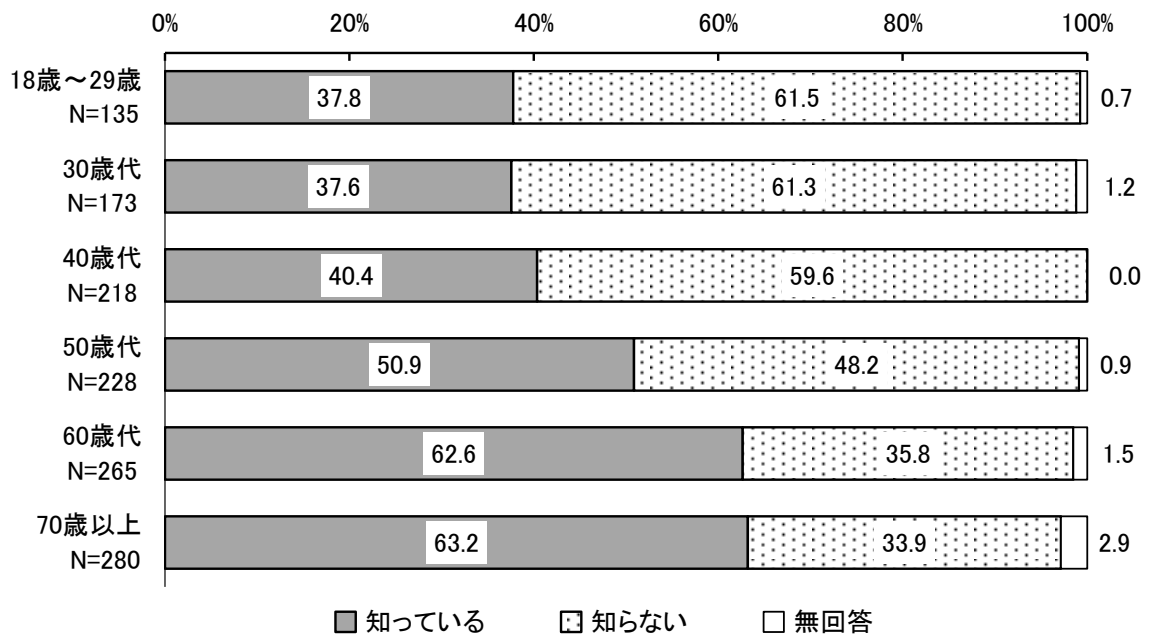
年代別でみると、「知っている」が60歳代で62.6%、70歳以上で63.2%と6割を超え、年代が高い方が認知度は高かった。

職業別でみると、「知っている」が商工・サービス・自由業（自営・家族従事者）で60.7%、農林水産業（自営・家族従事者）で60.5%と勤め人の45.3%と比べて高かった。人材不足の状況がある中で、自営業者やその家族従事者の間で新たな外国人材の受け入れについて関心が広がっていると考えられる。

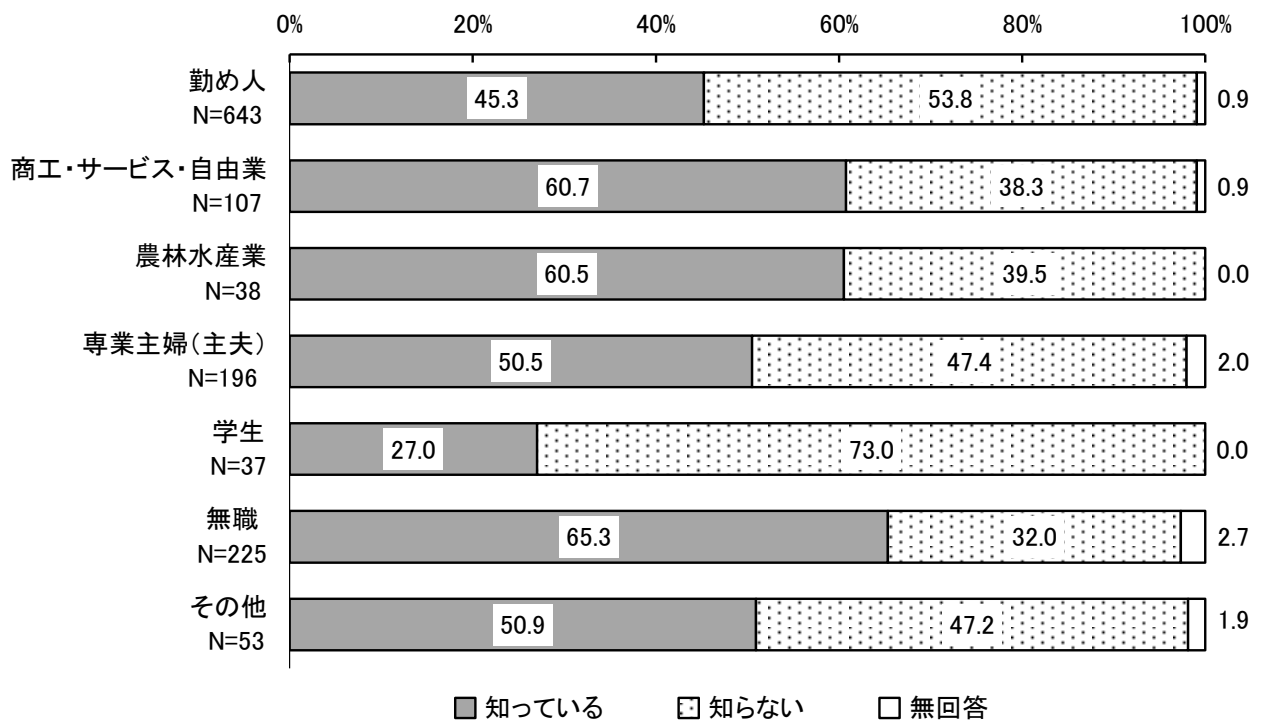
【性別】



【年代別】

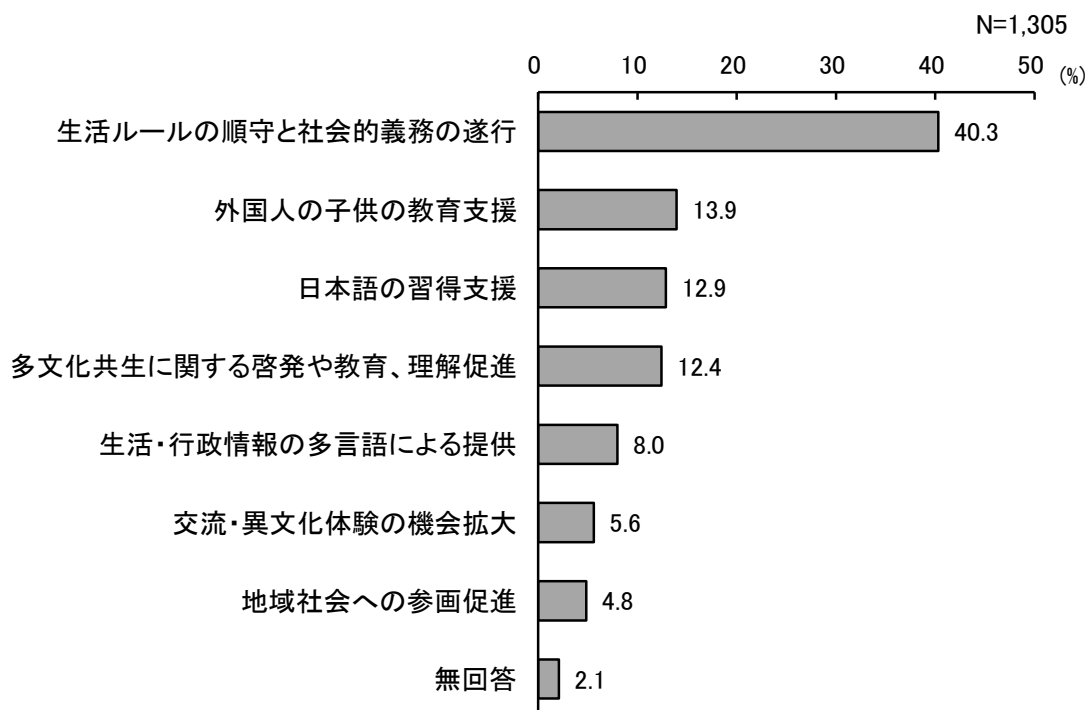


【職業別】



問 16 あなたは、市が行っている多文化共生施策のうち、最も力を入れるべき取り組みはどれだと考えますか。(1つだけ○を付けてください)

最も力を入れるべき取り組みは「生活ルールの順守と社会的義務の遂行」が 40.3%



市が行う多文化共生施策のうち、最も力を入れるべき取り組みは、「生活ルールの順守と社会的義務の遂行」が 40.3%と最も高くなっており、「外国人の子供の教育支援」(13.9%)、「日本語の習得支援」(12.9%)、「多文化共生に関する啓発や教育、理解促進」(12.4%)と続いている。

「生活ルールの順守と社会的義務の遂行」は他項目と回答割合に大きな差があり、多文化共生を進める上で必要な施策と捉える人が多いことがうかがえる。

性別でみると、「生活ルールの順守と社会的義務の遂行」が男性 45.8%、女性 36.0%と、男性の方が 9.8 ポイント高かった。

年代別でみると、「生活ルールの順守と社会的義務の遂行」が 18 歳～29 歳 (33.3%)、30 歳代 (34.1%)、40 歳代 (31.7%) が 30% 台だったのに対し、50 歳代以上では 40% 以上 (50 歳代 45.2%、60 歳代 40.4%、70 歳以上 50.4%) と、40 歳代と 50 歳代を境に回答の割合に差がみられた。

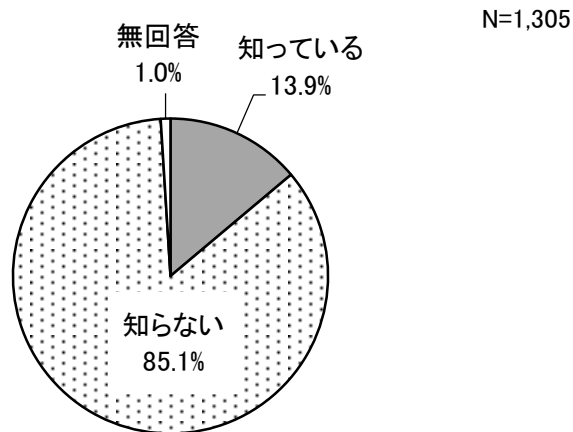
【性別・年代別】

(単位:%)

		生活ルールの順守と社会的義務の遂行	外国人の子供の教育支援	日本語の習得支援	多文化共生に関する啓発や教育、理解促進	生活・行政情報の多言語による提供	交流・異文化体験の機会拡大	地域社会への参画促進	無回答
全体 N=1,305		40.3	13.9	12.9	12.4	8.0	5.6	4.8	2.1
性別	男性 N=489	45.8	12.7	13.9	11.0	4.7	5.1	5.3	1.4
	女性 N=672	36.0	15.5	11.6	14.0	10.4	6.0	4.2	2.4
年代別	18歳～29歳 N=135	33.3	14.1	12.6	15.6	11.1	7.4	5.2	0.7
	30歳代 N=173	34.1	12.7	10.4	17.3	8.1	9.8	4.6	2.9
	40歳代 N=218	31.7	18.8	14.2	14.2	6.4	9.6	5.0	0.0
	50歳代 N=228	45.2	11.0	11.4	12.3	11.8	4.4	3.9	0.0
	60歳代 N=265	40.4	15.1	13.6	12.5	8.3	3.0	6.0	1.1
	70歳以上 N=280	50.4	12.5	13.9	6.4	3.9	2.5	4.3	6.1

問 17 市では、外国人の子供の教育は地域の重要な課題と捉え、外国人の子供の不就学を生まない取り組みを推進しています。あなたは、「外国人の子供の不就学ゼロ作戦事業」をご存じですか。（1つだけ○を付けてください）

「外国人の子供の不就学ゼロ作戦事業」を知っている人は 13.9%

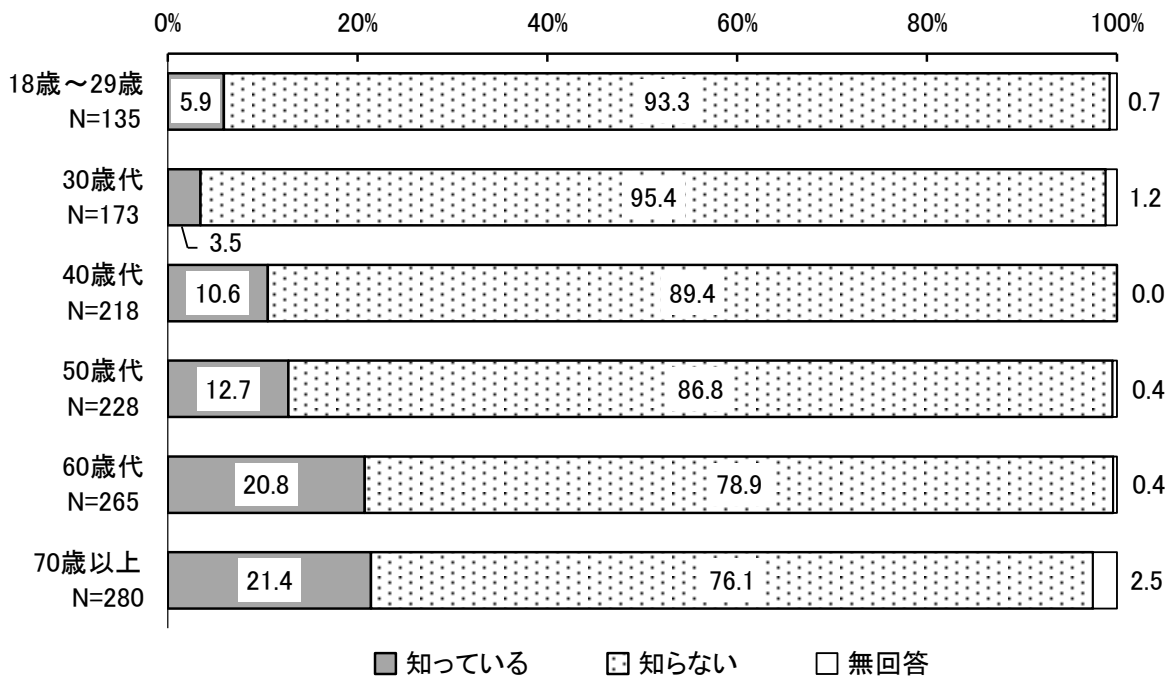


外国人の子供の不就学ゼロ作戦事業の認知度は、「知っている」が 13.9%、「知らない」が 85.1% となった。

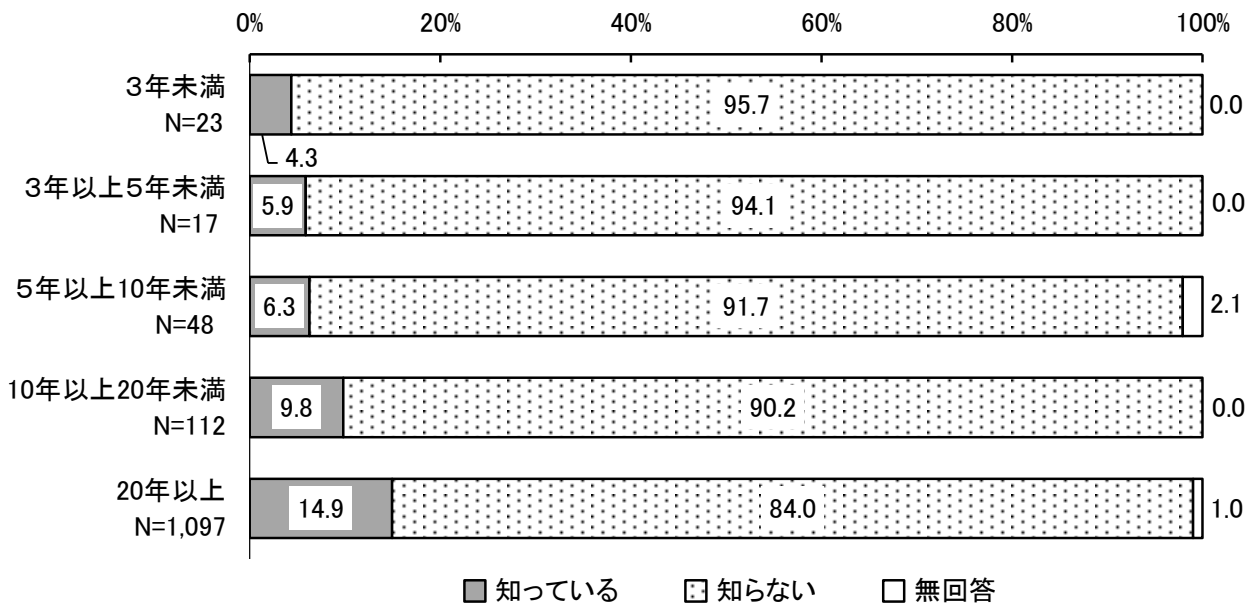
年代別でみると、60 歳代が 20.8%、70 歳以上が 21.4%と 60 歳代以上で 20%を超えており、50 歳代以下と比べて高く、年代で差がみられた。

居住年数別でみると、居住年数が長くなるほど「知っている」割合が増加する傾向があった。

【年代別】



【居住年数別】



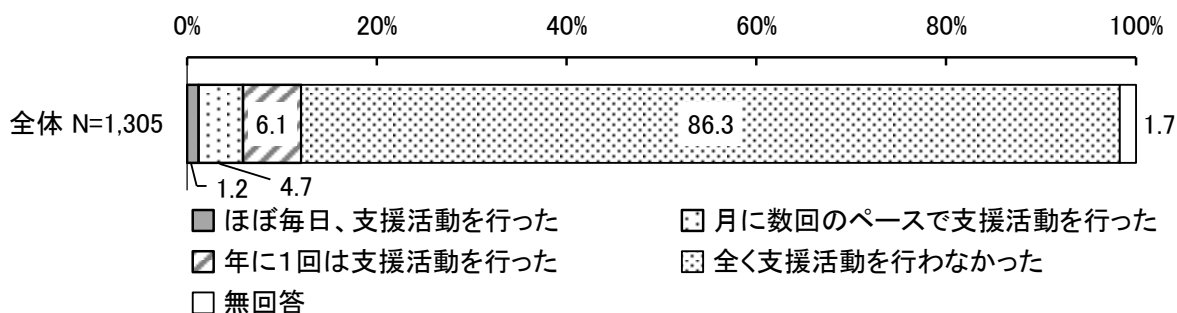
4-5 スポーツの推進について

問 18 あなたは、過去1年間にスポーツ活動の支援をどの程度行いましたか。

スポーツイベントや各種競技の大会におけるボランティア活動のほか、スポーツ少年団や小・中学校、高校、大学の部活動、総合型地域スポーツクラブ、地域のスポーツ活動などのお手伝いや運営、指導など、あらゆるスポーツ活動の支援を含みます。

(1つだけ○を付けてください)

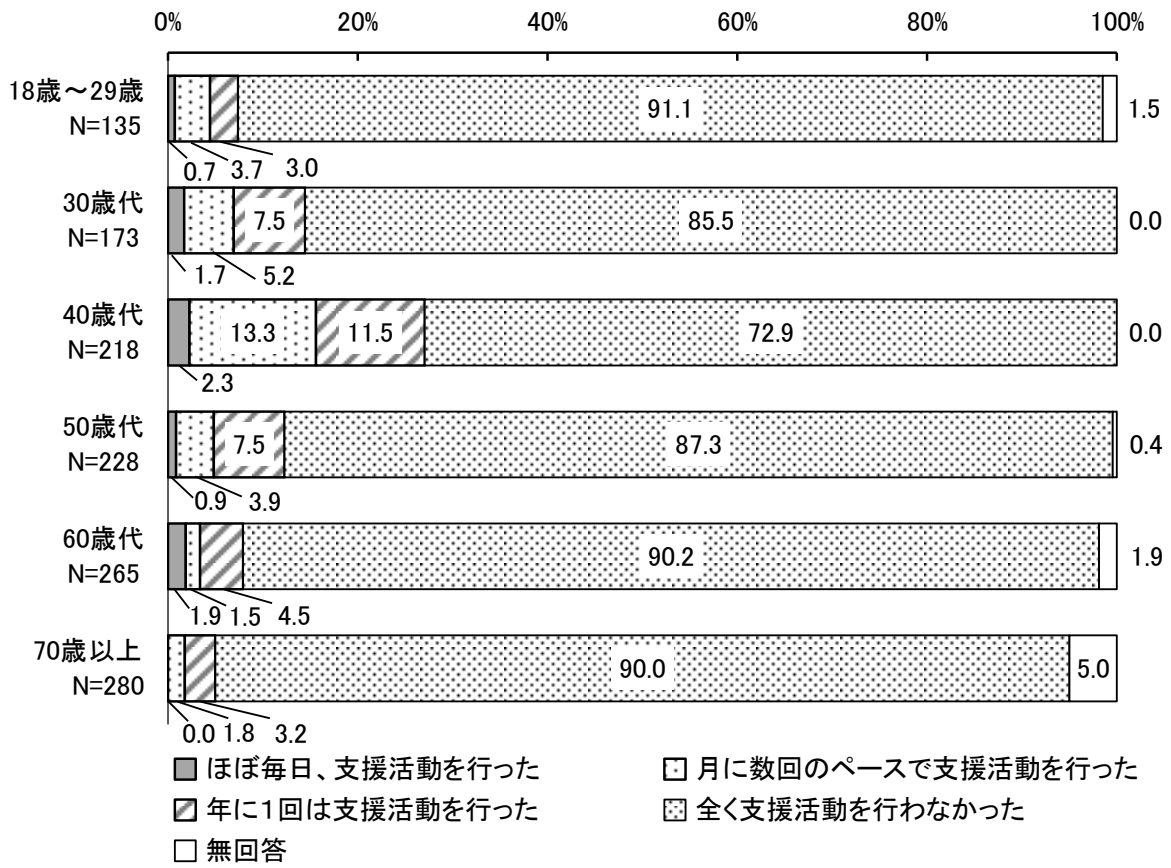
『年1回以上』スポーツ活動の支援を行った人は12.0%



第2期浜松市スポーツ推進計画では、年1回以上のスポーツ支援実施率35%程度を目標としているが、「ほぼ毎日、支援活動を行った」(1.2%)、「月に数回のペースで支援活動を行った」(4.7%)、「年に1回は支援活動を行った」(6.1%)を合わせた『年1回以上』は12.0%となり、推進計画の目標を23.0ポイント下回った。

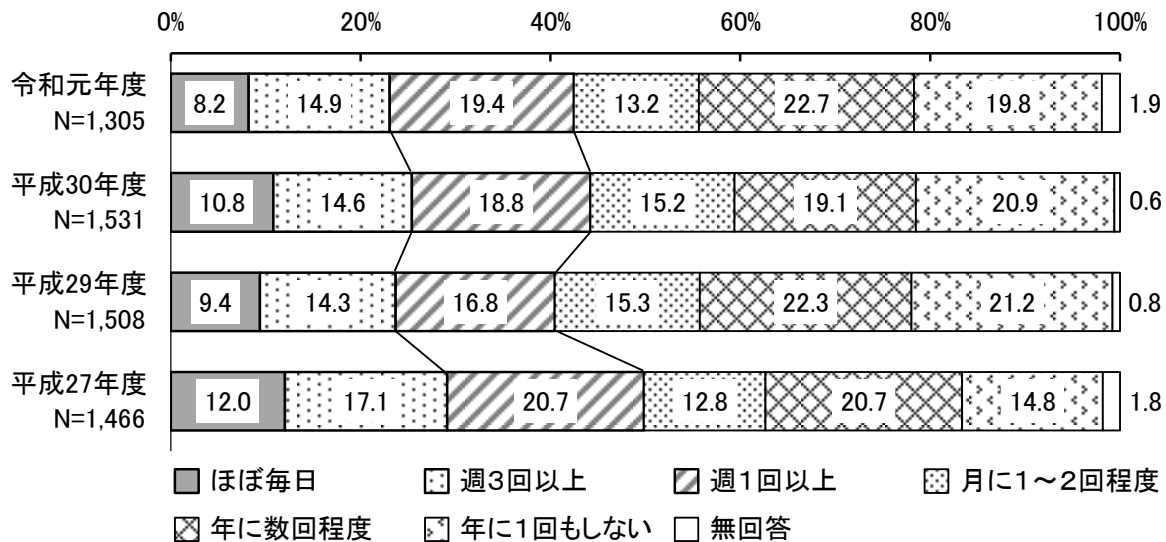
年代別でみると、『年1回以上』の割合が最も高かったのは40歳代の27.1%だった。これは、自身の子供がスポーツ少年団や部活動に所属し保護者として手伝いをする機会が多いことが要因の1つと考えられる。

【年代別】



問 19 あなたは、過去 1 年間でスポーツ（運動）をどの程度行いましたか。
 ウォーキングから本格的な競技スポーツまで、あらゆる運動を含みます。
 （1つだけ○を付けてください）

『週 1 回以上』スポーツを行っている人は 42.5%



「ほぼ毎日」(8.2%)、「週 3 回以上」(14.9%) を合わせた『週 3 回以上』が 23.1%、『週 3 回以上』と「週 1 回以上」(19.4%) を合わせた『週 1 回以上』は 42.5%、「年に 1 回もしない」は 19.8%となった。

平成 30 年度調査と比較すると、『週 1 回以上』は 1.7 ポイント、『週 3 回以上』は 2.3 ポイント、「年に 1 回もしない」は 1.1 ポイントそれぞれ減少した。

第 2 期浜松市スポーツ推進計画では、週 1 回以上のスポーツ実施率 65%程度、週 3 回以上のスポーツ実施率 30%程度を数値目標としているが、週 1 回以上は 22.5 ポイント、週 3 回以上は 6.9 ポイント目標を下回った。

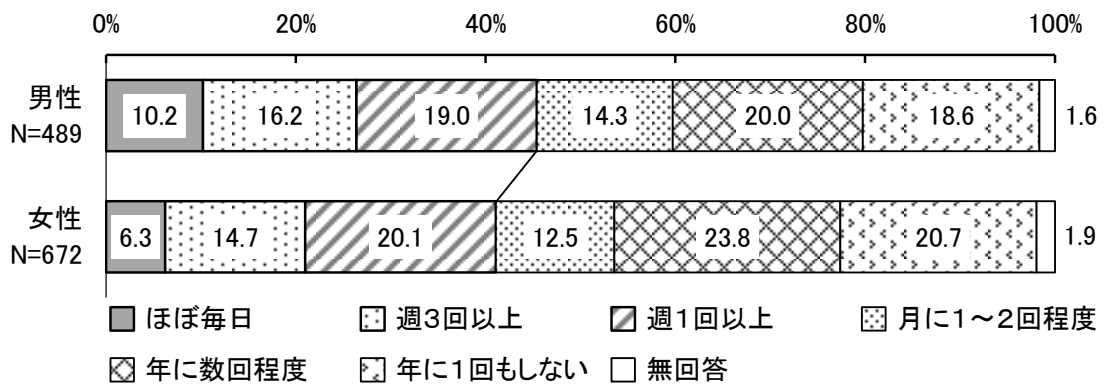
『週 1 回以上』を性別で見ると、男性 45.4%、女性 41.1%と 4.3 ポイント男性の方が高かった。年代別で見ると、30 歳代 (26.6%) や 40 歳代 (37.2%) の子育て・働き盛り世代が相対的に低かった。

「スポーツ（運動）」という言葉は、部活動や競技大会の印象から、激しい運動や勝敗を競うことと捉えている人が多い。「スポーツ基本法」において、「スポーツ」は競技としてルールに則り他者と競い合い自らの限界に挑戦するものだけでなく、健康維持や仲間との交流など、多様な目的で行うものもスポーツであると広く捉えられている。

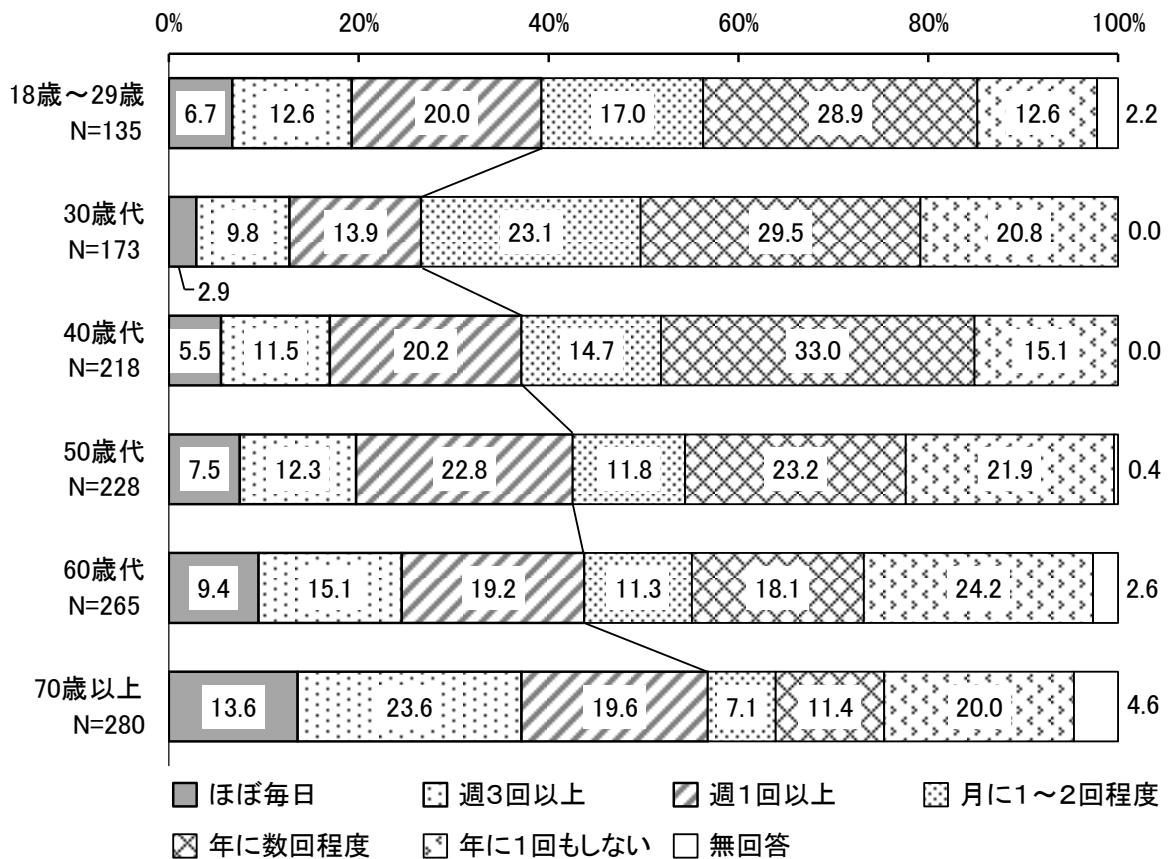
スポーツには、皆が日常の中で楽しんで実施する身体活動も含まれるということ共有し、スポーツそのものの捉え方について意識改革を図ることが大切である。

特に子育て・働き盛り世代には、スポーツ（運動）の捉え方の意識改革を図り、目的をもって楽しく体を動かすことが必要と考えられ、そのための働きかけを進めていくことが求められる。

【性別】

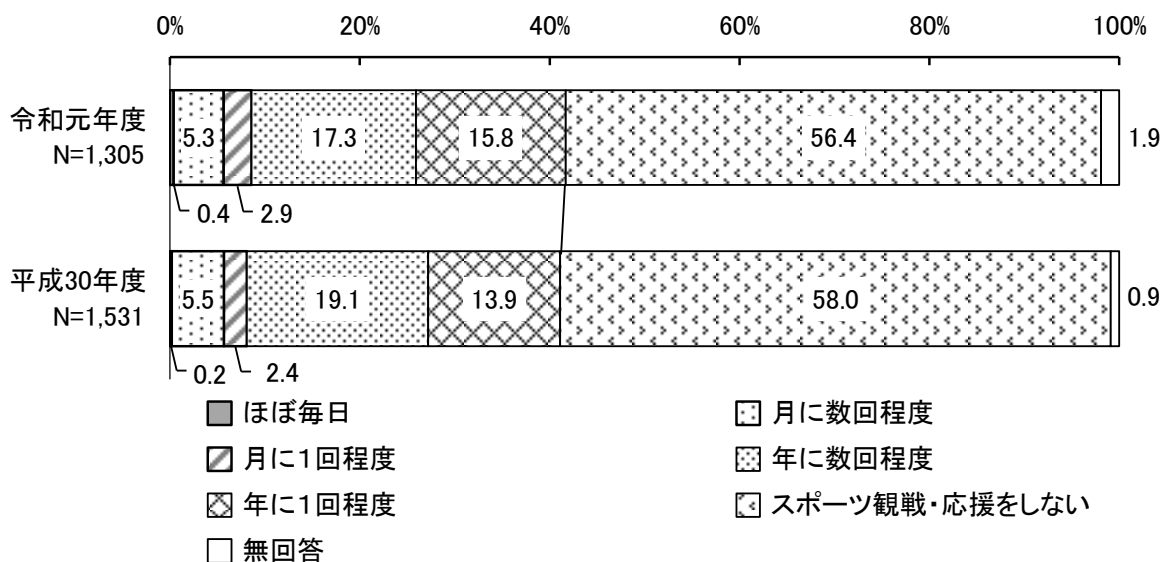


【年代別】



問 20 あなたは、過去 1 年間で実際に会場に出向いてスポーツ観戦・応援をどの程度行いましたか。プロスポーツだけでなく、地域のスポーツ活動や少年団などの観戦・応援も含まれます。(1つだけ○を付けてください)

『年 1 回以上』スポーツ観戦・応援した人は 41.7%



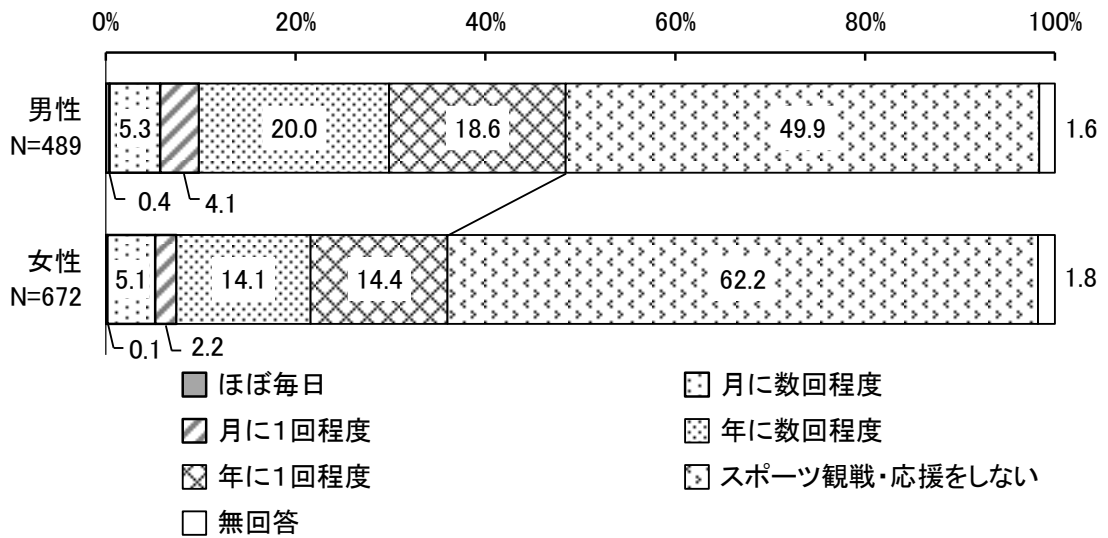
第 2 期浜松市スポーツ推進計画では、年 1 回以上のスポーツ観戦・応援実施率 50%程度を目標としているが、「ほぼ毎日」(0.4%)、「月に数回程度」(5.3%)、「月に 1 回程度」(2.9%)、「年に数回程度」(17.3%)、「年に 1 回程度」(15.8%)を合わせた『年 1 回以上』は 41.7%となり、推進計画の目標を 8.3 ポイント下回った。「スポーツ観戦・応援をしない」は 56.4%だった。また、平成 30 年度調査との比較では大きな変化は見られなかった。

『年 1 回以上』を性別で見ると、男性 48.4%、女性 35.9%と 12.5 ポイント男性の方が高かった。

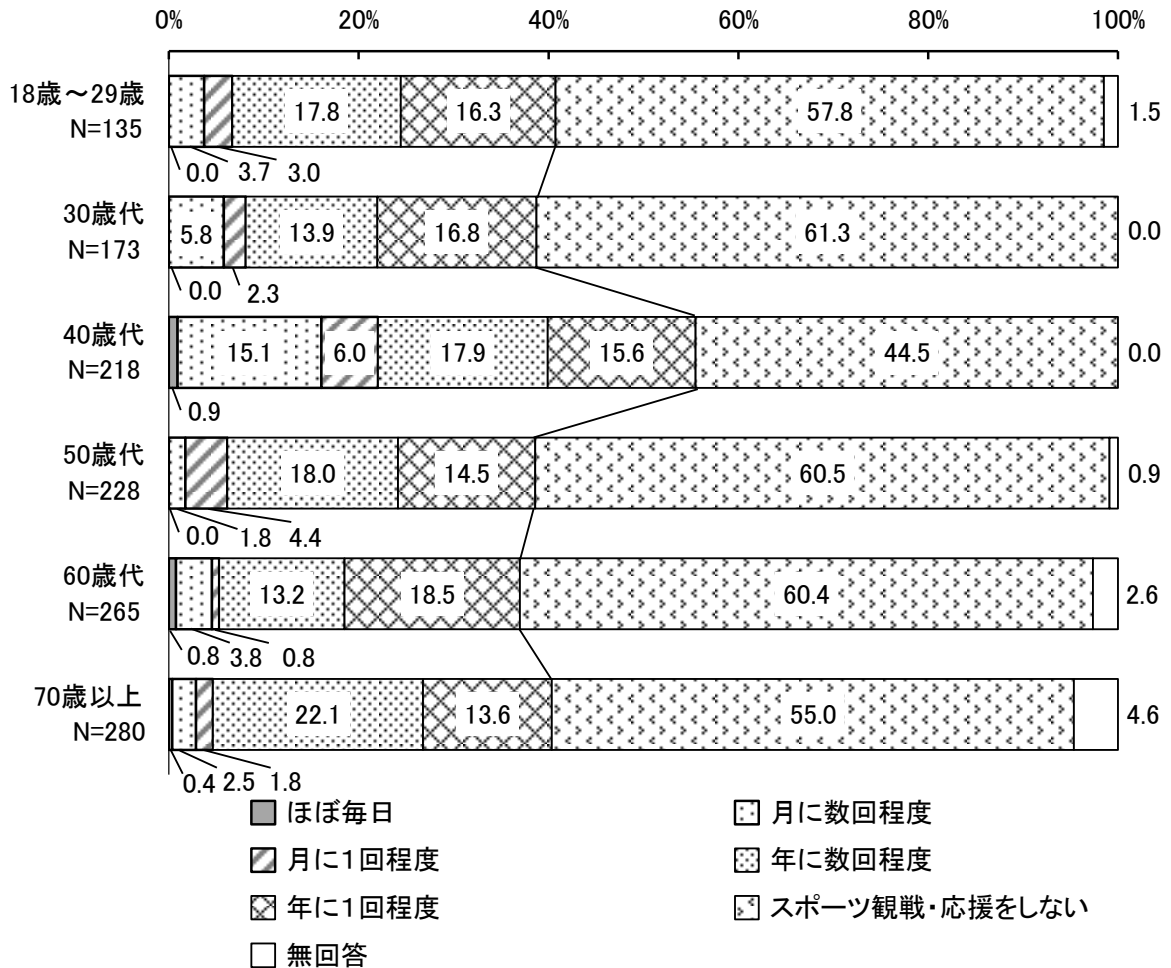
年代別にみると、40 歳代の 55.5%が最も高かった。これは、問 18 で 40 歳代が他世代に比べスポーツ活動の支援を行った割合が高かったことと同様に、40 歳代が自身の子供が参加するスポーツ少年団や部活動の送迎や手伝いなどの際に、試合も観戦していることが要因の 1 つと考えられる。

ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会と大型スポーツイベントの開催を契機に、スポーツと身近に接する機会創出のための施策を展開していきたい。

【性別】



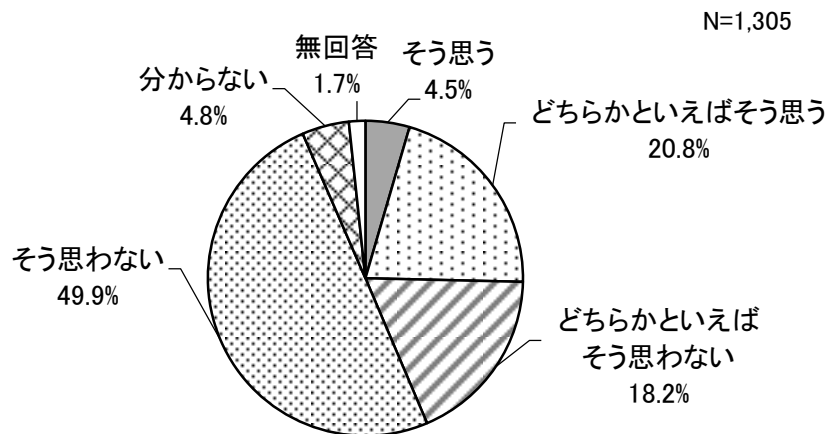
【年代別】



4-6 女性の活躍について

問 21 「夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい」という考え方について、あなたはどのように考えますか。また、「5. 分からない」とお答えされた方は、その理由を教えてください。（1つだけ○を付けてください）

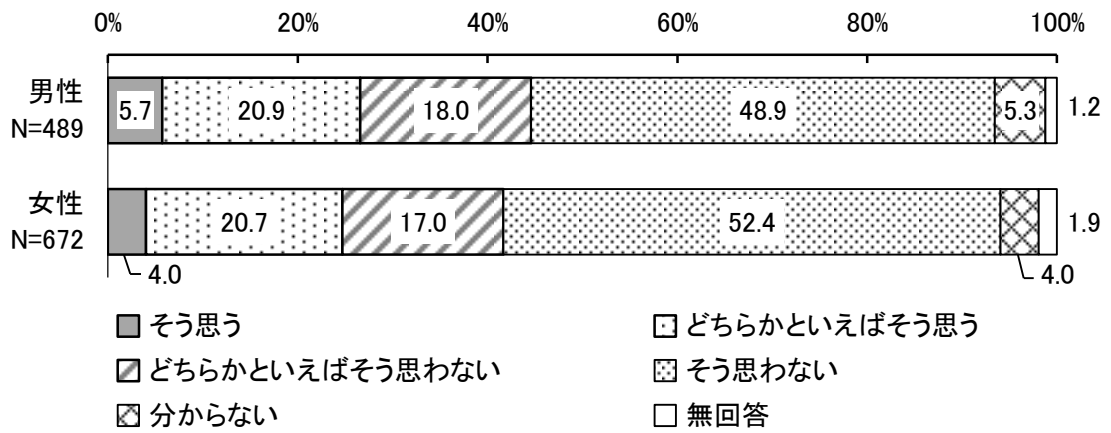
「夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい」という考え方について、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」人は 68.1%



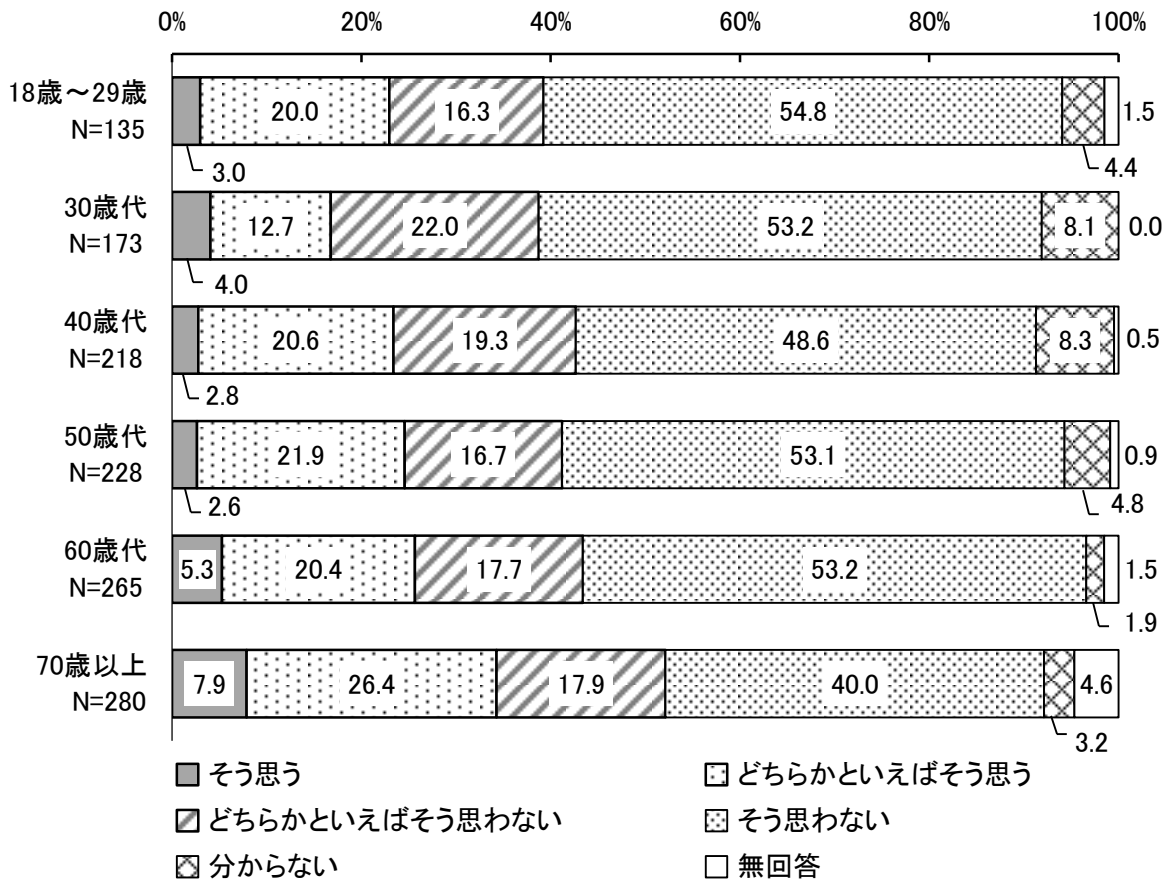
「そう思わない」と答えた割合が 49.9%と最も高く、ほぼ半数となった一方、「そう思う」と答えた割合は 4.5%にとどまった。「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた回答割合は 68.1%で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合 25.3%を 42.8ポイント上回った。

年代別にみると「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた回答割合は 30歳代が 75.2%と最も高く、次いで 18歳～29歳の 71.1%となった。

【性別】

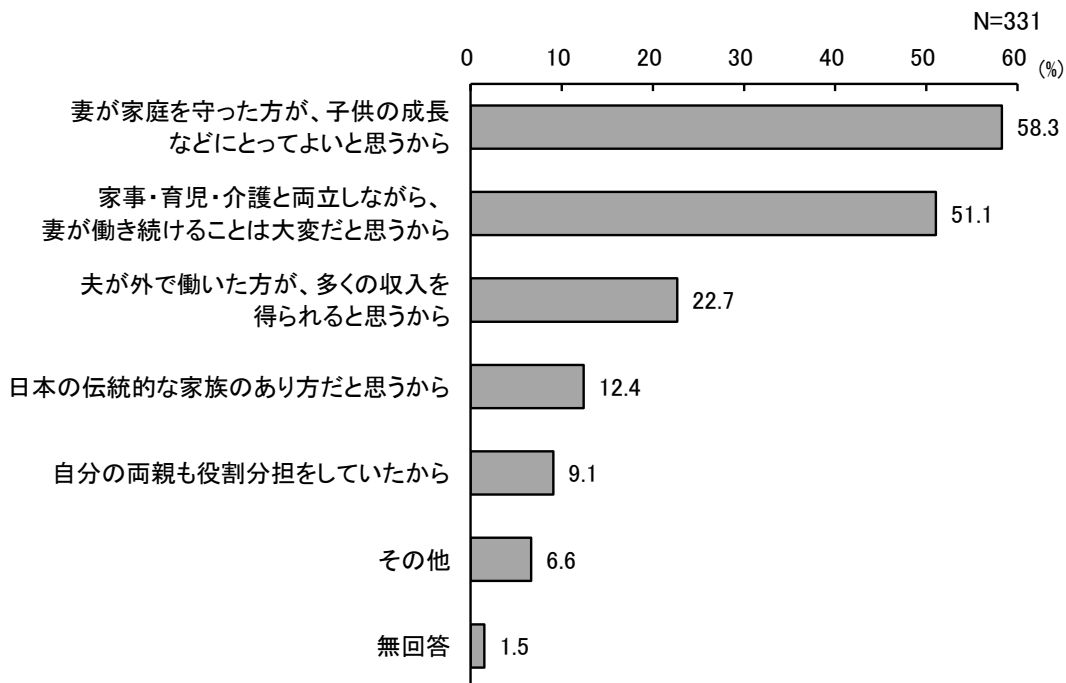


【年代別】



問 22 問 21 で「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」とお答えされた方に伺います。それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

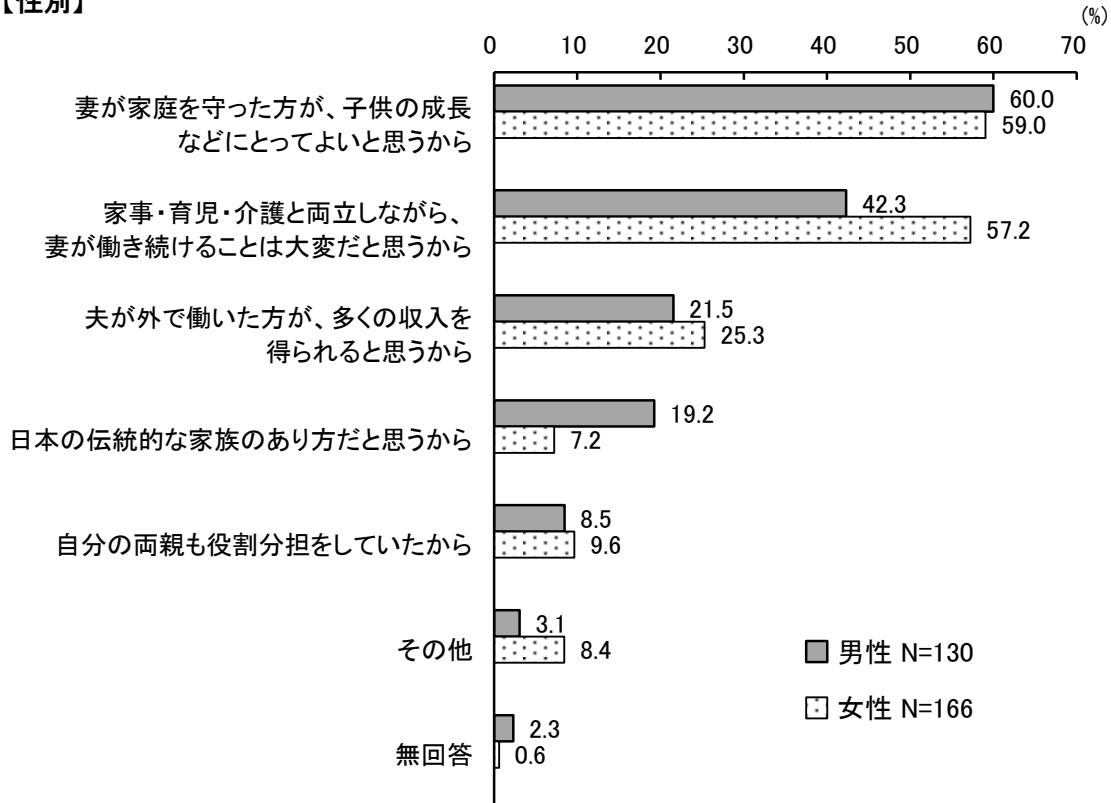
「妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとってよいと思うから」と回答した人は 58.3%



「妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとってよいと思うから」(58.3%)が最も高く、次いで、7.2ポイント差で「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」(51.1%)が続き、いずれも5割を超えた。

この上位2項目を性別で見ると、「妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとってよいと思うから」は、男性、女性、いずれも6割近く占めていたが、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」は男性が42.3%、女性が57.2%と14.9ポイントの差があり、性別によって差が見られた。また、上位2項目以外で特に男女間で差がみられた項目は「日本の伝統的な家族のあり方だと思うから」で、男性19.2%、女性7.2%と男性の回答割合が12.0ポイント上回った。

【性別】



【年代別】

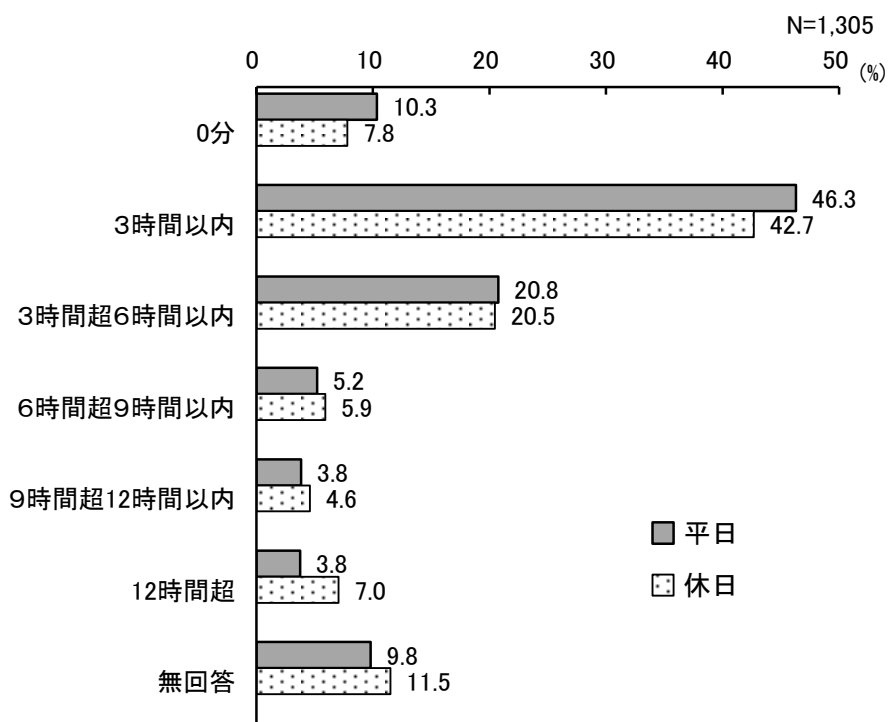
(単位:%)

		妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとってよいと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	日本の伝統的な家族のあり方だと思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	その他	無回答
全体	N=331	58.3	51.1	22.7	12.4	9.1	6.6	1.5
年代別	18歳～29歳 N=31	48.4	41.9	19.4	6.5	9.7	6.5	0.0
	30歳代 N=29	69.0	55.2	20.7	10.3	13.8	10.3	0.0
	40歳代 N=51	62.7	49.0	25.5	5.9	5.9	19.6	3.9
	50歳代 N=56	62.5	58.9	17.9	14.3	5.4	8.9	0.0
	60歳代 N=68	54.4	48.5	22.1	11.8	8.8	1.5	1.5
	70歳以上 N=96	56.3	51.0	26.0	17.7	11.5	1.0	2.1

問 23 家庭生活の中で、あなたが家事・育児・介護などに従事する1日の平均時間はどのくらいですか。平日、休日それぞれについてご記入ください。(数字を記入してください)

家事・育児・介護などに従事する平均時間は、女性の方が3時間以上長い

	平日平均時間	休日平均時間
全体	3時間26分	4時間20分
女性	5時間5分	5時間53分
男性	1時間9分	2時間17分

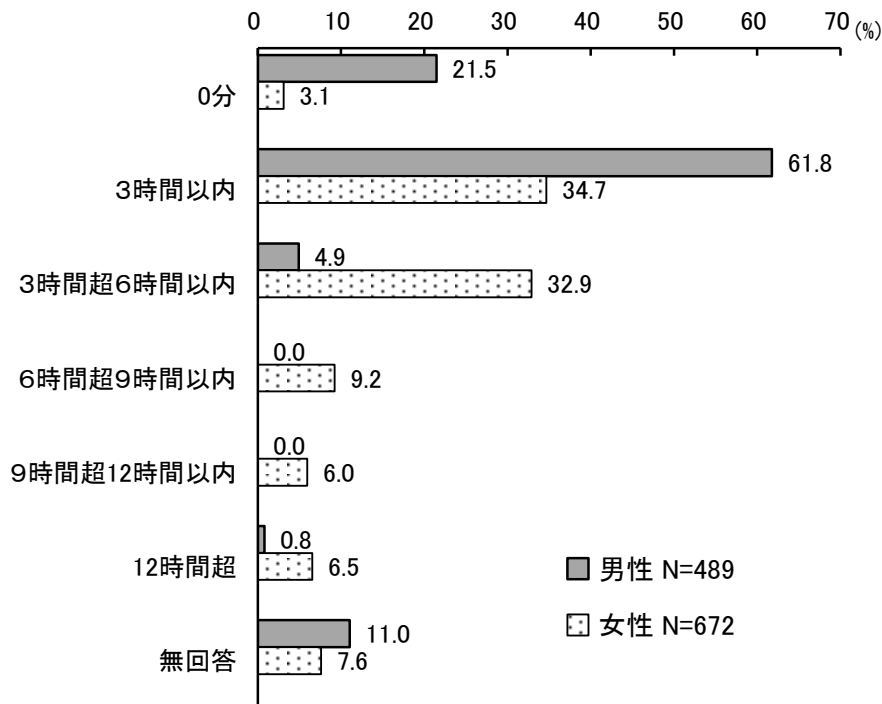


家庭生活の中で家事・育児・介護などに従事する1日の平均時間は、平日3時間26分、休日4時間20分であった。時間の区分で見ると、平日・休日とも「3時間以内」の回答割合が最も高く、次いで「6時間以内」が高かった。

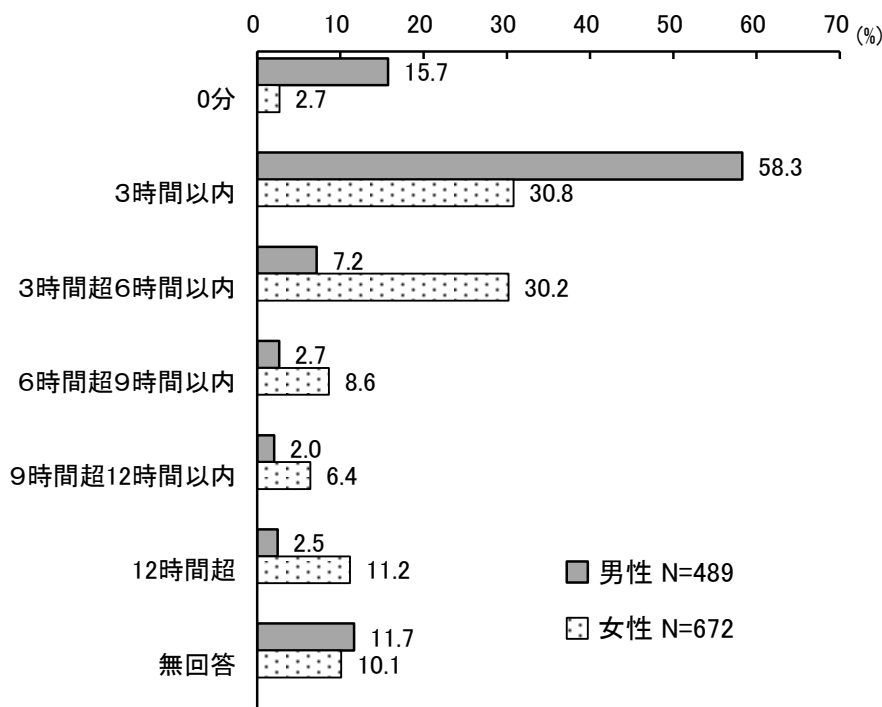
性別で見ると平日の平均時間は女性5時間5分、男性1時間9分で、3時間56分の差があり、男性は0分と答えた割合が21.5%あるなど、性別によって大きな差がみられた。また、休日の平均時間は女性5時間53分、男性2時間17分と女性の方が3時間36分長く、平日・休日とも女性の方が3時間以上長い結果となった。依然として家事・育児・介護などの多くを女性が担っている現状がうかがえる。

今回の調査結果から、「夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい」という性別役割分業に対する否定的な意見が、すべての年代において肯定的な意見を大きく上回っていたことから、男女共同参画の意識が広まりつつあることが推察される。しかしながら、女性の家事・育児・介護などの負担は依然として大きく、意識と現実との乖離^{かいり}が見られることから、男性が家事・育児・介護などにかかわることができない働き方をしている現状がうかがえる。

【性別（平日）】



【性別（休日）】

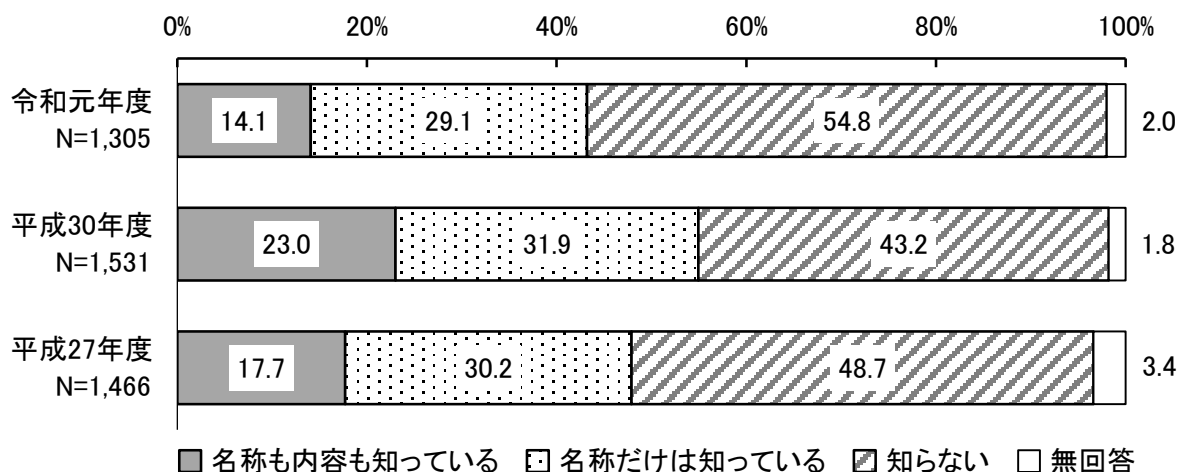


4-7 生物多様性について

問 24 あなたは「生物多様性※」についてご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

※生物多様性とは、生き物の豊かな個性とつながりのことです。すべての生き物には違い(「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」)があり、互いにつながり合い、支え合って生きています。

「生物多様性」の『認知度』は 43.2%

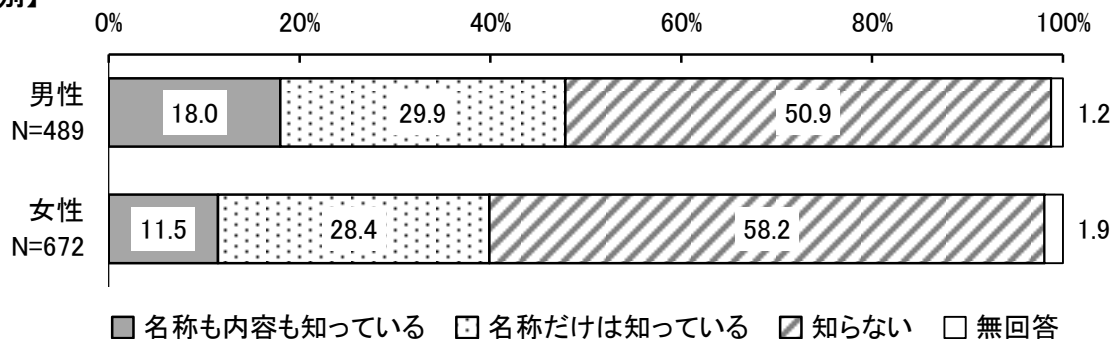


「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は 43.2%となり、平成 30 年度調査の 54.9%より 11.7 ポイント減少した。

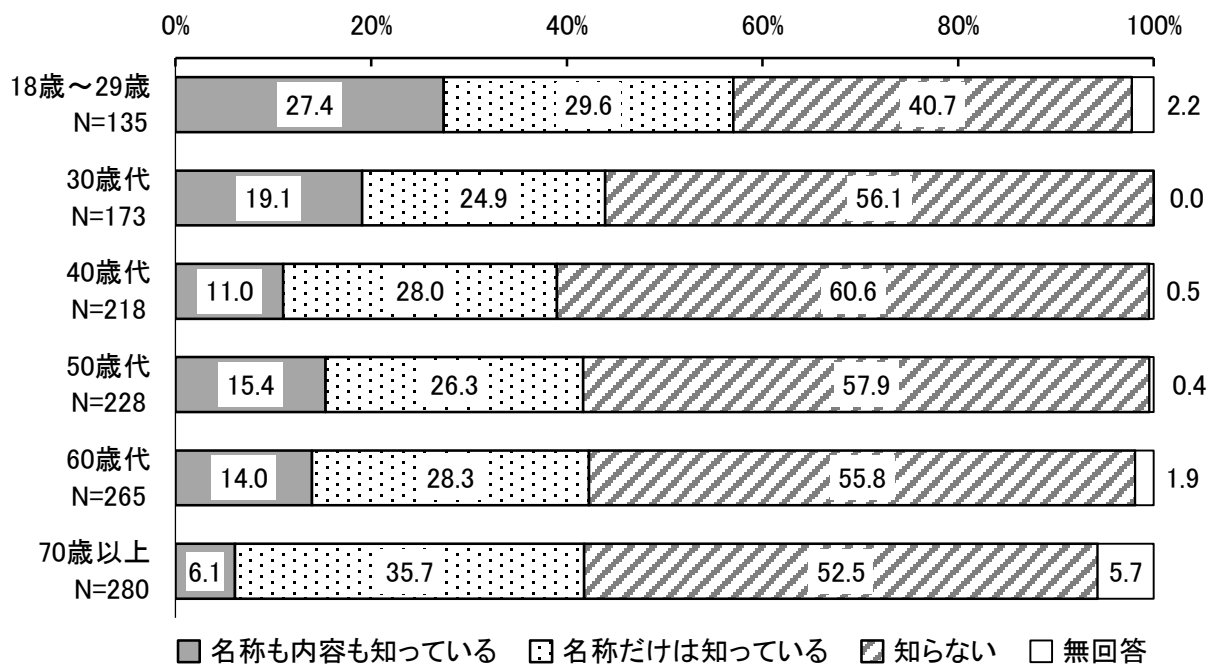
性別でみると、『認知度』は男性 47.9%、女性 39.9%と男性の方が 8 ポイント高かった。

年代別でみると、18 歳～29 歳の『認知度』は半数を超えており、それ以外の年代と差がみられた。職業別でみると、学生の『認知度』は 86.4%と高く、年代別、職業別の結果から若い世代は、他の年代と比べて「生物多様性」について知る機会が多いといえる。

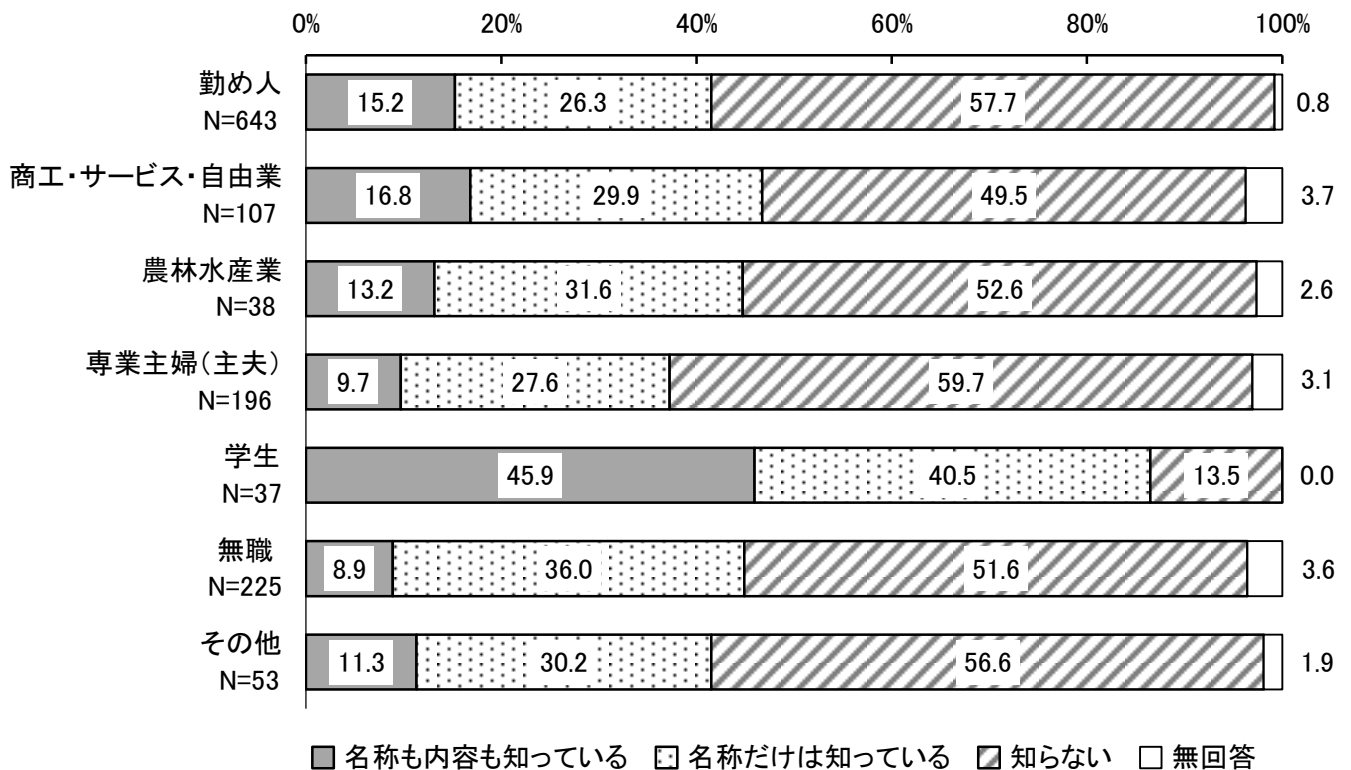
【性別】



【年代別】



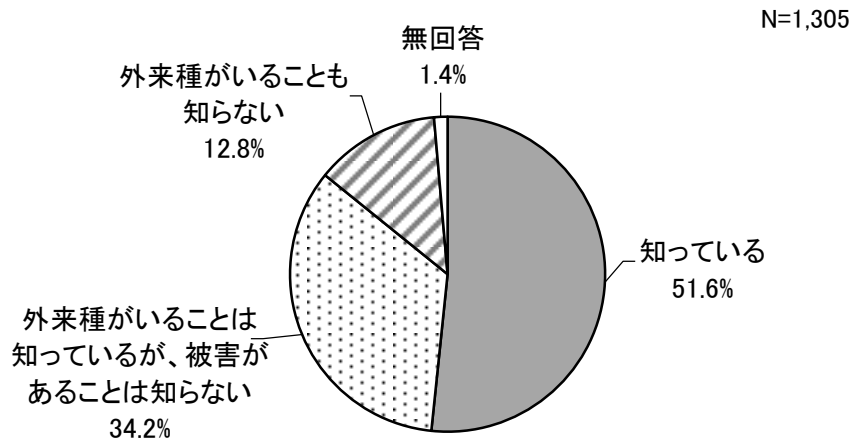
【職業別】



問 25 あなたは、市内でタイワンリスやアライグマなど外来種※による被害があることをご存じですか。（1つだけ○を付けてください）

※外来種とは、人為的に移入された、本来その地域にいなかった生物のことです。

外来種による被害があることを知っている人は 51.6%



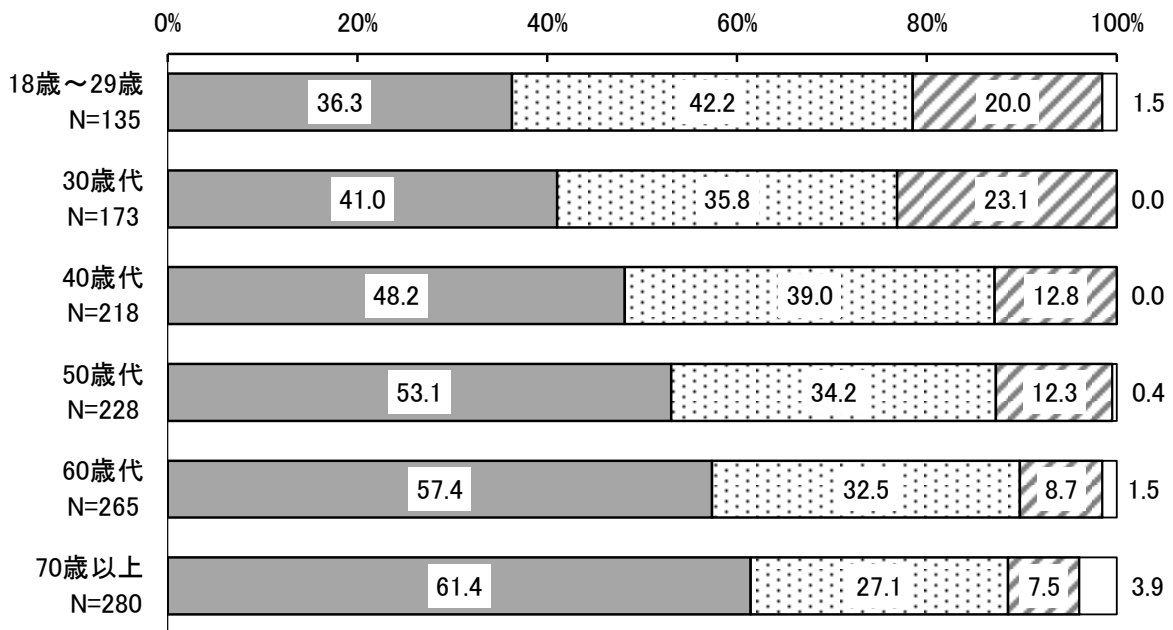
「知っている」と「外来種がいることは知っているが、被害があることは知らない」を合わせた市内に外来種がいることの『認知度』は 85.8%となり、外来種がいることを認識している市民の割合は高いといえる。

一方で、「外来種がいることは知っているが、被害があることは知らない」と「外来種がいることも知らない」を合わせると 47.0%となり、市民の半数近くは外来種による被害があることを認識していないことが分かった。

年代別でみると、外来種による被害があることを「知っている」と回答した割合は、年代が上がるほど高くなる傾向にあった。

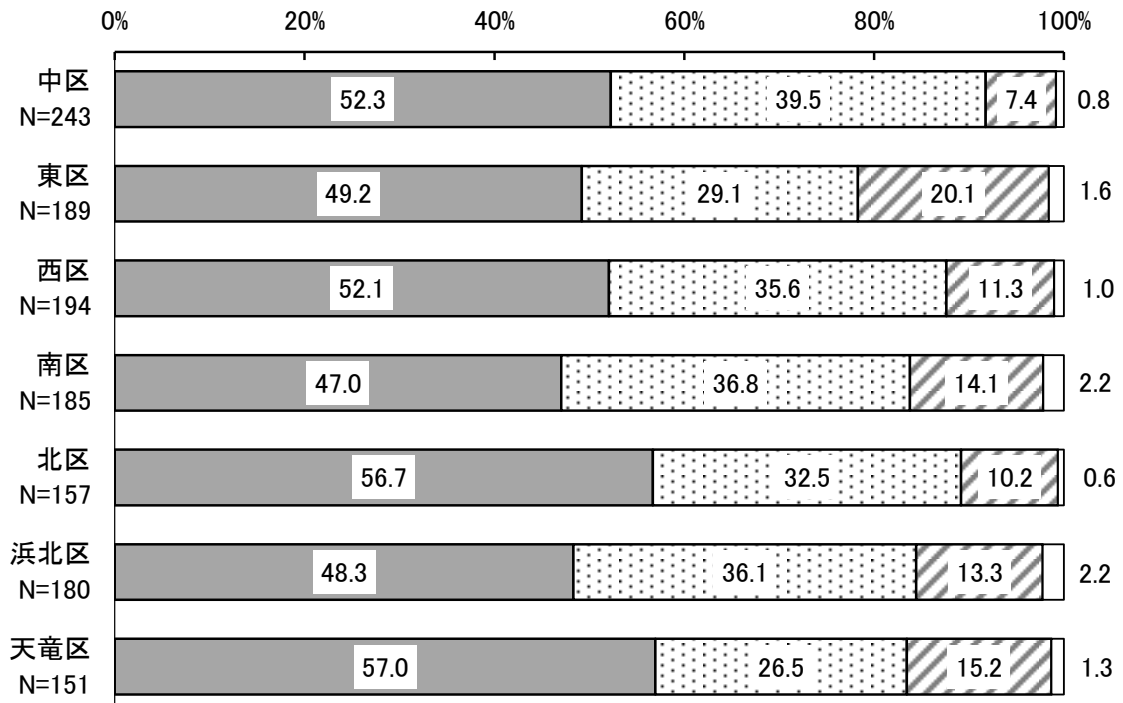
行政区別でみると、市内に外来種がいることの『認知度』は、中区が 91.8%と最も高く、北区の 89.2%、西区の 87.7%と続いている。これら3つの区は、中区と西区でタイワンリスが、北区でアライグマが多く生息している地域であり、そのことが影響していると考えられる。

【年代別】



- 知っている
- ▨ 外来種がいることは知っているが、被害があることは知らない
- ▧ 外来種がいることも知らない
- 無回答

【行政区別】



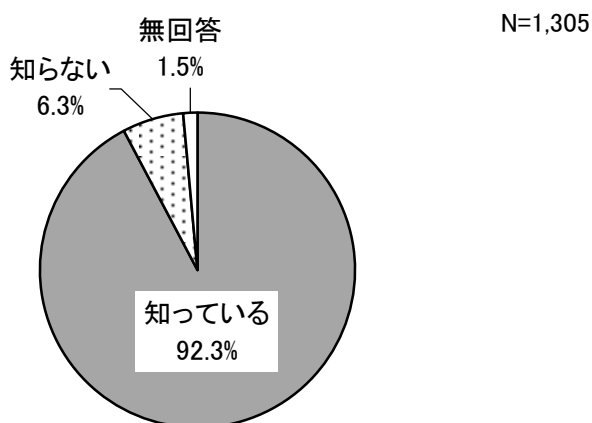
- 知っている
- ▨ 外来種がいることは知っているが、被害があることは知らない
- ▧ 外来種がいることも知らない
- 無回答

問 26 あなたは、「海洋プラスチックごみ問題※」をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

※海洋プラスチックごみ問題とは、海に漂流するプラスチックごみによる地球規模の環境汚染のことです。プラスチックは容易に自然分解されず、海洋生物がビニール袋を餌と間違えて食べてしまうなど、生態系への影響が報告されています。また、観光や漁業などの産業にも甚大な損失を与えています。

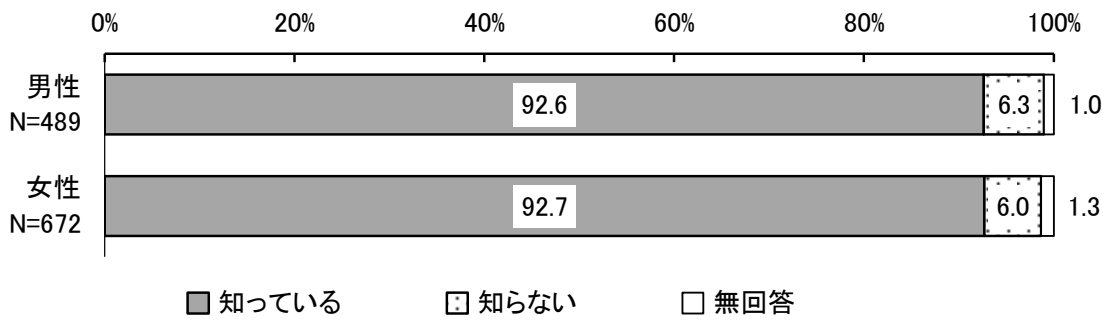
「海洋プラスチックごみ問題」を知っている人は 92.3%



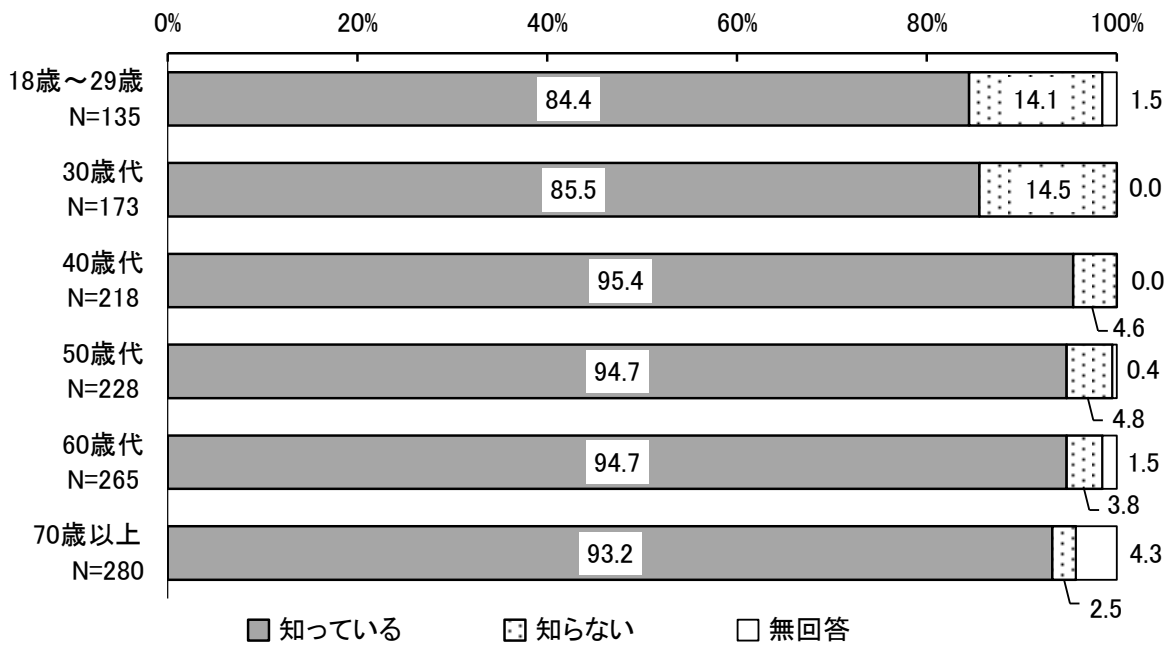
海洋プラスチックごみ問題について、9割以上(92.3%)が「知っている」と回答した。性別でも、男性の92.6%、女性の92.7%が「知っている」と回答しており、年代別でも18歳~29歳と30歳代が8割台とやや低いが、40歳代以上の9割以上が「知っている」と回答しているなど、性別や年代に関係なく認知されていることが分かる。本年5月に国で策定されたプラスチック資源循環戦略や6月に開催されたG20大阪サミットでの海洋プラスチックごみ対策実施枠組合意、あるいは海洋生物の被害など、海洋プラスチックごみに関わるさまざまな報道により、市民の認知が高まっていると推察される。

本市では、生物多様性保全を推進するため、3つの重点プロジェクト「市民が自ら調べるまち」「市民が自ら守るまち」「市民・事業者・行政がつながるまち」に取り組んでいる。市民が自然への関心を高める取り組みや外来種の防除、市民・事業者・行政の連携など、重点プロジェクトを推進することにより、広い年代にわたり生物多様性の認知度を高めるとともに、保全の重要性を周知啓発していく。

【性別】



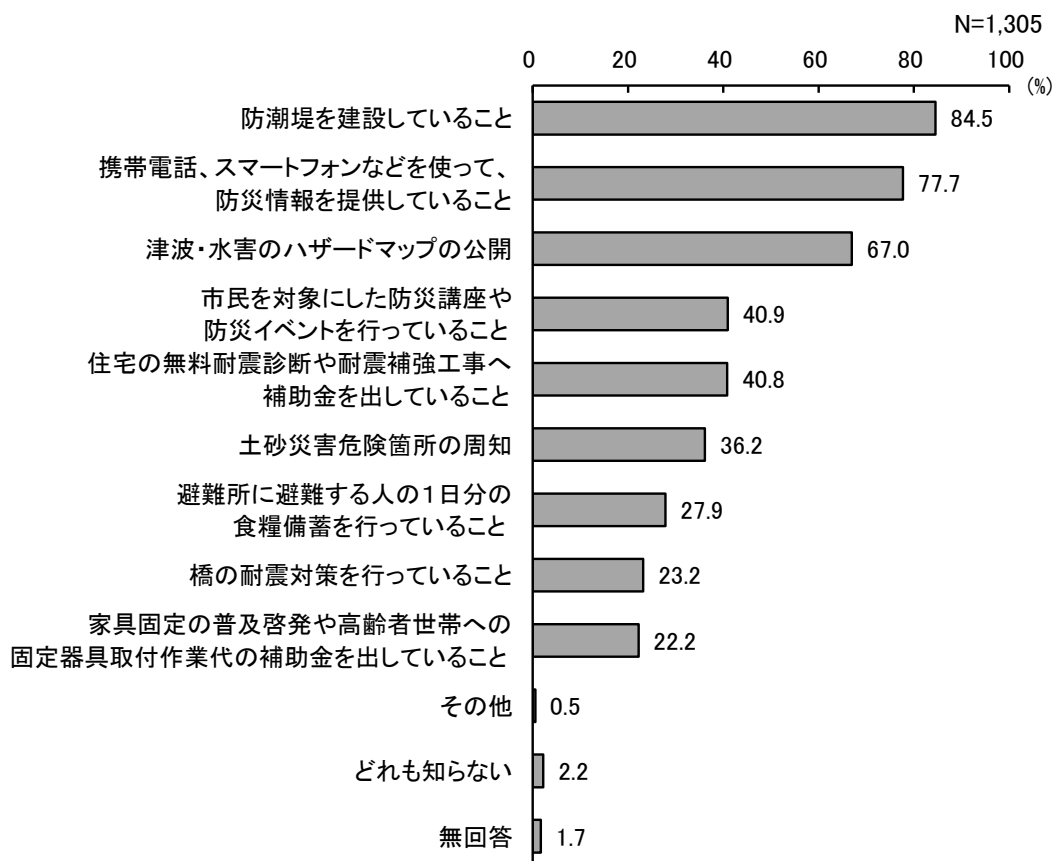
【年代別】



4-8 防災対策について

問 27 市が行っている防災対策のうち、あなたがご存じのものをお選びください。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

防潮堤を建設していることを知っている人は 84.5%



「防潮堤を建設していること」が 84.5%と最も高く、「携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること」の 77.7%、「津波・水害のハザードマップの公開」の 67.0%と続くが、それ以外の項目では、5割を下回った。「どれも知らない」は 2.2%と非常に低く、市民の防災対策への意識は比較的高いといえる。

年代別でみると、全体での回答上位3項目はいずれの年代でもおおむね認知度が高い傾向にあった。これら3項目以外では60歳代、70歳以上が他年代と比較して認知度が高く、広く防災対策の情報を見聞きしているといえる。

行政区別でみると、「防潮堤を建設していること」は、南区 (94.6%) や西区 (90.7%) で高く、北区 (78.3%)、浜北区 (79.4%)、天竜区 (79.5%)、東区 (79.9%) でやや低かった。また、「津波・水害のハザードマップの公開」は天竜区 (55.0%)、北区 (58.0%) で低かったが、「土砂災害危険箇所の周知」では天竜区 (56.3%) で高く、南区 (26.5%) や中区 (28.4%)、東区 (30.2%) で低いなど、地域の災害事象による特徴がみられる結果となった。

このように、災害の危険を身近に感じることで、防災対策への関心にもつながっていると考えられる。

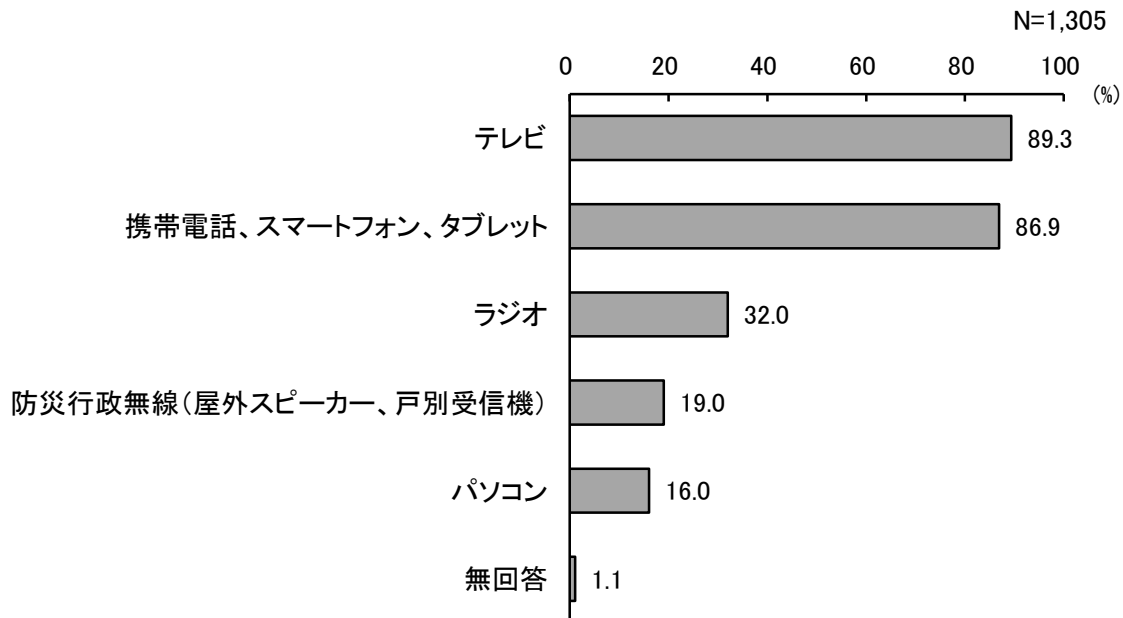
【年代別・行政区別】

(単位:%)

		防潮堤を建設していること	携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること	津波・水害のハザードマップの公開	市民を対象にした防災講座や防災イベントを行っていること	住宅の無料耐震診断や耐震補強工事へ補助金を出していること	土砂災害危険箇所の周知	避難所に避難する人の1日分の食糧備蓄を行っていること	橋の耐震対策を行っていること	家具固定の普及啓発や高齢者世帯への固定器具取付作業代の補助金を出していること	その他	どれも知らない	無回答
全体 N=1,305		84.5	77.7	67.0	40.9	40.8	36.2	27.9	23.2	22.2	0.5	2.2	1.7
年代別	18歳～29歳 N=135	71.9	71.9	64.4	34.8	11.1	25.9	12.6	13.3	6.7	0.0	5.9	0.7
	30歳代 N=173	76.3	75.1	68.2	31.8	22.5	36.4	15.6	18.5	12.7	0.6	4.0	2.9
	40歳代 N=218	86.7	83.5	73.9	39.9	36.2	37.6	26.1	22.0	18.3	0.0	0.9	0.5
	50歳代 N=228	89.0	78.5	73.7	38.6	39.0	36.8	29.4	20.6	25.4	0.9	0.0	0.4
	60歳代 N=265	88.3	81.5	69.8	47.2	53.6	41.9	38.1	29.1	30.2	1.1	1.9	1.5
	70歳以上 N=280	86.4	73.6	54.6	45.7	59.6	33.2	33.2	28.2	28.2	0.4	2.5	3.6
行政区別	中区 N=243	86.0	80.7	70.0	35.4	36.2	28.4	26.7	15.2	18.5	0.4	2.5	1.6
	東区 N=189	79.9	73.0	69.8	37.6	40.2	30.2	24.3	22.8	20.1	0.5	5.3	2.1
	西区 N=194	90.7	74.2	70.6	45.4	44.3	42.3	30.9	24.2	18.6	1.5	0.5	1.5
	南区 N=185	94.6	80.0	74.1	42.2	44.9	26.5	31.9	23.8	29.7	0.5	0.5	1.1
	北区 N=157	78.3	82.2	58.0	43.3	34.4	37.6	25.5	23.6	16.6	0.6	3.2	1.3
	浜北区 N=180	79.4	80.0	67.2	43.3	41.1	37.8	25.6	20.0	23.9	0.0	0.6	1.7
	天竜区 N=151	79.5	73.5	55.0	40.4	47.0	56.3	31.1	38.4	30.5	0.0	3.3	2.6

問 28 あなたが災害情報を得る手段を教えてください。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

災害情報を得る手段はテレビが 89.3%、携帯電話、スマートフォン、タブレットが 86.9%



災害情報を得る手段は、「テレビ」が 89.3%、「携帯電話、スマートフォン、タブレット」が 86.9%と 8 割を超えており、多くの市民がこれらを情報入手の手段としている。次いで、「ラジオ」の 32.0%、「防災行政無線（屋外スピーカー、戸別受信機）」の 19.0%、パソコンの 16.0%と続いている。

年代別でみると、「テレビ」「携帯電話、スマートフォン、タブレット」はいずれの年代でも災害情報を得る手段として利用されていることが分かる。他には、「ラジオ」が 60 歳代で 42.3%、70 歳以上で 45.7%と高く、「防災行政無線（屋外スピーカー、戸別受信機）」も 60 歳代で 22.6%、70 歳以上で 30.0%と他の年代に比べ高かった。年代が高い人にとって「ラジオ」「防災行政無線（屋外スピーカー、戸別受信機）」は情報を得る手段として必要とされているといえる。

行政区別でみると、「テレビ」「携帯電話、スマートフォン、タブレット」はいずれの行政区でも高かった。他には、北区と浜北区で「防災行政無線（屋外スピーカー、戸別受信機）」（それぞれ 34.4%、30.0%）が、天竜区で「ラジオ」（42.4%）と「防災行政無線（屋外スピーカー、戸別受信機）」（51.0%）が他の行政区と比べて高かった。

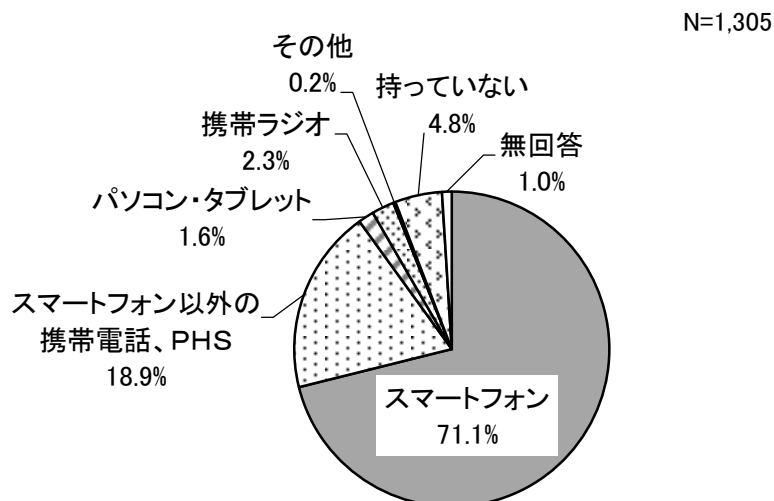
【年代別・行政区別】

(単位:%)

		テレビ	携帯電話、タブレット、スマートフォン、	ラジオ	防災行政無線(屋外スピーカー、戸別受信機)	パソコン	無回答
全体 N=1,305		89.3	86.9	32.0	19.0	16.0	1.1
年代別	18歳~29歳 N=135	85.2	97.0	14.1	6.7	20.0	0.7
	30歳代 N=173	81.5	96.5	19.7	11.0	16.8	1.2
	40歳代 N=218	86.2	95.4	25.7	15.6	18.3	0.5
	50歳代 N=228	92.1	91.7	28.5	18.0	21.1	0.0
	60歳代 N=265	94.3	85.3	42.3	22.6	15.1	0.4
	70歳以上 N=280	91.4	67.1	45.7	30.0	8.6	3.2
行政区別	中区 N=243	89.3	92.6	32.1	2.9	21.0	0.8
	東区 N=189	89.4	87.3	27.5	4.8	11.6	1.1
	西区 N=194	90.7	84.0	30.4	13.9	14.9	0.5
	南区 N=185	91.4	88.6	34.1	10.3	17.3	1.1
	北区 N=157	88.5	81.5	34.4	34.4	14.0	1.3
	浜北区 N=180	86.1	92.2	24.4	30.0	15.0	0.6
	天竜区 N=151	89.4	77.5	42.4	51.0	16.6	2.6

問 29 あなたが外出時に持ち歩く情報受信端末はどれですか。
(主なものに1つだけ○を付けてください)

外出時に持ち歩く情報受信端末はスマートフォンが71.1%



外出時に持ち歩く情報受信端末は、「スマートフォン」が71.1%、「スマートフォン以外の携帯電話、PHS」が18.9%で、これら2項目で9割を占める。

年代別でみると、「スマートフォン」は18歳～29歳で93.3%、30歳代で88.4%、40歳代で91.7%、50歳代で83.3%と、50歳代までの各年代で回答割合が8割を超えた。一方、60歳代と70歳以上では「スマートフォン」はそれぞれ63.4%、31.4%となり、50歳代までと比べると低かったが、「スマートフォン」と「スマートフォン以外の携帯電話、PHS」を合わせた割合でみると60歳代以下はすべての年代で9割を超え、70歳以上は約7割となった。また、「持っていない」が70歳以上で16.4%の回答であった。年代別では60歳代、70歳以上では50歳代以下とは異なる傾向にあるといえる。

【年代別】

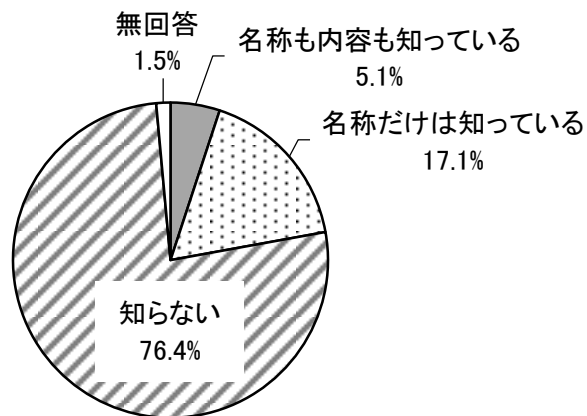
(単位:%)

		スマートフォン	スマートフォン以外の 携帯電話、PHS	パソコン・タブレット	携帯ラジオ	その他	持っていない	無回答
全体 N=1,305		71.1	18.9	1.6	2.3	0.2	4.8	1.0
年代別	18歳～29歳 N=135	93.3	3.0	2.2	0.0	0.0	0.0	1.5
	30歳代 N=173	88.4	4.6	2.9	1.2	0.0	1.7	1.2
	40歳代 N=218	91.7	5.0	1.8	0.5	0.0	0.5	0.5
	50歳代 N=228	83.3	12.3	0.9	1.3	0.9	1.3	0.0
	60歳代 N=265	63.4	29.1	0.8	2.6	0.0	3.8	0.4
	70歳以上 N=280	31.4	41.8	1.8	5.7	0.4	16.4	2.5

問 30 あなたは、高齢者や障がいのある人、妊産婦、乳幼児などのうち、地域の避難所で生活が困難な人のために開設される「福祉避難所」をご存じですか。
(1つだけ○を付けてください)

「福祉避難所」を知っている人は22.2%

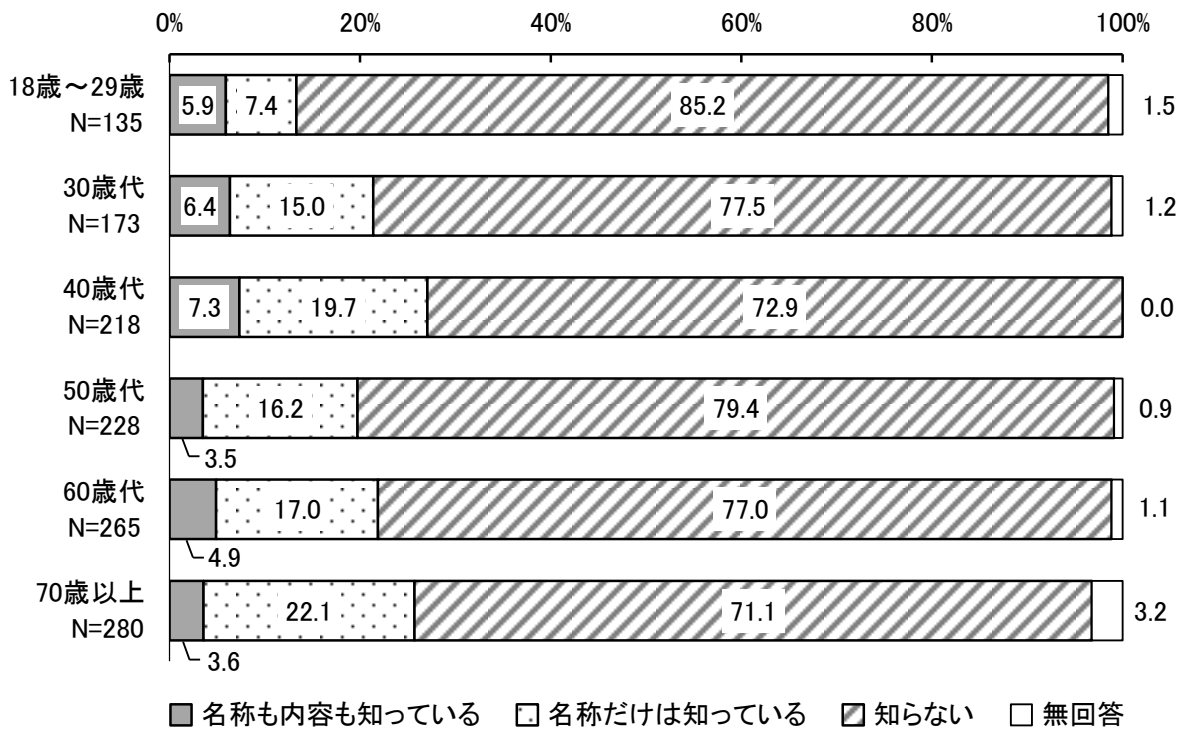
N=1,305



「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた福祉避難所の『認知度』は22.2%であった。しかし、「名称も内容も知っている」に限ると5.1%にとどまり、9割以上が福祉避難所の内容を知らない結果となった。

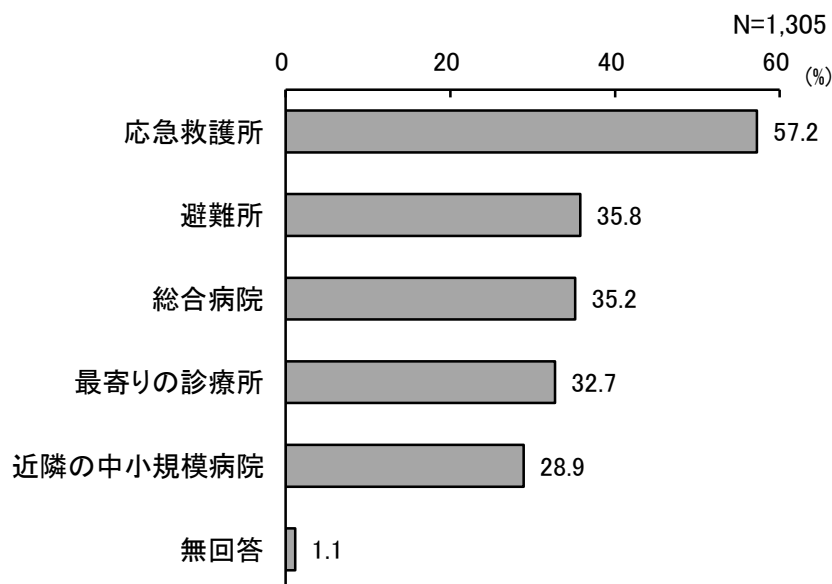
年代別でみると、『認知度』は40歳代で27.0%、70歳以上で25.7%と、他と比べてやや高かった。これは、高齢者や高齢者を介護する年代であることが要因と推察される。ただ、70歳以上で「名称も内容も知っている」が3.6%など、必要とされる年代でも認知度は極めて低い。福祉避難所は、災害時に地域の避難所での生活が困難な方が利用できる二次的な避難所であるが、福祉避難所の円滑な運営のためにも、設置の目的や設置基準などの内容を含めた認知度の向上を図っていく必要があるといえる。

【年代別】



問 31 大規模災害が発生し、あなたや周りの人が大きなけが（骨折、大量の出血など）を負った場合、あなたはどこで応急処置をしてもらおうと考えますか。
（あてはまるものすべてに○を付けてください）

医療機関などと同程度の割合で、医療資源がない避難所への回答がある



大規模災害時に応急処置をしてもらおうと考える場所は、「応急救護所」が 57.2%と最も高く、「避難所」の 35.8%、「総合病院」の 35.2%、「最寄りの診療所」の 32.7%、「近隣の中小規模病院」の 28.9%と続いている。「総合病院」「最寄りの診療所」および「近隣の中小規模病院」がそれぞれ約3割の回答があることから、発災時には負傷した市民が直接医療機関へ向かうことが考えられ、そのことを想定した計画を立てていく必要がある。

一方で、医療資源がない「避難所」と回答した割合が、「総合病院」「最寄りの診療所」「近隣の中小規模病院」などと同程度あった。この結果から、負傷者への対応において“応急救護所・医療機関”と“避難所”で違いがあることや、負傷した際の市民の行動について普段から周知徹底する必要があるといえる。

年代別でみると、「避難所」の回答割合が、年代が高くなるほどおおむね低くなる傾向にあった。

行政区別でみると、天竜区で「避難所」(42.4%)の回答割合が他の行政区と比べて高く、「総合病院」(23.8%)が低かった。

【年代別・行政区別】

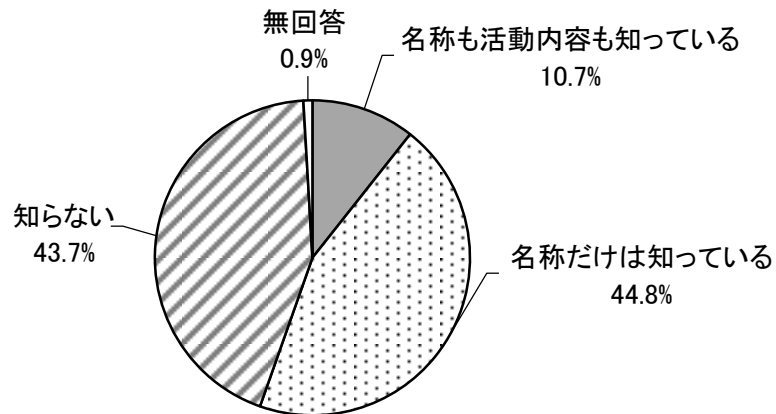
(単位:%)

		応急救護所	避難所	総合病院	最寄りの診療所	近隣の中小規模病院	無回答
全体 N=1,305		57.2	35.8	35.2	32.7	28.9	1.1
年代別	18歳～29歳 N=135	52.6	39.3	32.6	39.3	31.1	1.5
	30歳代 N=173	48.6	49.1	38.2	35.3	23.1	1.2
	40歳代 N=218	63.3	39.9	33.5	34.4	27.5	0.0
	50歳代 N=228	55.3	32.9	38.6	33.8	32.0	0.0
	60歳代 N=265	60.8	29.8	30.2	32.8	34.7	0.4
	70歳以上 N=280	58.9	30.7	38.2	25.7	25.0	3.6
行政区別	中区 N=243	57.6	35.0	40.7	34.6	31.3	0.4
	東区 N=189	51.9	40.2	29.1	30.2	27.5	1.6
	西区 N=194	58.2	34.5	44.3	31.4	28.4	0.5
	南区 N=185	57.8	28.6	36.8	37.3	30.8	1.6
	北区 N=157	57.3	35.0	35.0	27.4	26.8	2.5
	浜北区 N=180	64.4	36.1	33.3	30.0	28.9	1.1
	天竜区 N=151	52.3	42.4	23.8	37.7	28.5	0.7

問 32 あなたは、災害時に一部の避難所などに併設される「応急救護所」をご存じですか。
 (1つだけ○を付けてください)

「応急救護所」の『認知度』は 55.5%

N=1,305



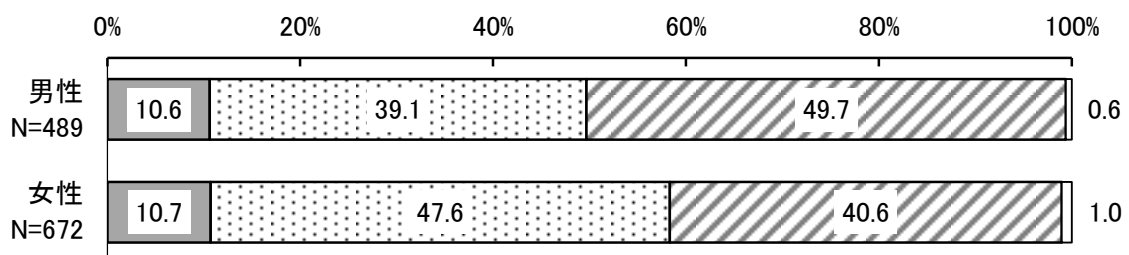
応急救護所の「名称も活動内容も知っている」人の割合は 10.7%と 1 割程度であり、「名称だけは知っている」と「知らない」を合わせた活動内容を知らない割合は 88.5%と 9 割近くになった。

性別でみると、「名称も活動内容も知っている」に差はなく、「知らない」で男性 49.7%、女性 40.6%と男性の方が知らないとする割合が高かった。

年代別でみると、「名称も活動内容も知っている」では年代別での傾向はみられなかったが、「知らない」割合は、18 歳～29 歳、30 歳代で 5 割を超え、若い世代で知られていないといえる。

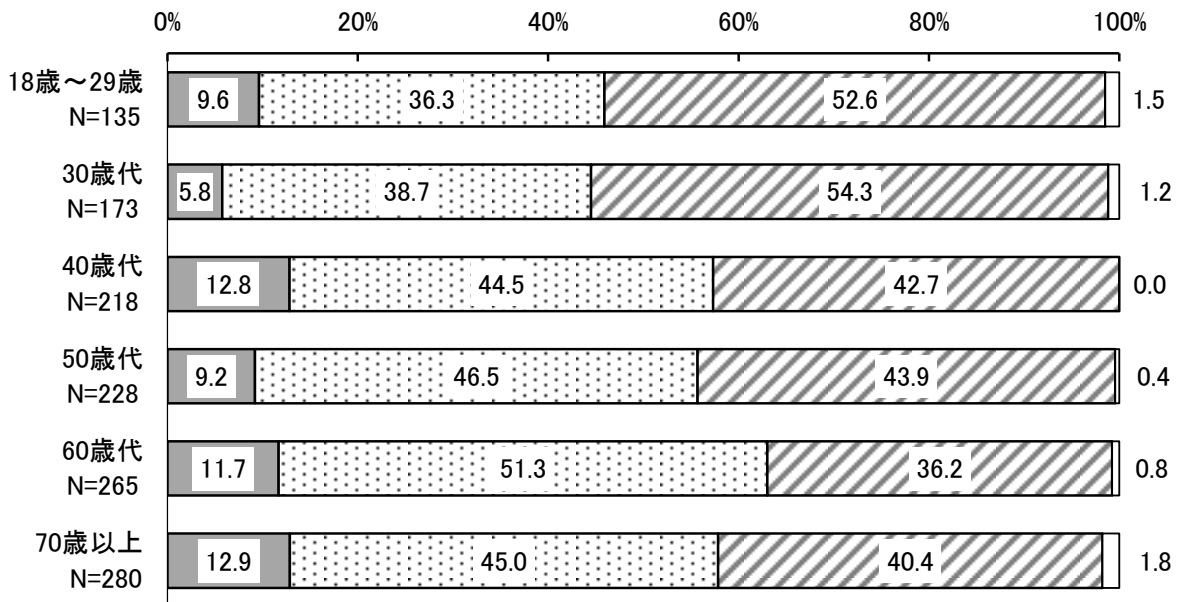
応急救護所は軽傷者の処置をする施設で重傷者への処置はできないなど、名称だけでなく応急救護所が持つ機能も把握しておく必要がある。災害時に混乱を招かないためにも活動内容も含めて認知されていくような取り組みが必要であるといえる。

【性別】



■ 名称も活動内容も知っている □ 名称だけは知っている ▨ 知らない □ 無回答

【年代別】



■ 名称も活動内容も知っている □ 名称だけは知っている ▨ 知らない □ 無回答

【応急救護所の認知度別希望する応急処置の場所】

(単位: %)

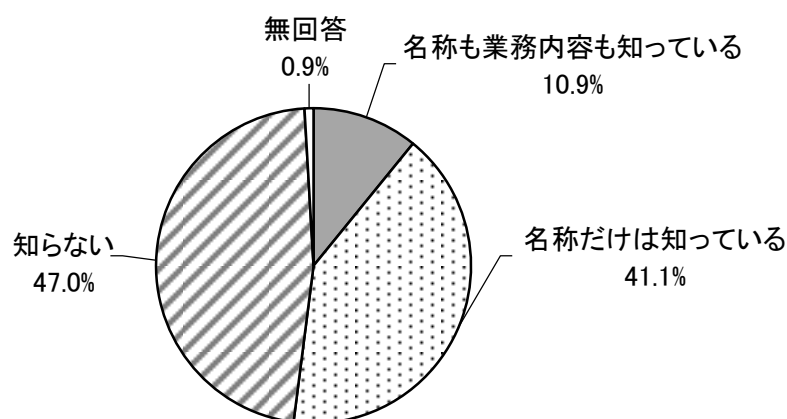
		応急救護所	避難所	総合病院	最寄りの診療所	近隣の中小規模病院	無回答
全体 N=1,305		57.2	35.8	35.2	32.7	28.9	1.1
認知度別	名称も活動内容も知っている N=139	80.6	38.8	30.2	24.5	29.5	0.0
	名称だけは知っている N=584	75.0	35.1	32.7	29.6	27.7	0.2
	知らない N=570	34.2	36.3	39.5	38.4	30.4	0.7

4-9 消費生活について

問 33 浜松市の「くらしのセンター」では、商品やサービスの契約・解約など消費生活に関する相談、民事（離婚・相続など）に関する相談、交通事故による賠償問題に関する相談などを実施しています。あなたは「くらしのセンター」をご存じですか。
(1つだけ○を付けてください)

「くらしのセンター」の『認知度』は 52.0%

N=1,305



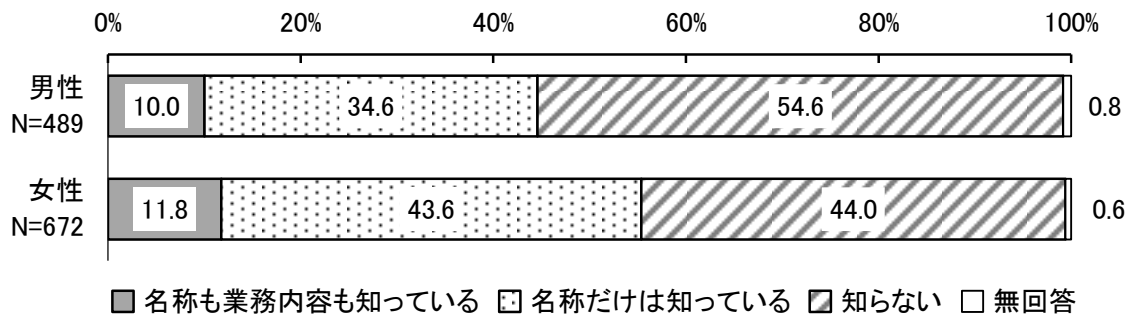
「名称も業務内容も知っている」(10.9%)と「名称だけは知っている」(41.1%)を合わせた『認知度』は52.0%となり、「知らない」の47.0%を5ポイント上回った。

性別でみると、『認知度』は男性が44.6%、女性が55.4%と、女性の方が10.8ポイント高かった。

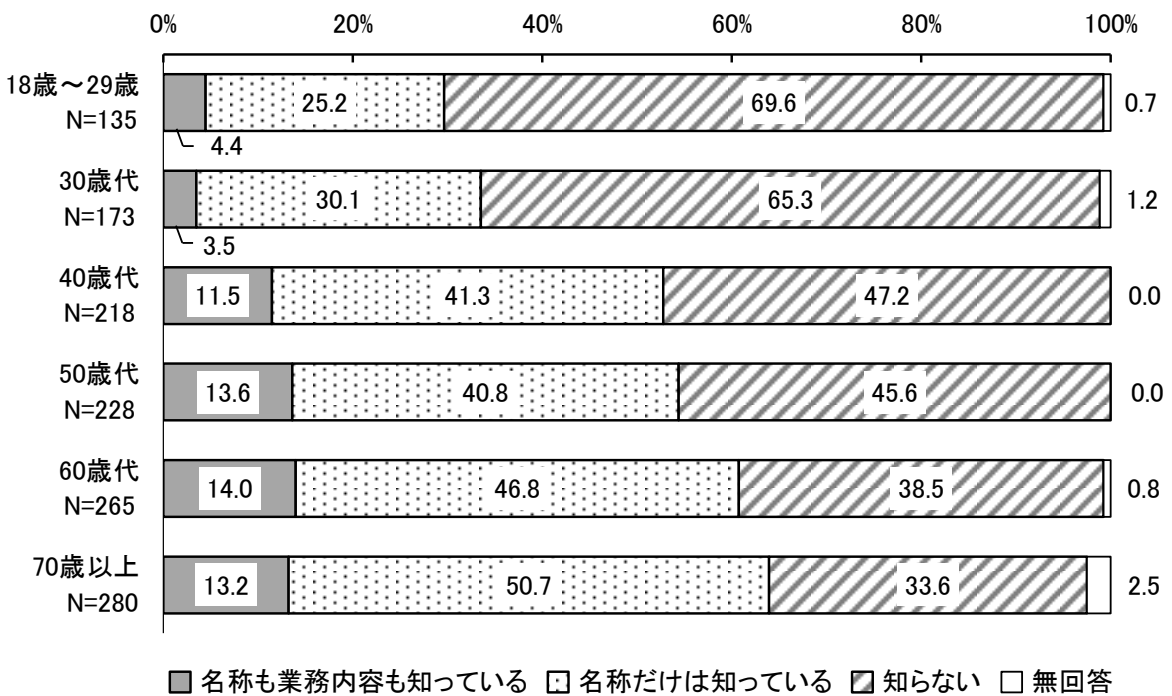
年代別でみると、40歳代以上は『認知度』が5割を超えている一方で、18歳～29歳が29.6%、30歳代が33.6%と、年代が低いほど『認知度』が低くなる傾向が見られた。

全体の『認知度』は半数を超えているものの、より市民サービスを向上していくためには、名称と共に業務内容を周知することが必要であり、出前講座やセミナーなどを通じて、積極的な普及・啓発に努める必要がある。

【性別】

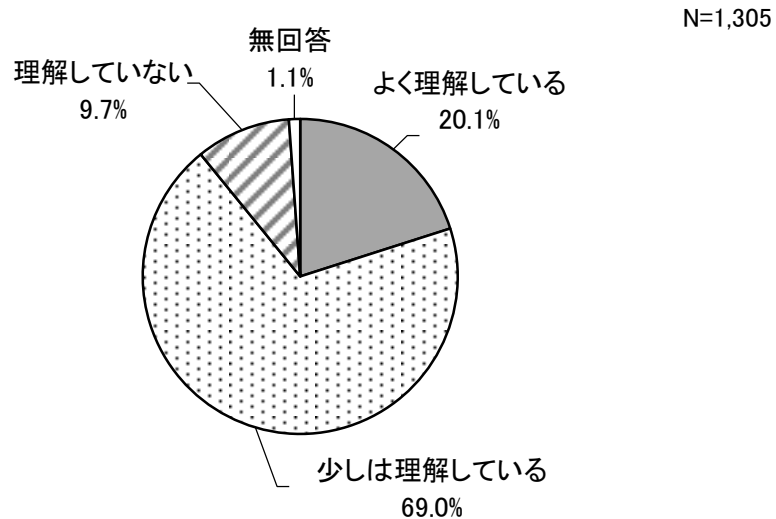


【年代別】



問 34 あなたは、商品を購入したりサービスを利用したりする際に、契約内容について十分理解した上で契約をしていますか。(1つだけ○を付けてください)

契約内容について『理解している』人は 89.1%

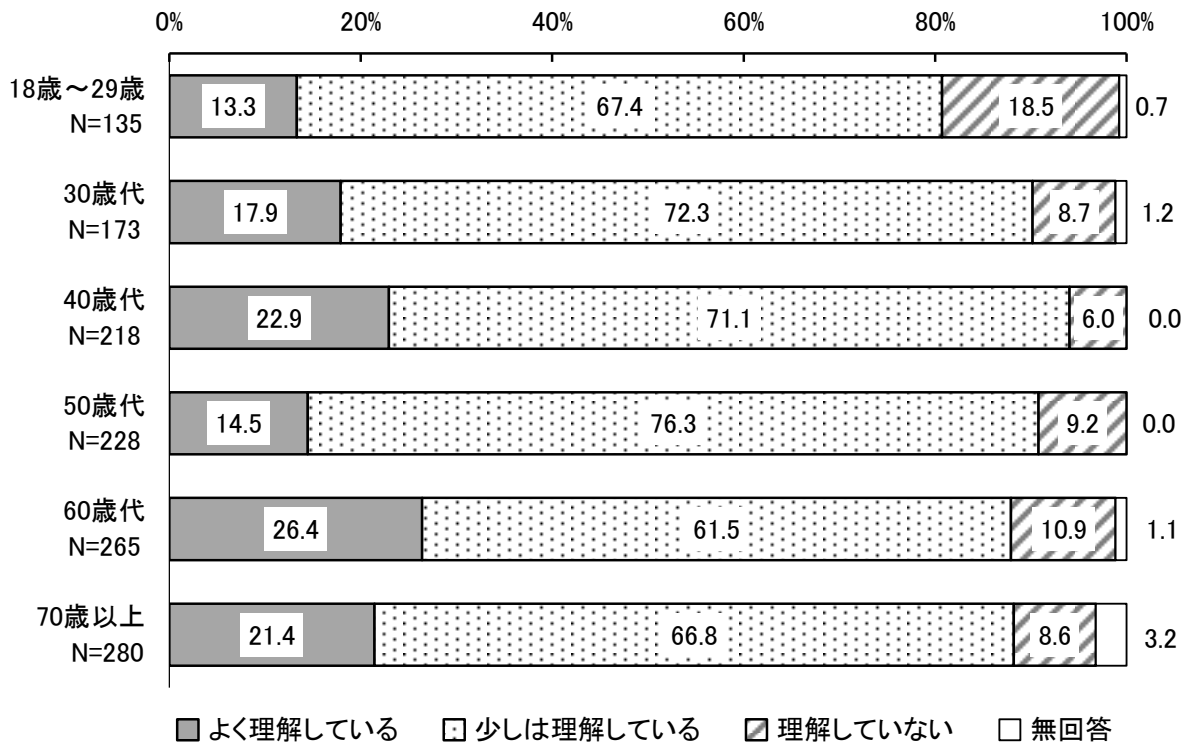


「よく理解している」(20.1%)と「少しは理解している」(69.0%)を合わせた『理解している』は 89.1%となった。

年代別でみると、『理解している』の回答割合が最も低いのは 18 歳～29 歳の 80.7%であったが、すべての年代で 8 割を超えていた。

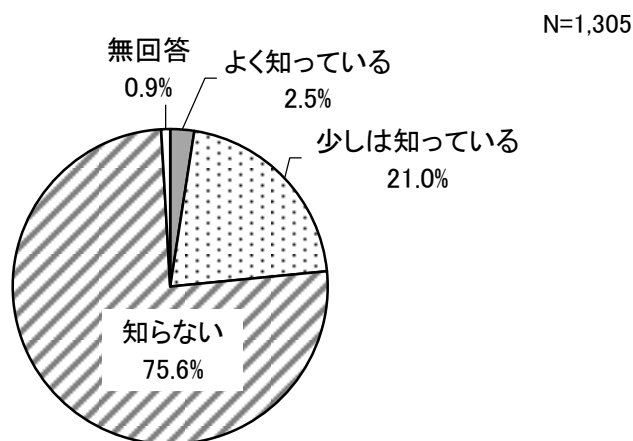
一方で、「よく理解している」に焦点を当てると、全体で 20.1%、年代別では最も高い 60 歳代で 26.4%、最も低い 18 歳～29 歳では 13.3%となり、決して高い数値とは言えない。実際、くらしのセンターに寄せられる相談には、契約内容を理解せずに契約したために生じたトラブルも多い。契約は消費者行動の基礎的知識であるため、理解度を一層高めるような施策を実施する必要がある。

【年代別】



問 35 個人の消費行動が、今、そしてこれからの社会・経済や地球環境に影響を及ぼすことを自覚して、よりよい社会にしようとすることを「消費者市民社会」といいますが、あなたはこの言葉をご存じですか。（1つだけ○を付けてください）

「消費者市民社会」の『認知度』は 23.5%

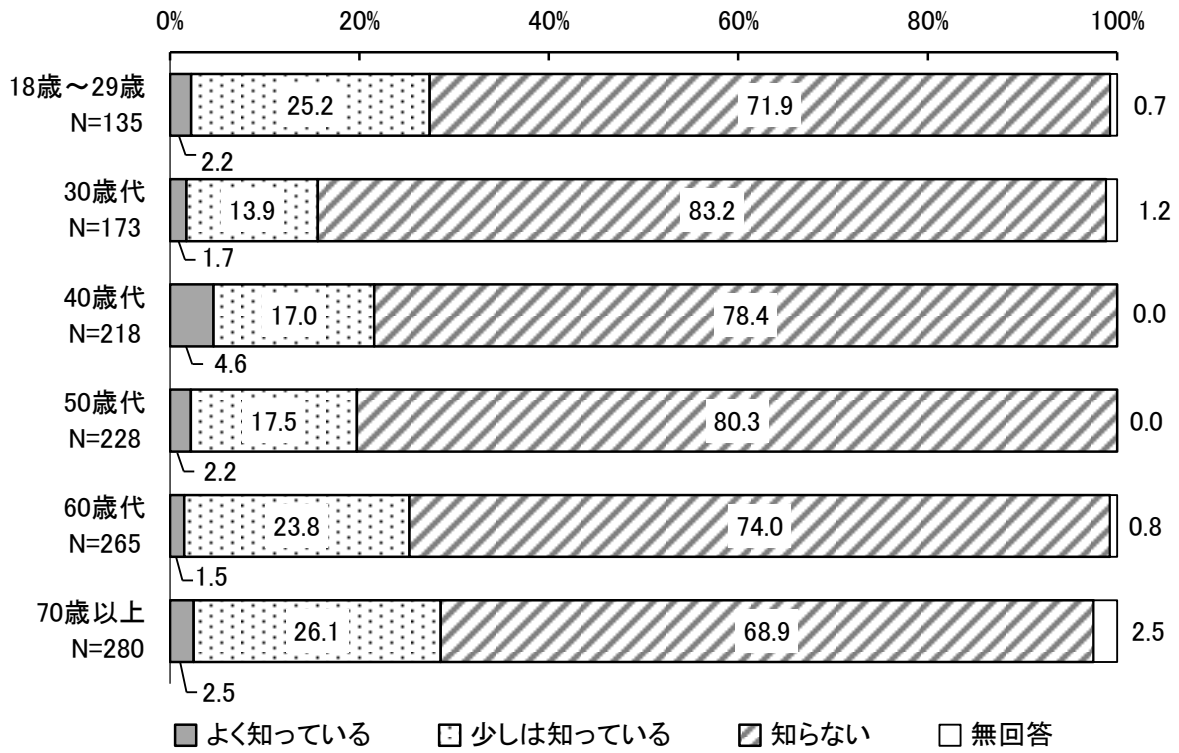


「よく知っている」(2.5%)と「少しは知っている」(21.0%)を合わせた『認知度』は23.5%となり、「知らない」が75.6%となった。

年代別でみると、『認知度』が低いのは30歳代から50歳代までで、30歳代が15.6%、40歳代が21.6%、50歳代が19.7%となった。

全体として『認知度』が低く、「消費者市民社会」という言葉自体が広まっていないことから、言葉とともに、その内容を分かりやすく普及・啓発する施策を継続的に実施する必要がある。

【年代別】

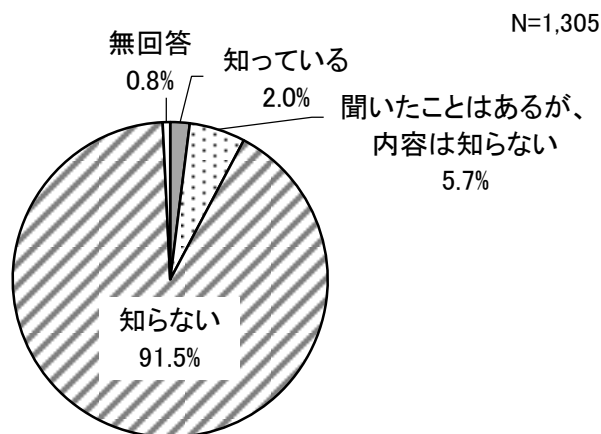


問 36 あなたは、「エシカル消費※」という言葉をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

※エシカルとは、倫理的という意味です。また、環境や社会に配慮した製品やサービスを選んで消費することを「エシカル消費」といいます。

「エシカル消費」を知っている人は 2.0%

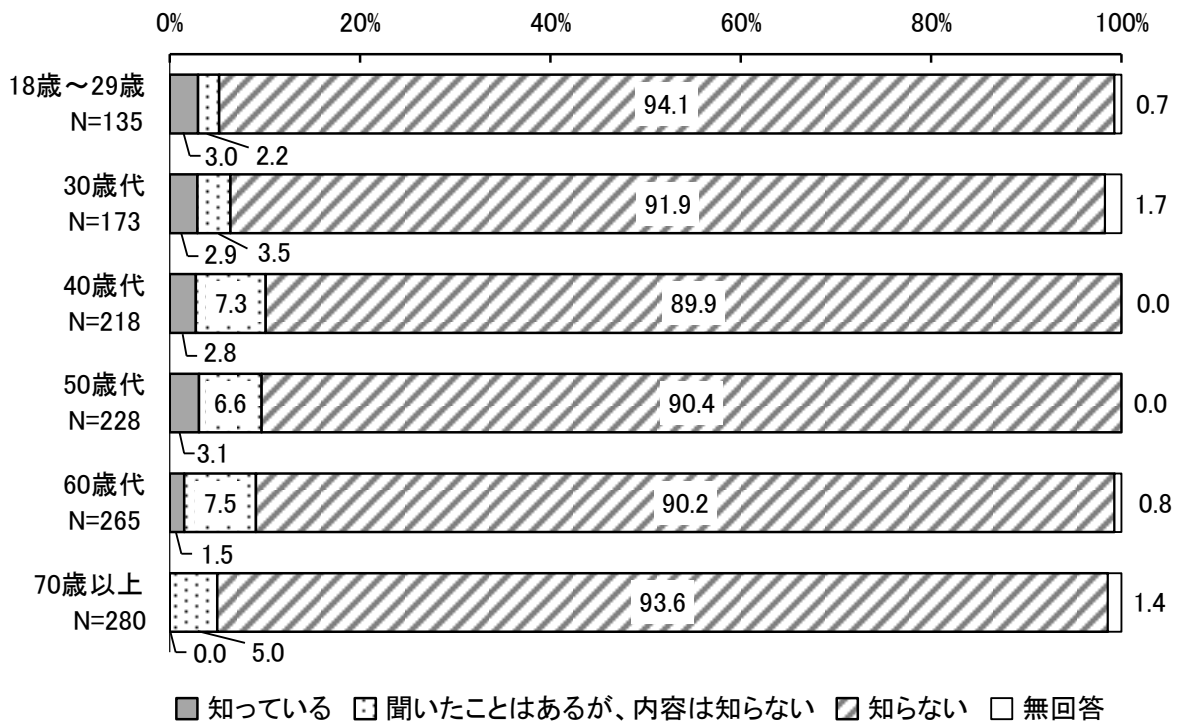


「知っている」はわずか2.0%にとどまり、「聞いたことはあるが、内容は知らない」は5.7%、「知らない」が91.5%となった。

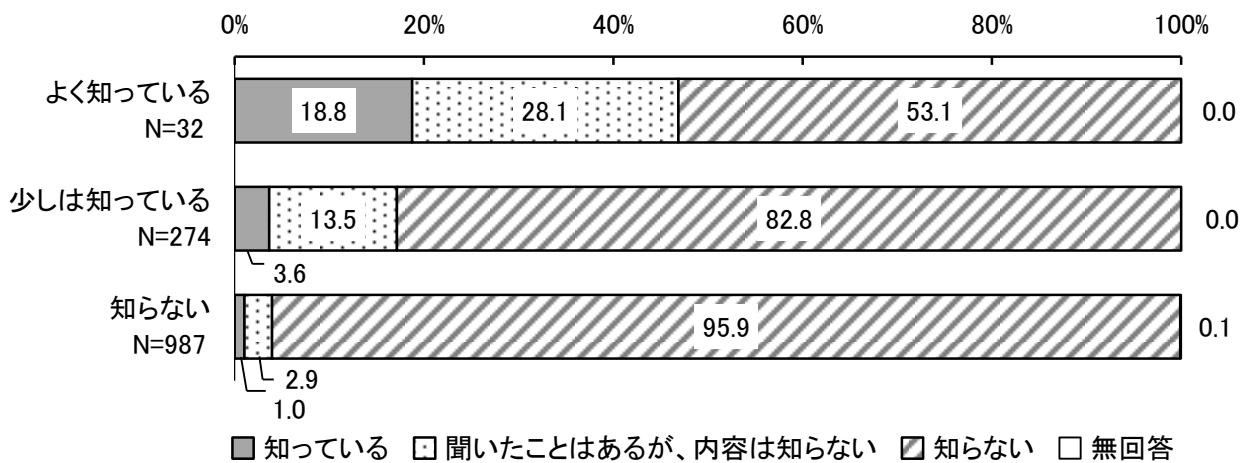
年代別でみると、「知っている」の回答割合が最も高いのは50歳代の3.1%、次いで18歳～29歳の3.0%で、その他の年代では3.0%を下回った。

認知度は極めて低いですが、エシカル消費の普及・啓発は、公正で持続可能な社会を実現することを目指すSDGs推進の施策の一つであり、積極的に周知に努める必要がある。

【年代別】



【「消費者市民社会」の認知度別】

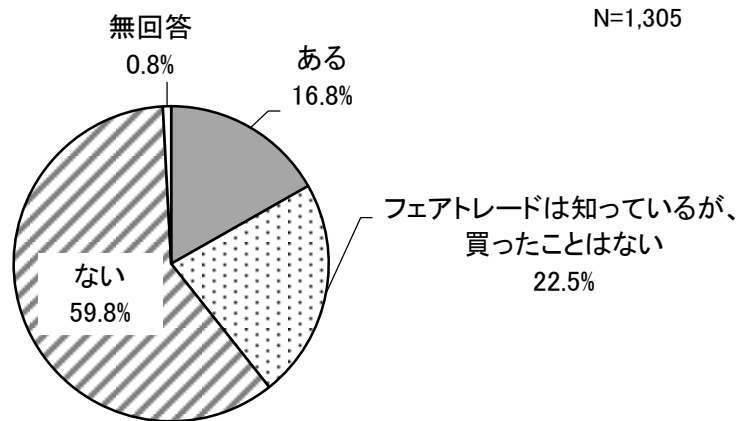


問 37 あなたは、フェアトレード※商品を買ったことがありますか。

(1つだけ○を付けてください)

※フェアトレードとは、発展途上国で作られた作物や製品を「適正な価格」で「継続的に取引」することによって、立場の弱い発展途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」です。

フェアトレード商品を買ったことがある人は 16.8%



買ったことが「ある」が 16.8%、「フェアトレードは知っているが、買ったことはない」が 22.5%であり、この2項目を合わせたフェアトレードについての『認知度』は 39.3%となった。最も高かったのは「買ったことがない」(59.8%)で、フェアトレード自体を知らない人が6割近くを占める結果となった。

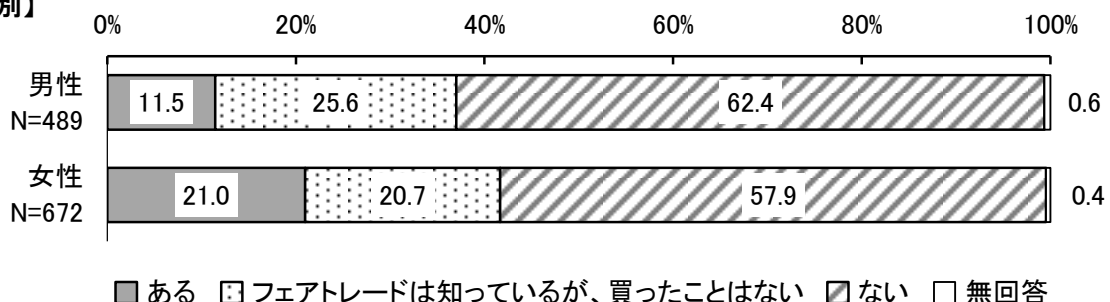
性別でみると、『認知度』では男性 37.1%、女性 41.7%と女性の方が 4.6 ポイント高かった。また、買ったことが「ある」では、男性 11.5%、女性 21.0%で女性の方が 9.5 ポイント高く、『認知度』よりも差が開いた。フェアトレード商品の購入では、女性の方が積極的であるといえる。

年代別でみると、『認知度』は 50 歳代以下で4割を上回り、最も『認知度』が高かったのは 40 歳代の 55.1%となった。買ったことが「ある」の回答割合が最も高いのも 40 歳代の 31.7%であった。

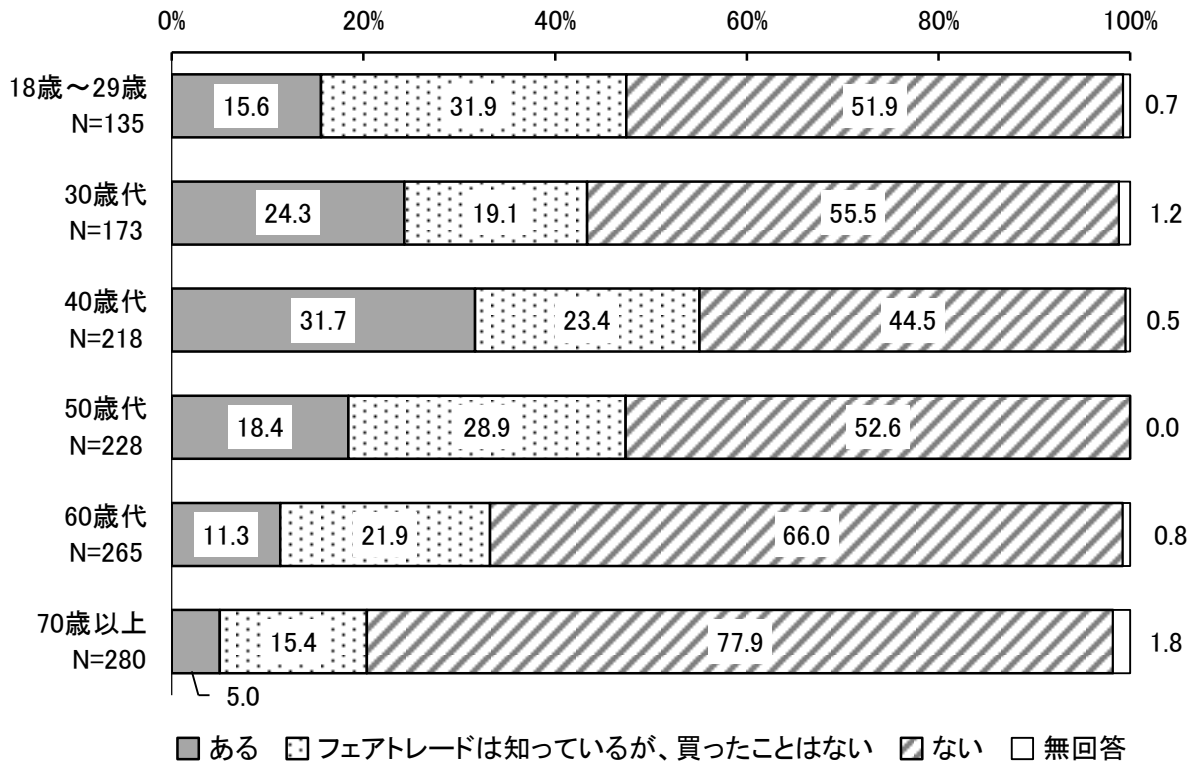
行政区別でみると、『認知度』は中区が 48.2%で最も高く、最も低い天竜区とは 19.1 ポイントの差がみられた。これは、フェアトレード商品を扱う店舗やイベントなどが多い中区が、他区よりも知る機会が多いことが影響していると考えられる。

今後はフェアトレードの『認知度』を上げるとともに、フェアトレード商品の取扱店舗の拡充や消費者の購買意欲の向上など、実際の消費行動へとつなげるための施策を実施する必要がある。

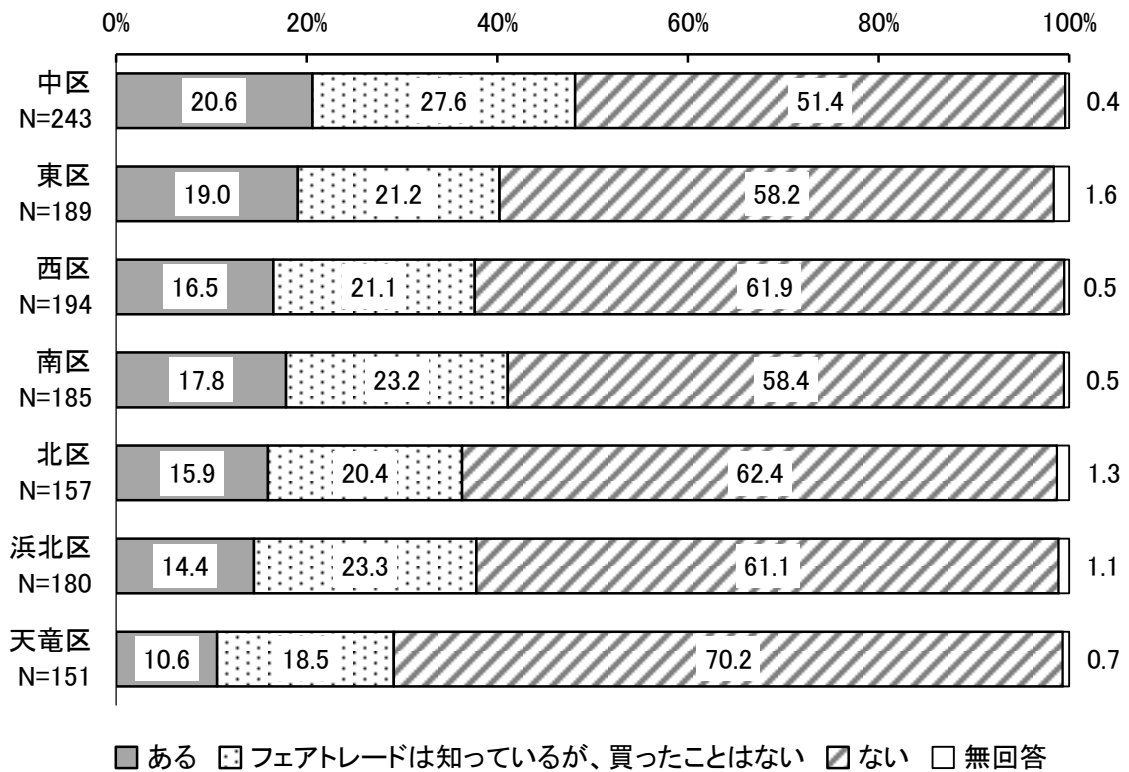
【性別】



【年代別】



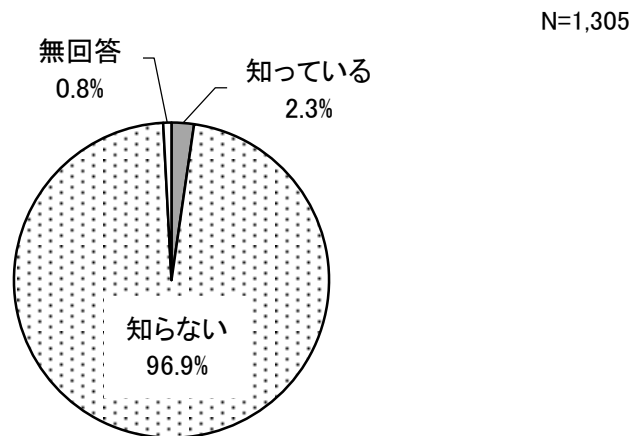
【行政区別】



問 38 浜松市は、2017 年 11 月に全国で 4 番目のフェアトレードタウン※になりましたが、
ご存じですか。（1つだけ○を付けてください）

※フェアトレードタウンとは、市民団体や商店・企業・行政などが連携し、「まちぐるみ」でフェアトレードの輪を広げていく自治体のことです。

浜松市が 2017 年 11 月に全国で 4 番目のフェアトレードタウンになったことを知っている人は 2.3%

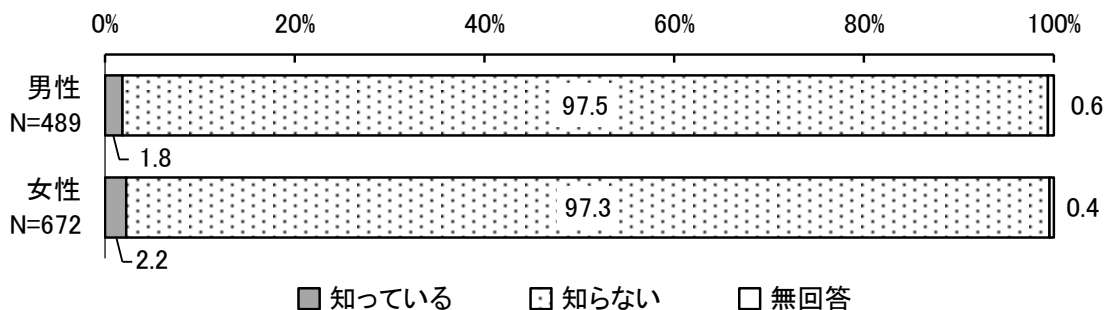


「知っている」はわずか 2.3%であり、「知らない」が 96.9%となった。

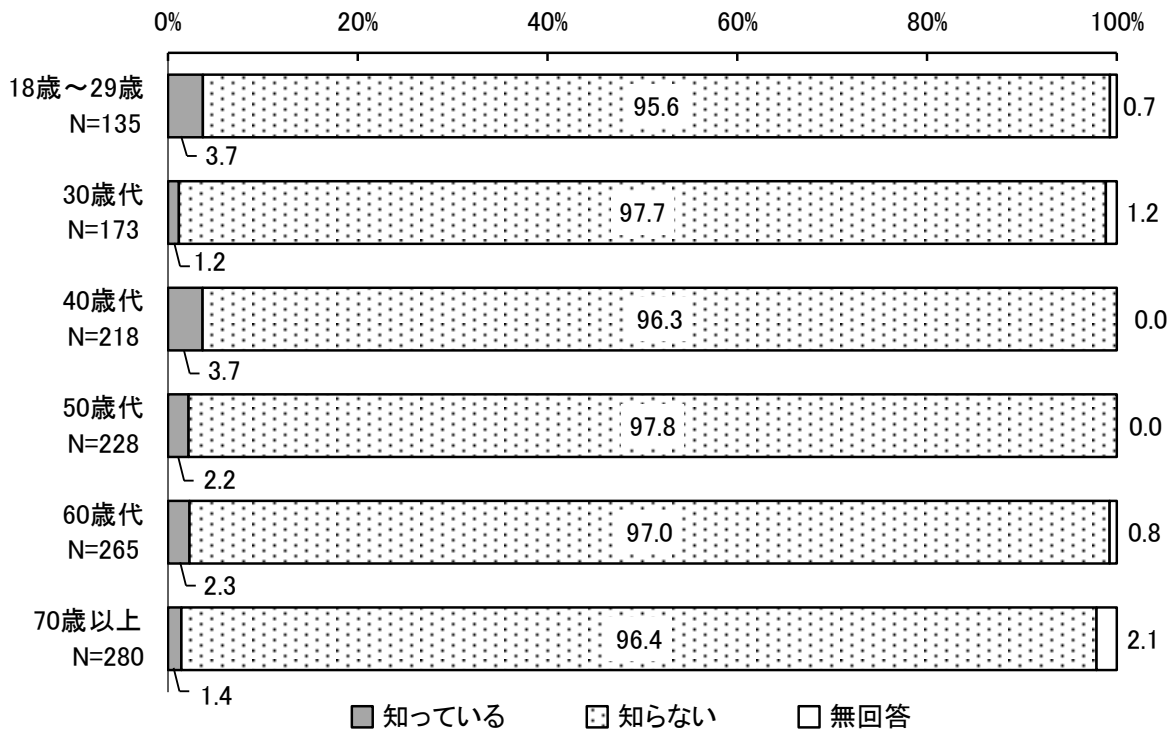
性別・年代別・行政区別のいずれをみても、「知らない」が 9 割を超えている。

認知度は極めて低いですが、フェアトレードタウンの活動推進を通して人、社会、地域、環境に配慮したより良い未来を目指すため、今後も民間の活動団体と連携協働し、普及・啓発活動に努めていく必要がある。

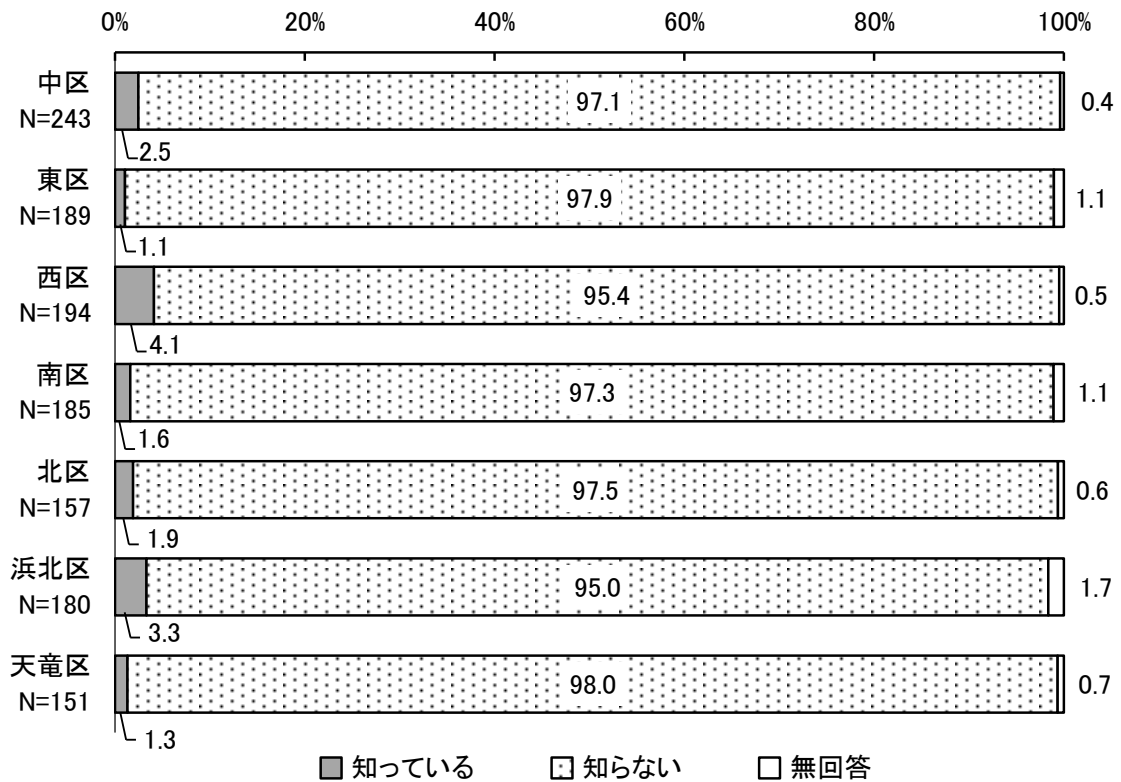
【性別】



【年代別】



【行政区別】

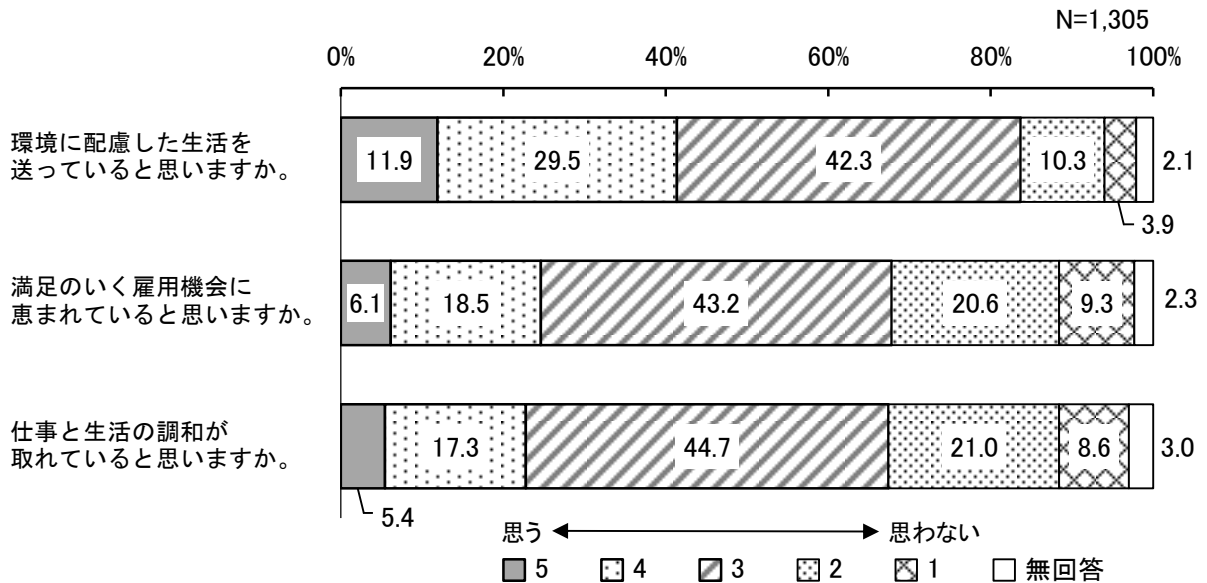


5 浜松市戦略計画 2019 について

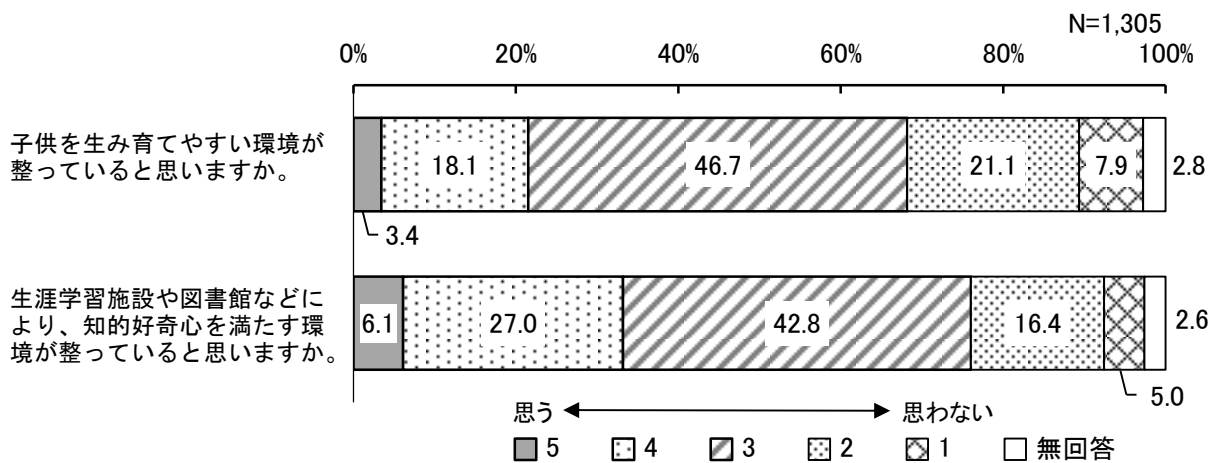
5-1 市政に関する現状認識について

問 39 あなたは日常生活の中で、どのように感じていますか。各項目について「思う」から「思わない」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ選び○を付けてください。

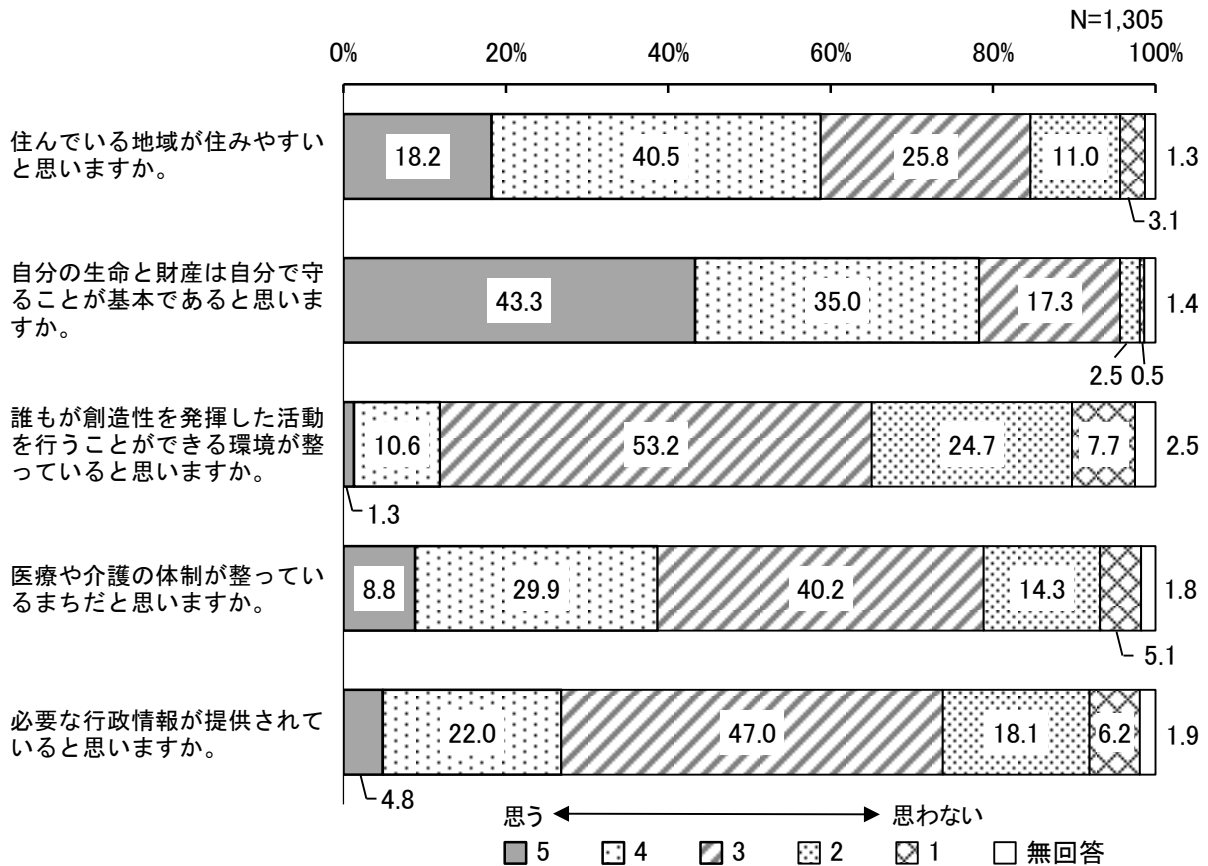
【若者がチャレンジできるまち】



【子育て世代を全力で応援するまち】



【持続可能で創造性あふれるまち】



評価が「4」と「5」を合わせた『思う』の割合が最も高かったのは、「自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。」の78.3%だった。最も低かったのは「誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。」の11.9%だった。

平成30年度調査と比較すると「満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。」「環境に配慮した生活を送っていると思いますか。」の2項目における『思う』の割合の低下に比較的大きな差があった。

93 ページ【年齢別】・【性別】【行政区別】の表は評価が「5」を10点、「4」を7.5点、「3」を5点、「2」を2.5点、「1」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は、10点に近いほど思う度合いが高くなる指数である。

年齢別でみると、いずれの年齢層でも「住んでいる地域が住みやすいと思いますか。」と「自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。」が上位2項目となった。

性別でみても、男女とも「自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。」の指数が最も高かった。

【平成30年度調査との比較（プラス幅が大きい順）】

（単位：％）

	令和元年度 結果(A)	平成30年度 結果(B)	差 (A-B)
自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	78.3	77.1	1.2
生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	33.1	32.3	0.8
誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。	11.9	11.3	0.6
住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	58.7	60.3	▲ 1.6
医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	38.7	40.6	▲ 1.9
仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	22.7	24.7	▲ 2.0
必要な行政情報が提供されていると思いますか。	26.8	29.4	▲ 2.6
子供を生き育てやすい環境が整っていると思いますか。	21.5	24.3	▲ 2.8
満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	24.6	27.9	▲ 3.3
環境に配慮した生活を送っていると思いますか。	41.4	47.0	▲ 5.6

※A・Bの数値は「5」と「4」を合わせた『思う』の割合

◎=6点以上 * =4点以下

【年齢別】

(単位:点)

項目		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
若者がチャレンジできるまち	環境に配慮した生活を送っていると思いますか。	◎ 6.3	5.3	5.6	5.9	◎ 6.1	5.7	◎ 6.3	5.9	◎ 6.2
	満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	5.0	5.2	4.6	5.1	4.6	4.7	4.6	4.6	5.0
	仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	5.6	5.0	4.5	5.0	4.7	4.5	4.6	4.6	4.8
子育て世代を全力で応援するまち	子供を生き育てやすい環境が整っていると思いますか。	5.5	4.9	4.1	4.9	4.7	4.1	4.9	4.9	4.9
	生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	◎ 6.0	5.2	5.3	5.7	5.1	4.8	5.5	5.3	5.5
持続可能なまち	住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	◎ 7.0	◎ 7.0	◎ 6.6	◎ 6.7	◎ 6.3	5.7	◎ 7.0	◎ 6.5	◎ 6.6
	自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	◎ 8.2	◎ 7.8	◎ 7.9	◎ 8.1	◎ 7.8	◎ 8.0	◎ 8.1	◎ 8.2	◎ 8.3
	誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。	5.5	4.2	*4.0	4.3	4.2	4.2	4.6	4.6	4.6
	医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	5.9	5.5	5.5	5.5	5.6	5.4	5.6	5.8	5.9
	必要な行政情報が提供されていると思いますか。	5.6	4.7	4.8	5.2	4.8	4.7	5.2	5.3	5.6

【性別・行政区別】

(単位:点)

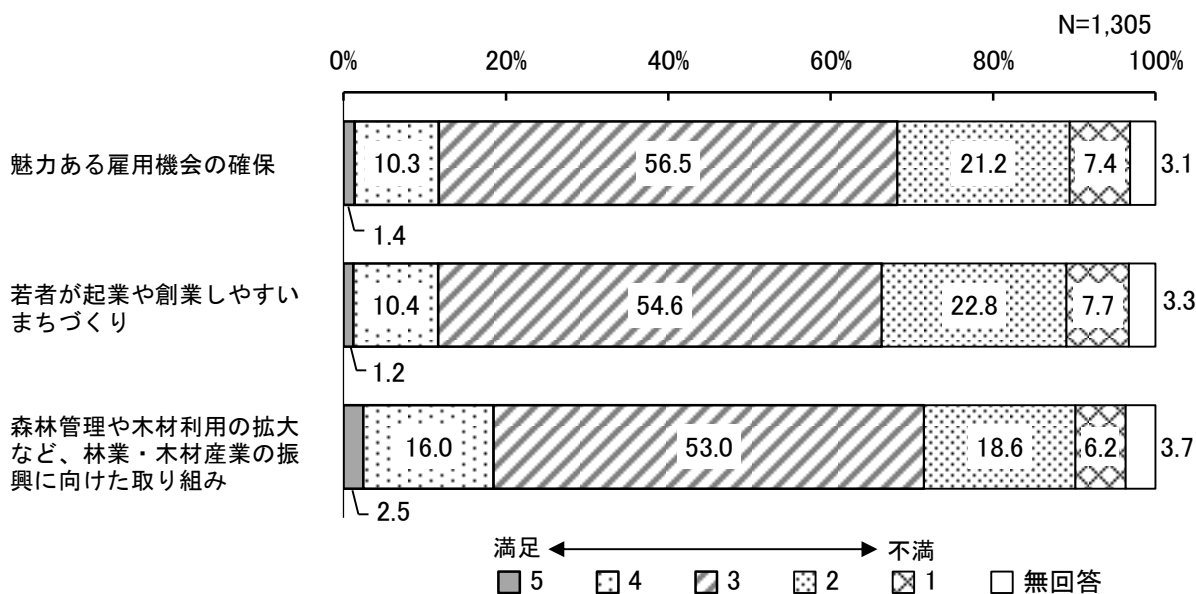
項目		男性	女性	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
若者がチャレンジできるまち	環境に配慮した生活を送っていると思いますか。	5.8	◎ 6.0	5.8	◎ 6.1	5.9	5.8	◎ 6.1	5.9	5.7
	満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	4.9	4.8	5.0	5.1	4.8	4.6	4.6	4.8	4.2
	仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	4.6	4.9	5.1	4.8	4.9	4.6	4.6	4.7	4.2
子育て世代を全力で応援するまち	子供を生き育てやすい環境が整っていると思いますか。	4.6	4.8	4.9	4.8	5.0	4.7	4.8	4.6	*3.9
	生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	5.3	5.4	5.5	5.3	5.8	5.1	5.2	5.5	4.8
持続可能なまち	住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	◎ 6.6	◎ 6.6	◎ 7.2	◎ 6.7	◎ 6.6	◎ 6.4	◎ 6.2	◎ 7.0	5.0
	自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	◎ 8.1	◎ 8.0	◎ 8.1	◎ 8.2	◎ 8.1	◎ 7.9	◎ 7.7	◎ 8.0	◎ 7.8
	誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。	4.3	4.4	4.4	4.4	4.7	4.3	*3.9	4.2	4.2
	医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	5.7	5.6	5.8	◎ 6.0	5.9	5.6	5.5	5.6	4.3
	必要な行政情報が提供されていると思いますか。	4.9	5.2	5.0	5.3	5.3	5.1	4.8	5.1	4.5

※評価が「5」を10点、「4」を7.5点、「3」を5点、「2」を2.5点、「1」を0点と点数を付けて集計し、回答者数で割って算出した平均点

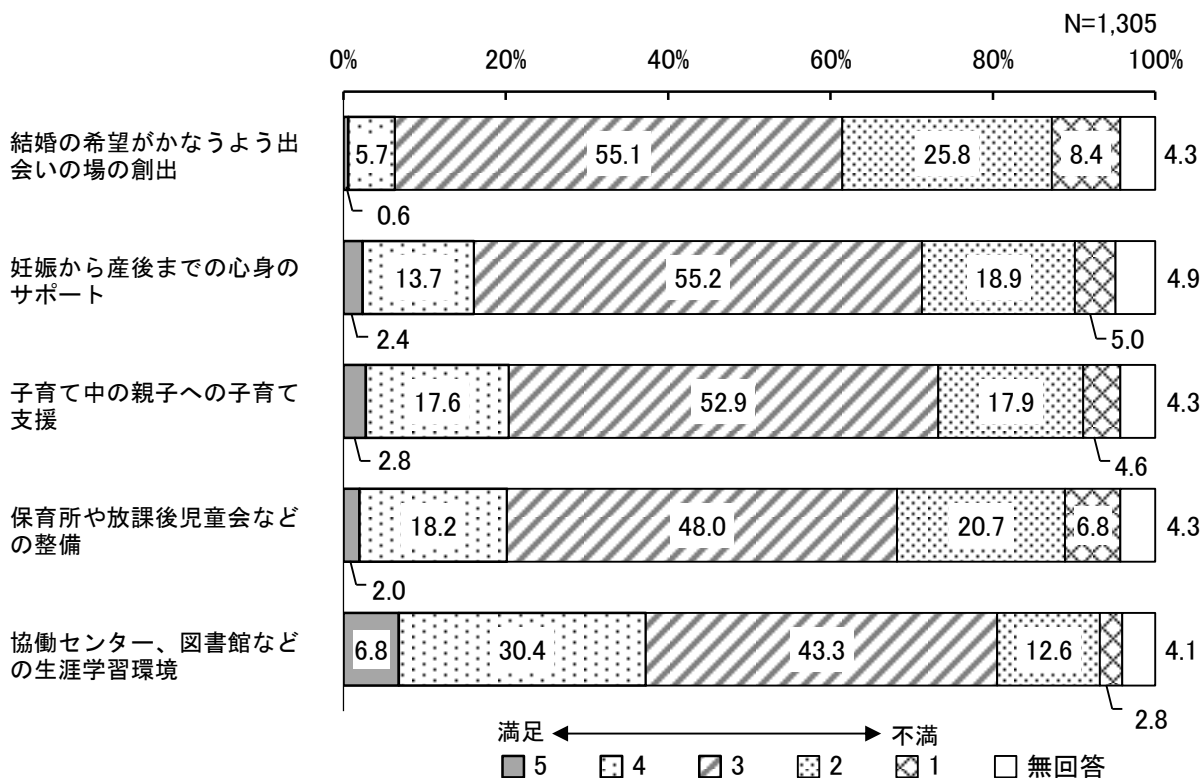
5-2 市の取り組みの満足度評価について

問 40 あなたは、浜松市の取り組みについて日ごろどのように感じていますか。
各項目について「満足」から「不満」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ選び○を付けてください。

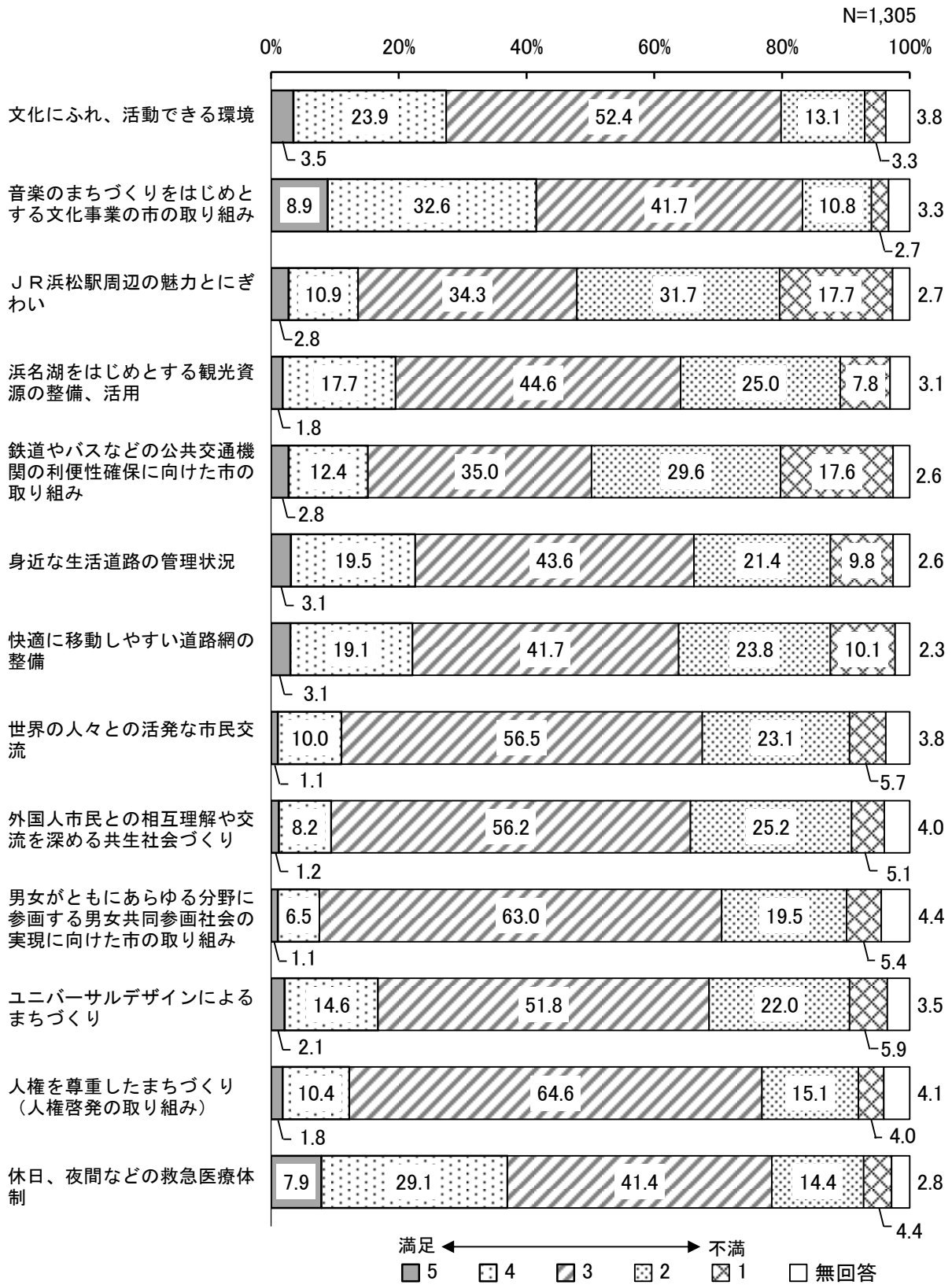
【若者がチャレンジできるまち】



【子育て世代を全力で応援するまち】



【持続可能で創造性あふれるまち】



評価が「4」と「5」を合わせた『満足している』の割合が最も高かったのは、「音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み」の41.5%となり、次いで「協働センター、図書館などの生涯学習環境」(37.2%)、「休日、夜間などの救急医療体制」(37.0%)の順に高かった。

平成30年度調査と比較して、『満足している』割合において、比較的大きな差があったのは「文化にふれ、活動できる環境」「協働センター、図書館などの生涯学習環境」「音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み」「ユニバーサルデザインによるまちづくり」「森林管理や木材利用の拡大など、林業・木材産業の振興に向けた取り組み」の5項目における『満足している』割合の増加と「鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み」「身近な生活道路の管理状況」「JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい」「魅力ある雇用機会の確保」の4項目における『満足している』割合の低下であった。

98～99ページの【年齢別】・【性別】【行政区別】の表は評価が「5」を10点、「4」を7.5点、「3」を5点、「2」を2.5点、「1」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は、10点に近いほど満足度が高くなる指数である。

項目別でみると、【若者がチャレンジできるまち】では、「魅力ある雇用機会の確保」は30歳代が4.0点と指数が低くなっている。「森林管理や木材利用の拡大など、林業・木材産業の振興に向けた取り組み」は10歳代が6.0点と指数が高くなっている。

【子育て世代を全力で応援するまち】のうち、「結婚の希望がかなうよう出会いの場の創出」は50歳代以上よりも40歳代以下の年齢層の指数が高かった。「協働センター、図書館などの生涯学習環境」は10歳代6.3点、75歳以上6.0点と指数が高くなっている。

【持続可能で創造性あふれるまち】は、いずれの年齢層も、「音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み」と「休日、夜間などの救急医療体制」の指数が高かった。

【平成30年度調査との比較（プラス幅が大きい順）】

（単位：％）

	令和元年度 結果(A)	平成30年度 結果(B)	差 (A-B)
文化にふれ、活動できる環境	27.4	22.3	5.1
協働センター、図書館などの生涯学習環境	37.2	33.2	4.0
音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	41.5	38.0	3.5
ユニバーサルデザインによるまちづくり	16.7	13.7	3.0
森林管理や木材利用の拡大など、林業・木材産業の振興に向けた取り組み	18.5	15.6	2.9
保育所や放課後児童会などの整備	20.2	18.5	1.7
人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	12.2	11.3	0.9
世界の人々との活発な市民交流	11.1	10.4	0.7
若者が起業や創業しやすいまちづくり	11.6	11.2	0.4
子育て中の親子への子育て支援	20.4	20.8	▲ 0.4
休日、夜間などの救急医療体制	37.0	37.5	▲ 0.5
外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	9.4	10.0	▲ 0.6
結婚の希望がかなうよう出会いの場の創出	6.3	7.1	▲ 0.8
男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組み	7.6	8.9	▲ 1.3
快適に移動しやすい道路網の整備	22.2	23.7	▲ 1.5
妊娠から産後までの心身のサポート	16.1	18.0	▲ 1.9
浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	19.5	21.5	▲ 2.0
鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	15.2	18.3	▲ 3.1
身近な生活道路の管理状況	22.6	25.8	▲ 3.2
JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい	13.7	17.6	▲ 3.9
魅力ある雇用機会の確保	11.7	15.7	▲ 4.0

※A・Bの数値は「5」と「4」を合わせた『満足』の割合

◎=6点以上 * =4点以下

【年齢別】

(単位:点)

項目		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
若者がチャレンジできるまち	魅力ある雇用機会の確保	4.6	4.4	*4.0	4.5	4.2	4.4	4.6	4.7	4.7
	若者が起業や創業しやすいまちづくり	5.2	4.2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.6	4.6	4.7
	森林管理や木材利用の拡大など、林業・木材産業の振興に向けた取り組み	◎ 6.0	4.9	5.0	5.0	4.5	4.6	4.6	4.6	4.5
子育て世代を全力で応援するまち	結婚の希望がかなうよう出会いの場の創出	4.8	4.2	4.3	4.3	*3.8	*3.8	*4.0	4.1	*3.8
	妊娠から産後までの心身のサポート	4.9	4.8	4.5	5.0	4.6	4.5	4.8	4.8	4.9
	子育て中の親子への子育て支援	5.3	4.8	4.8	5.0	4.8	4.8	4.8	5.1	5.0
	保育所や放課後児童会などの整備	5.8	4.8	4.2	4.7	4.5	4.5	4.5	5.1	5.3
	協働センター、図書館などの生涯学習環境	◎ 6.3	5.7	5.8	5.7	5.4	5.3	5.8	5.9	◎ 6.0
持続可能で創造性あふれるまち	文化にふれ、活動できる環境	◎ 6.7	5.6	5.4	5.4	5.1	4.9	5.3	5.2	5.4
	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	◎ 6.8	◎ 6.3	5.9	◎ 6.2	5.6	5.6	5.8	5.8	5.8
	JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい	4.6	*4.0	*3.4	*3.6	*3.3	*3.5	*3.7	4.2	4.1
	浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	4.9	4.9	4.6	4.5	4.1	4.3	4.5	4.7	5.0
	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	5.0	4.1	4.2	*3.8	*3.3	*3.5	*3.7	*4.0	*4.0
	身近な生活道路の管理状況	5.1	5.0	4.6	4.5	4.5	4.3	4.5	4.8	4.7
	快適に移動しやすい道路網の整備	4.6	4.6	4.5	4.4	4.4	4.4	4.6	4.8	4.5
	世界の人々との活発な市民交流	5.7	4.3	4.4	4.5	4.4	4.3	4.4	4.4	4.3
	外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	5.6	4.3	4.3	4.4	4.2	4.4	4.5	4.3	4.4
	男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組み	5.5	4.4	4.3	4.6	4.3	4.3	4.5	4.5	4.5
	ユニバーサルデザインによるまちづくり	5.8	5.4	4.8	4.6	4.2	4.3	4.5	4.6	4.8
人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	◎ 6.3	5.3	4.7	4.6	4.5	4.6	4.7	5.0	5.0	
休日、夜間などの救急医療体制	◎ 6.7	5.6	5.2	5.3	5.4	5.3	5.6	◎ 6.2	◎ 6.1	

※評価が「5」を10点、「4」を7.5点、「3」を5点、「2」を2.5点、「1」を0点と点数を付けて集計し、回答者数で割って算出した平均点

◎=6点以上 * =4点以下

【性別・行政区別】

(単位:点)

項目		男性	女性	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
若者が できるまち チャレンジ	魅力ある雇用機会の確保	4.5	4.4	4.4	4.6	4.6	4.4	4.3	4.6	*3.8
	若者が起業や創業しやすいまちづくり	4.3	4.4	4.5	4.5	4.5	4.2	4.2	4.6	*3.6
	森林管理や木材利用の拡大など、林業・木材産業の振興に向けた取り組み	4.6	4.9	4.8	4.7	4.8	4.9	4.7	5.1	4.1
子育て 世代を 全力で 応援する まち	結婚の希望がかなうよう出会いの場の創出	*3.9	4.2	4.2	4.3	4.2	*4.0	*3.8	4.2	*3.5
	妊娠から産後までの心身のサポート	4.7	4.8	4.7	4.9	4.9	4.7	4.7	4.9	*4.0
	子育て中の親子への子育て支援	4.8	5.0	4.9	5.0	5.2	4.8	4.9	5.1	4.3
	保育所や放課後児童会などの整備	4.7	4.7	4.6	4.8	5.0	4.6	4.5	4.7	4.4
	協働センター、図書館などの生涯学習環境	5.5	5.8	5.5	5.8	5.9	5.5	5.7	5.9	5.5
持続 可能で 創造性 あふれる まち	文化にふれ、活動できる環境	5.1	5.5	5.2	5.5	5.5	5.2	5.1	5.6	4.9
	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	5.8	◎ 6.0	◎ 6.0	5.9	5.9	◎ 6.2	5.7	◎ 6.1	5.3
	JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい	*3.5	*3.9	*3.2	*3.9	*4.0	*3.3	*3.6	*3.9	4.2
	浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	4.3	4.7	4.2	4.7	4.5	4.5	4.2	4.8	4.7
	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	*3.7	*3.9	*3.9	*4.0	4.1	*3.9	*3.7	*3.9	*2.9
	身近な生活道路の管理状況	4.6	4.7	4.9	4.8	5.0	4.6	4.3	4.8	*3.5
	快適に移動しやすい道路網の整備	4.6	4.6	4.5	4.8	5.0	4.5	4.2	4.9	*3.7
	世界の人々との活発な市民交流	4.3	4.5	4.3	4.5	4.6	4.4	4.2	4.7	4.4
	外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	4.2	4.4	4.2	4.4	4.6	4.3	4.2	4.5	4.3
	男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組み	4.5	4.4	4.3	4.4	4.5	4.4	4.5	4.6	4.3
	ユニバーサルデザインによるまちづくり	4.5	4.7	4.4	4.7	4.6	4.7	4.5	4.9	4.3
	人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	4.8	4.7	4.6	4.9	4.9	4.8	4.6	4.9	4.6
休日、夜間などの救急医療体制	5.6	5.5	5.7	5.9	◎ 6.0	5.6	5.6	5.2	4.8	

※評価が「5」を10点、「4」を7.5点、「3」を5点、「2」を2.5点、「1」を0点と点数を付けて集計し、回答者数で割って算出した平均点

付録 調査票

— あなたの声を市政に生かす —

市民アンケート調査（第46回） 2019



日ごろ、市政の推進につきましては、ご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、令和時代が幕を開けました。浜松市では、これまでも市民の皆さまのお考えを伺うことで市政の充実に努めてまいりました。新しい時代を迎え、市民の皆さまの暮らしが一層豊かになるよう、市民アンケート調査を実施し、今後のまちづくりの基礎調査として活用していきたいと考えております。

この調査を実施するにあたり、市内在住の満18歳以上の皆さまの中から無作為に3,000人の方々を選ばせていただきました。お忙しいところ誠にお手数ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご回答くださいますようお願いいたします。

なお、調査結果につきましては、広報はままつや浜松市公式Webサイト（ホームページ）などで報告させていただく予定です。

2019年7月 浜松市長 鈴木康友

<ご回答についてのごお願い>

1. 封書のあて名の方が、ご回答くださいますようお願いいたします。
2. ご回答は、各設問に該当する番号を選択肢の中から選んで、○で囲んでください。
また、「その他」を選んだ方は、その具体的な内容をご記入ください。
3. この調査結果は、上記目的以外に使用することはなく、内容についてご迷惑をお掛けすることはありません。
4. 7月31日（水）までにこの用紙を同封の封筒に入れて、切手を貼らずにご投函ください。
5. ご不明な点は、広聴広報課 市民コールセンターグループ ☎（053）457-2023 へお問い合わせください。

～ あなたはご存じですか？ ～

問1 次の項目について、あなたはご存じですか。1～3のうちから1つ選んで○を付けてください。

	名称も内容も 知っている	名称だけは 知っている	知らない
① 市制記念日 ※浜松市では市制施行を記念して、7月1日を市制記念日として定めています。	1 知っている	/	2 知らない
② 協働センター ※2012年4月から地域自治センターが、2013年4月から公民館が、それぞれ「協働センター」となりました。 ※協働センターは、市民に身近な行政サービス提供組織として、地域づくりや生涯学習、窓口サービスなどの業務を行っています。	1	2	3
③ ユニバーサルデザイン ※ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、国籍などに関係なく、誰もが安全で安心、快適な暮らしができるように「人づくり」や「ものづくり」、「環境づくり」を行っていかこうとする考え方のことです。	1	2	3
④ 浜松市快適で良好な生活環境を確保する条例 (通称：市民マナー条例) ※歩きタバコ・吸い殻や空き缶などのポイ捨て・落書きの禁止や、飼い犬・ねこのふんの適正な処理、身体障害者用駐車場の適正な利用を定めた条例です。	1	2	3

～ 浜松市歌について ～

問2 浜松市では、2007年、新たに浜松市歌を制定しました。あなたは市歌をご存じですか。また、歌うことができますか。

(1つだけ○を付けてください)

<p>1. 市歌があることを知っていて、歌うこともできる</p> <p>2. 市歌があることは知っているが、歌うことはできない</p> <p>3. 市歌があることを知らなかった</p>
--

問3 問2で「1. 市歌があることを知っていて、歌うこともできる」「2. 市歌があることは知っているが、歌うことはできない」とお答えされた方に伺います。市歌をどこかで聴いたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

<p>1. 市主催のイベント</p> <p>2. 入学式・卒業式などの学校行事（子供などが参加している行事を含む）</p> <p>3. 市役所など公共施設での館内放送</p> <p>4. カラオケ配信</p> <p>5. テレビ・ラジオなど</p> <p>6. 民間主催のイベント</p> <p>7. その他（具体的に： _____）</p> <p>8. 聴いたことがない</p>
--

～ 子育て支援について ～

問4 現在、あなたは18歳までの子供を子育て中ですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問5 問4で「1. はい」とお答えされた方に伺います。あなたの子供は次のどれに該当しますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | |
|-----------|--------|
| 1. 小学校入学前 | 2. 小学生 |
| 3. 中学生 | 4. 高校生 |
| 5. 専門学校生 | 6. その他 |

問6 浜松市では、保育所整備、子育て支援ひろば、子供の医療費助成など子育てに関する支援を行っています。あなたは、このような支援によって、子育てがしやすくなっていると思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|--------------|----------|
| 1. 思う | 2. 思わない |
| 3. どちらともいえない | 4. 分からない |

問7 問6で「2. 思わない」「3. どちらともいえない」「4. 分からない」とお答えされた方に伺います。どのような環境が整えば子育てがしやすくなったと感じると思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境 |
| 2. 子育ての悩みを相談できる人が身近にいる環境 |
| 3. 保育園などの入園希望者がすべて受け入れられる環境 |
| 4. 子育て中の親子の交流の場が身近にある環境 |
| 5. 困った時や緊急時に、安心して子供を預けられる環境 |
| 6. 放課後児童会（学童保育）の利用希望者がすべて受け入れられる環境 |
| 7. 子供たちが安心して遊べる場所が身近にある環境 |
| 8. 児童手当などの経済的支援が充実した環境 |
| 9. 医療費助成が充実した環境 |
| 10. 子育てに関する必要な情報がすぐに手に入る環境 |
| 11. 分からない |
| 12. その他（具体的に： _____) |

～ SDGsの達成に向けて ～

(SDGs:Sustainable Development Goals)

2015年9月、国連サミットにおいて、持続可能な開発目標(SDGs)が採択されました。

この目標は、国、自治体、企業、NPOといったさまざまな主体が協働して取り組む国際社会の共通目標として掲げられ、2016年から2030年までの15年間で達成することを目指しています。

日本も2016年5月、内閣総理大臣を本部長、全大臣をメンバーとする「SDGs推進本部」を設置し、国を挙げた取り組みを開始しました。そして、その一環として2018年、SDGsに関連した先進的な施策を行っている29自治体を「SDGs未来都市」に選定しました。

浜松市も「SDGs未来都市」29自治体のうちの一つに選ばれ、官民を挙げた再生可能エネルギー導入の促進やFSC材認証を活用した林業の成長産業化、外国人の子供の教育支援など多文化共生社会の実現等SDGsの達成に向けた取り組みを進めています。

《SDGs 17の目標》



問8 あなたは「SDGs」をご存じでしたか。 (1つだけ○を付けてください)

1. 名称も内容も知っていた	2. 名称だけは知っていた	3. 知らなかった
----------------	---------------	-----------

他にも、浜松市の行っているさまざまな分野での取り組みの中には、SDGsの達成に向けた取り組みと重なるものが多くあります。そのような取り組みの一部について、以下伺ってまいります。

《再生可能エネルギーについて》



主に関連する目標：7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
 関連事業：太陽光発電の導入ほか

問9 あなたは「再生可能エネルギー※」について関心がありますか。(1つだけ○を付けてください)

1. 関心がある	2. 関心がない	3. どちらともいえない
----------	----------	--------------

※再生可能エネルギーとは、石油などの化石エネルギーではなく、太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱、その他の自然界に存在する熱・バイオマスなど非化石エネルギー由来のエネルギーのことです。

問10 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」の活用機器（太陽光発電、太陽熱利用、ペレットストーブ、薪ストーブなど）を導入していますか。(1つだけ○を付けてください)

1. 導入している	2. 導入していない	3. 導入したいと考えている
-----------	------------	----------------

問11 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」から作られた電気を使用することについて関心がありますか。(1つだけ○を付けてください)

1. 関心がある	2. 関心がない	3. どちらともいえない
----------	----------	--------------

《F S C森林認証について》



主に関連する目標：15陸の豊かさを守ろう
関連事業：F S C森林認証の推進ほか

問 12 あなたは「F S C森林認証※」をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|----------------|---------------|---------|
| 1. 名称も内容も知っている | 2. 名称だけは知っている | 3. 知らない |
|----------------|---------------|---------|

※「F S C森林認証」とは森林が適切に管理されているかを、世界基準に沿って審査、認証する仕組みです。

問 13 あなたは「F S C森林認証」の森林を、浜松市が市町村別で最も広い面積（約 45,270ha（2019年4月1日現在））有していることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 14 あなたは2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの施設（有明体操競技場、選手村ビレッジプラザなど）に、浜松市の「F S C森林認証」の森林から生産された木材が使用されることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

《多文化共生について》



主に関連する目標：4質の高い教育をみんなに
関連事業：外国人の子供の教育支援ほか

問 15 あなたは、出入国管理及び難民認定法が改正され、本年4月から新たな外国人材の受け入れが始まったことをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 16 あなたは、市が行っている多文化共生施策のうち、最も力を入れるべき取り組みはどれだと思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 外国人の子供の教育支援 | 2. 日本語の習得支援 |
| 3. 生活・行政情報の多言語による提供 | 4. 地域社会への参画促進 |
| 5. 多文化共生に関する啓発や教育、理解促進 | 6. 交流・異文化体験の機会拡大 |
| 7. 生活ルールの順守と社会的義務の遂行 | |

問 17 市では、外国人の子供の教育は地域の重要な課題と捉え、外国人の子供の不就学を生まない取り組みを推進しています。あなたは、「外国人の子供の不就学ゼロ作戦事業」をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

《スポーツの推進について》



主に関連する目標：3すべての人に健康と福祉を
関連事業：スポーツの普及・活性化事業ほか

浜松市では、「スポーツ人材バンク事業」や「トルシーダブラジル（ブラジルパラリンピック選手団の事前合宿受け入れをサポートするボランティア募集）」を実施し、スポーツボランティアとして継続的に活動できるようなシステムの充実を図っているところです。

問 18 あなたは、過去1年間にスポーツ活動の支援をどの程度行いましたか。

スポーツイベントや各種競技の大会におけるボランティア活動のほか、スポーツ少年団や小・中学校、高校、大学の部活動、総合型地域スポーツクラブ、地域のスポーツ活動などのお手伝いや運営、指導など、あらゆるスポーツ活動の支援を含みます。

（1つだけ○を付けてください）

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. ほぼ毎日、支援活動を行った | 2. 月に数回のペースで支援活動を行った |
| 3. 年に1回は支援活動を行った | 4. 全く支援活動を行わなかった |

問 19 あなたは、過去1年間でスポーツ（運動）をどの程度行いましたか。ウォーキングから本格的な競技スポーツまで、あらゆる運動を含みます。

（1つだけ○を付けてください）

- | | | |
|-------------|-----------|-------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週3回以上 | 3. 週1回以上 |
| 4. 月に1～2回程度 | 5. 年に数回程度 | 6. 年に1回もしない |

問 20 あなたは、過去1年間で実際に会場に出向いてスポーツ観戦・応援をどの程度行いましたか。プロスポーツだけでなく、地域のスポーツ活動や少年団などの観戦・応援も含みます。

（1つだけ○を付けてください）

- | | | |
|-----------|-----------|------------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 月に数回程度 | 3. 月に1回程度 |
| 4. 年に数回程度 | 5. 年に1回程度 | 6. スポーツ観戦・応援をしない |

《女性の活躍について》



主に関連する目標：5ジェンダー平等を実現しよう
関連事業：ワーク・ライフ・バランスの推進事業ほか

問 21 「夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい」という考え方について、あなたはどのように考えますか。また、「5. 分からない」とお答えされた方は、その理由を教えてください。

（1つだけ○を付けてください）

- | |
|-------------------|
| 1. そう思う |
| 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらかといえばそう思わない |
| 4. そう思わない |
| 5. 分からない |

（理由：

）

問 22 問 21 で「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」とお答えされた方に伺います。それはなぜですか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 日本の伝統的な家族のあり方だと思うから |
| 2. 自分の両親も役割分担をしていたから |
| 3. 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから |
| 4. 妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとってよいと思うから |
| 5. 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから |
| 6. その他 (具体的に: _____) |

問 23 家庭生活の中で、あなたが家事・育児・介護などに従事する 1 日の平均時間はどのくらいですか。平日、休日それぞれについてご記入ください。

(数字を記入してください)

【平日】	時間	分	【休日】	時間	分

《生物多様性について》



主に関連する目標：15 陸の豊かさを守ろう
関連事業：生物多様性保全事業ほか

問 24 あなたは「生物多様性*」についてご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|----------------|---------------|---------|
| 1. 名称も内容も知っている | 2. 名称だけは知っている | 3. 知らない |
|----------------|---------------|---------|

※生物多様性とは、生き物の豊かな個性とつながりのことです。すべての生き物には違い(「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」)があり、互いにつながり合い、支え合って生きています。

問 25 あなたは、市内でタイワンリスやアライグマなど外来種*による被害があることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 知っている |
| 2. 外来種がいることは知っているが、被害があることは知らない |
| 3. 外来種がいることも知らない |

※外来種とは、人為的に移入された、本来その地域にいなかった生物のことです。

問 26 あなたは、「海洋プラスチックごみ問題*」をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

※海洋プラスチックごみ問題とは、海に漂流するプラスチックごみによる地球規模の環境汚染のことです。プラスチックは容易に自然分解されず、海洋生物がビニール袋を餌と間違えて食べてしまうなど、生態系への影響が報告されています。また、観光や漁業などの産業にも甚大な損失を与えています。

《防災対策について》



主に関連する目標：11 住み続けられるまちづくりを
関連事業：防災計画等整備事業ほか

問 27 市が行っている防災対策のうち、あなたがお存じのものをお選びください。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 防潮堤を建設していること
2. 避難所に避難する人の1日分の食糧備蓄を行っていること
3. 津波・水害のハザードマップの公開
4. 土砂災害危険箇所の周知
5. 住宅の無料耐震診断や耐震補強工事へ補助金を出していること
6. 家具固定の普及啓発や高齢者世帯への固定器具取付作業代の補助金を出していること
7. 携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること
8. 橋の耐震対策を行っていること
9. 市民を対象にした防災講座や防災イベントを行っていること
10. その他(具体的に: _____)
11. どれも知らない

問 28 あなたが災害情報を得る手段を教えてください。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. テレビ
2. ラジオ
3. 防災行政無線(屋外スピーカー、戸別受信機)
4. 携帯電話、スマートフォン、タブレット
5. パソコン

問 29 あなたが外出時に持ち歩く情報受信端末はどれですか。

(主なものに1つだけ○を付けてください)

1. スマートフォン
2. スマートフォン以外の携帯電話、PHS
3. パソコン・タブレット
4. 携帯ラジオ
5. その他(具体的に: _____)
6. 持っていない

問 30 あなたは、高齢者や障がいのある人、妊産婦、乳幼児などのうち、地域の避難所で生活が困難な人のために開設される「福祉避難所」をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

1. 名称も内容も知っている
2. 名称だけは知っている
3. 知らない

問 31 大規模災害が発生し、あなたや周りの人が大きなけが(骨折、大量の出血など)を負った場合、あなたはどこで応急救置をしてもらおうと考えますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 避難所
2. 応急救護所
3. 最寄りの診療所
4. 近隣の中小規模病院
5. 総合病院

問 32 あなたは、災害時に一部の避難所などに併設される「応急救護所」をご存じですか

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称も活動内容も知っている
2. 名称だけは知っている
3. 知らない

《消費生活について》



主に関連する目標：12 つくる責任 つかう責任
関連事業：エシカル消費（フェアトレードなど）の
普及・啓発ほか

問 33 浜松市の「くらしのセンター」では、商品やサービスの契約・解約など消費生活に関する相談、民事（離婚・相続など）に関する相談、交通事故による賠償問題に関する相談などを実施しています。あなたは「くらしのセンター」をご存じですか。

（1つだけ○を付けてください）

- | | | |
|------------------|---------------|---------|
| 1. 名称も業務内容も知っている | 2. 名称だけは知っている | 3. 知らない |
|------------------|---------------|---------|

問 34 あなたは、商品を購入したりサービスを利用したりする際に、契約内容について十分理解した上で契約をしていますか。

（1つだけ○を付けてください）

- | | | |
|-------------|--------------|------------|
| 1. よく理解している | 2. 少しは理解している | 3. 理解していない |
|-------------|--------------|------------|

問 35 個人の消費行動が、今、そしてこれからの社会・経済や地球環境に影響を及ぼすことを自覚して、よりよい社会にしようとするを「消費者市民社会」といいますが、あなたはこの言葉をご存じですか。

（1つだけ○を付けてください）

- | | | |
|------------|-------------|---------|
| 1. よく知っている | 2. 少しは知っている | 3. 知らない |
|------------|-------------|---------|

問 36 あなたは、「エシカル消費※」という言葉をご存じですか。

（1つだけ○を付けてください）

- | | | |
|----------|----------------------|---------|
| 1. 知っている | 2. 聞いたことはあるが、内容は知らない | 3. 知らない |
|----------|----------------------|---------|

※エシカルとは、倫理的という意味です。また、環境や社会に配慮した製品やサービスを選んで消費することを「エシカル消費」といいます。

問 37 あなたは、フェアトレード※商品を買ったことがありますか。

（1つだけ○を付けてください）

- | | | |
|-------|----------------------------|-------|
| 1. ある | 2. フェアトレードは知っているが、買ったことはない | 3. ない |
|-------|----------------------------|-------|

※フェアトレードとは、発展途上国で作られた作物や製品を「適正な価格」で「継続的に取引」することによって、立場の弱い発展途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」です。

問 38 浜松市は、2017年11月に全国で4番目のフェアトレードタウン※になりましたが、ご存じですか。

（1つだけ○を付けてください）

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

※フェアトレードタウンとは、市民団体や商店・企業・行政などが連携し、「まちぐるみ」でフェアトレードの輪を広げていく自治体のことです。

《市の取り組みの満足度評価について》

問 40 あなたは、浜松市の取り組みについて日ごろどのように感じていますか。

各項目について「満足」から「不満」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ選び○を付けてください。

項 目		評 価				
		満 足	←————→			不 満
若者がチャレンジ できるまち	魅力ある雇用機会の確保	5	4	3	2	1
	若者が起業や創業しやすいまちづくり	5	4	3	2	1
	森林管理や木材利用の拡大など、林業・木材産業の振興に向けた取り組み	5	4	3	2	1
子育て世代を全力で 応援するまち	結婚の希望がかなうよう出会いの場の創出	5	4	3	2	1
	妊娠から産後までの心身のサポート	5	4	3	2	1
	子育て中の親子への子育て支援	5	4	3	2	1
	保育所や放課後児童会などの整備	5	4	3	2	1
	協働センター、図書館などの生涯学習環境	5	4	3	2	1
持続可能で創造性あふれるまち	文化にふれ、活動できる環境	5	4	3	2	1
	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	5	4	3	2	1
	J R浜松駅周辺の魅力とにぎわい	5	4	3	2	1
	浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	5	4	3	2	1
	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	5	4	3	2	1
	身近な生活道路の管理状況	5	4	3	2	1
	快適に移動しやすい道路網の整備	5	4	3	2	1
	世界の人々との活発な市民交流	5	4	3	2	1
	外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	5	4	3	2	1
	男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組み	5	4	3	2	1
	ユニバーサルデザイン※によるまちづくり ※高齢者、障がい者、外国人など、すべての人が安心・安全・快適な暮らしができるよう、道路や建物などを整備すると共に、思いやりの心を育んでいこうとする考え方	5	4	3	2	1
	人権を尊重したまちづくり（人権啓発の取り組み）	5	4	3	2	1
休日、夜間などの救急医療体制	5	4	3	2	1	

最後にあなたのことについて記入してください

(項目別に1つだけ○を付けてください)

性別	1. 男	2. 女	
年齢	1. 10歳代 4. 40歳代 7. 65～69歳	2. 20歳代 5. 50歳代 8. 70～74歳	3. 30歳代 6. 60～64歳 9. 75歳以上
国籍	1. 日本 4. フィリピン	2. ブラジル 5. その他 ()	3. 中国
職業	1. 勤め人 4. 専業主婦 (主夫) 6. 無職	2. 商工・サービス・自由業 (自営・家族従事者) 5. 学生 7. その他 ()	3. 農林水産業 (自営・家族従事者)
居住年数	あなたは浜松市 (合併前の旧市町村当時からも含みます) に住んで何年になりますか 1. 3年未満 4. 10年以上 20年未満		
家族数	あなたを含めて何人で住んでいますか 1. 1人 4. 4人		
居住形態	あなたのお住まいは 1. 持ち家 4. 公営住宅		
行政区	あなたが住まいの行政区は 1. 中区 4. 南区 7. 天竜区		
	2. 東区 5. 北区 行政区が分からない場合は、町名をご記入ください → ()		
	3. 西区 6. 浜北区		

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、7月31日(水)までにご投函ください。



令和元年度 市民アンケート調査報告書

令和元年 11 月発行

浜松市企画調整部広聴広報課

〒430-8652 浜松市中区元城町 103 番地の 2

電 話 (053) 457-2023 FAX (053) 457-2028

e-mail koe-g@city.hamamatsu.shizuoka.jp

URL <https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>
